

象 氣

章三好弘之
延幸富
原井藤野下
日花齊佐木

はじめに

富士宮市域の気候は、表日本式の東海気候区に属している。従って四季を通じて寒暑の差が少なく、気候的条件に恵まれている。

しかし、富士宮市域の地形が富士山の山頂から、山麓までの標高差が大きい特徴に加えて、北西部から、南西部にかけて天子山脈（毛無山脈）や星山丘陵などがあるために、場所によって複雑な気象変化を示すことがある。

富士宮市の気象については、従来長期的な気象観測が数箇所で行われていたが、過去においてこれらの資料をもとに本格的な分析が行われたことはない。

そこで、今回は、それ等の観測資料の分析を行うことにより、市民に富士宮市域の気象のことをよく理解してもらい、自然現象に対する安全な市民生活の確保

と、将来の都市づくりに役立つ気象資料を作成する目的で、本調査に取り組んだ。

1 観測地点及び観測項目

富士宮市域は、富士山頂から、山麓に至るまで標高差が大きな地域である。そこで、観測地点は標高差を考慮し、市域全体に散在するように設定した。

幸いなことに、富士宮市内では建設省富士砂防工事事務所や建設省建設大学校中央訓練所、静岡県立農業高等学園、消防本部などが、長年にわたって気象観測をしてきている。そこで、これらの観測所を調査地点に設定し、その観測データを基に分析を行った。

しかし、観測項目については、それぞれの観測所の観測目的により、観測内容が統一を欠いている。

表1 観測地点及び観測項目一覧表

No	観測地点名(略称)	標高 (m)	観測項目					
			気 温			風 向	風 速	降 水 量
			9 時	最 高	最 低			
1	建設省富士砂防工事事務所御中道観測所(御中道)	2,350	○	○	○	○	○	○
2	〃 大 滝観測所(大 滝)	1,700	○	○	○	—	—	○
3	〃 二合目雨量観測所(二合目)	1,340	—	—	—	—	—	○
4	〃 上 井 出観測所(上井出)	1,200	○	○	○	—	—	○
5	〃 品 荒雨量観測所(品 荒)	945	—	—	—	—	—	○
6	〃 笹 原観測所(笹 原)	500	○	○	○	○	○	○
7	〃 大 宮観測所(大 宮)	190	○	○	○	—	—	○
8	天 照 教 社(天 照 教)	1,000	—	—	—	—	—	○
9	建設省建設大学校中央訓練所(建設大学)	900	○	○	○	○	○	○
10	静岡県立高等農業学園(農業学園)	529	○	○	○	○	○	○
11	富士宮市芝川町消防組合消防本部(消防本部)	122	○	○	○	○	○	○
12	富士宮市立上野中学校(上野中)	305	○	○	○	—	—	○
13	富士宮市立富士宮第二中学校(二中)	145	○	○	○	—	—	○
14	富士宮市立黒田小学校(黒田小)	130	○	○	○	—	—	○
15	富士宮市立沼久保小学校(沼久保小)	97	○	○	○	—	—	—

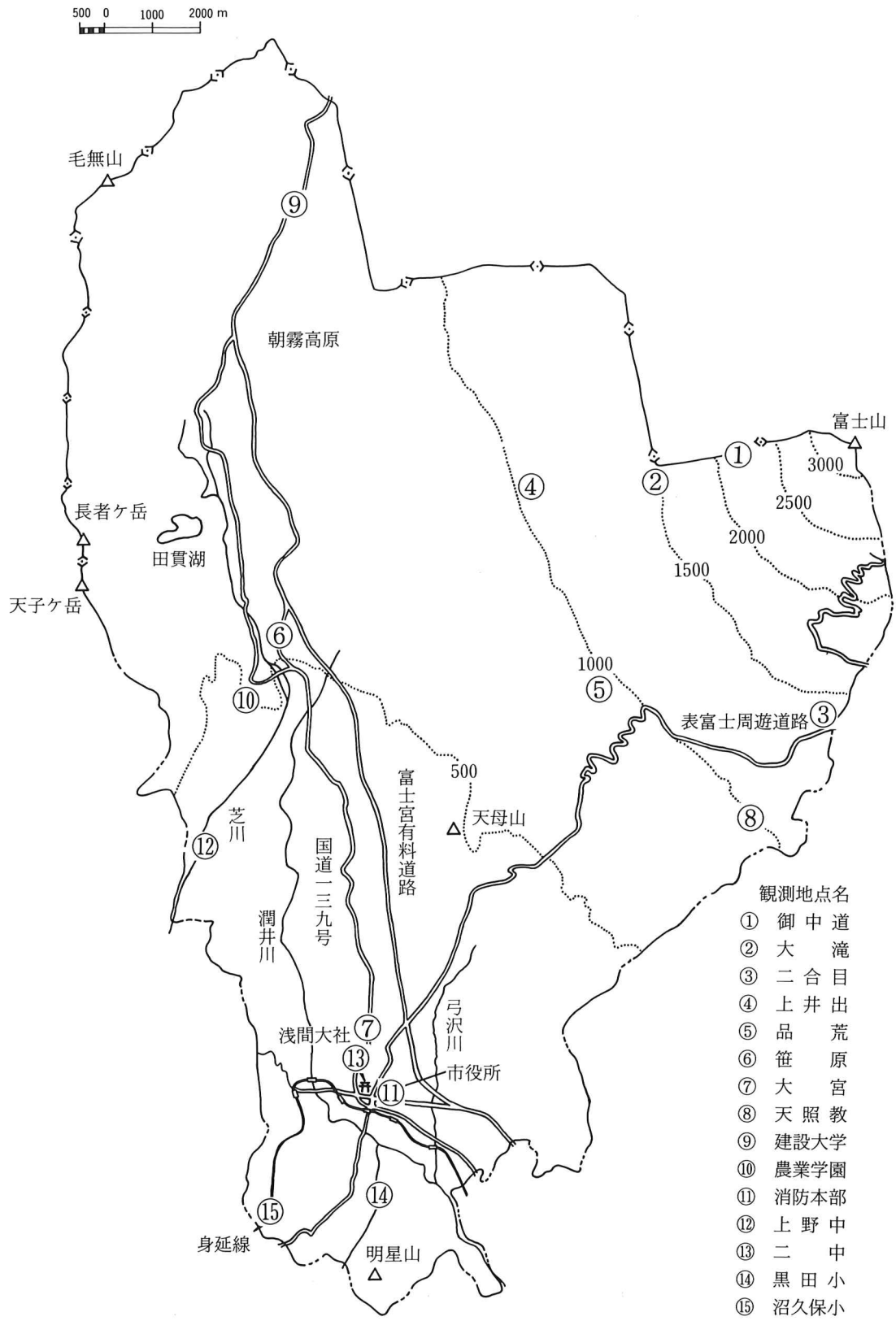


図1 観測地点図

2 観測地点の選定理由

(1) ①：御中道，②：大滝，④：上井出

富士山の大沢崩れを観測するために、建設省が設置した地点である。夏冬、昼夜などにおいて温度差が激しく、降水量が多いなどの気象条件を備えており、富士山の気象を知る上で重要な観測地点である。

(2) ③：二合目，⑤：品^{しな}荒

建設省が大沢崩れの観測を補充、強化するために設置した地点である。

ここは、富士山腹の南部に位置するために、本調査にとっても好適な地点と考えられる。

(3) ⑥：笹原，⑦：大宮

建設省が大沢崩れ対策のため設置した地点である。

笹原は、大沢崩れが民家に一番近接しているとともに、富士宮市域の北部の中間地点に位置している。

大宮は、市街地の北域に位置する数少ない観測地点である。

(4) ⑨：建設大学

富士宮市域の最北端であり、また、集落のある最北端部でもある。さらに、朝霧高原の代表的な数少ない観測地点である。

(5) ⑩：農業学園

富士宮市域の中西部中間地点に位置し、白糸の滝、芝川などの影響の有無などを知るのによい地点と考えられる。

(6) ⑪：消防本部

市街地の南に位置し、大宮と対比するのに好適な地点である。

(7) ⑧：天照教

富士山腹で、富士宮市域の北東部に位置している。

(8) ⑫：上野中

富士宮市域の西部に位置し、青木地区から、この地区にかけて霧が多く発生することや、ここを境にして降雨量が南部と違うなど特異な気象観測地点である。

(9) ⑬：二中

市街地の住宅密集地で、市域の中心的な位置と考えられる。

(10) ⑭：黒田小

富士宮市域の南部で、星山丘陵地に位置し、将来、住宅地として開発が予測される代表的な地区にある。

(11) ⑮：沼久保小

富士宮市域の最南西部で、しかも、最も標高の低い地点である。また、富士川の影響を受けている地点とも考えられる。

気 温

木 下 富 之

1 調査方法

調査の対象とした統計期間は、1980年～1985年の6年間であるが、小・中学校については、1985年の1年間である。いずれの地点も、9時の気温・最高気温・最低気温を観測した。平均気温は、最高気温と最低気温により求めることができるが、ここでは9時気温を平均気温として用いた。

なお、夏日・冬日等の集計は、最高・最低気温によって算出した。

2 データ処理方法

各地点の観測データは、各々の関係機関から借用した。建設省関係の自記記録計で測定したデータ、高等農業学園の9時観測データ（1週間の自記記録計を併用）、消防本部の観測データ（1984年までの9時観測データ及び1985年よりコンピュータにより自動処理したデータ）を必要な部分だけ抽出し使用した。

なお、小・中学校については、9時観測データ（1週間の自記記録計を併用）を使用した。

3 観測地点

富士宮市域において、気温の観測を長期に渡って実施している中から、当初は次の8地点を選定した。

- (1) ①：御中道（標高 2,350 m）
- (2) ②：大滝（標高 1,700 m）
- (3) ④：上井出（標高 1,200 m）
- (4) ⑨：建設大学（標高 900 m）
- (5) ⑩：農業学園（標高 529 m）
- (6) ⑥：笹原（標高 500 m）
- (7) ⑦：大宮（標高 190 m）
- (8) ⑪：消防本部（標高 122 m）

さらに、これだけでは資料不足と思われるため、特に、市内の小・中学校に依頼し、次の4地点で1985年より観測を実施した。

- (9) ⑫：上野中（標高 305 m）
- (10) ⑬：二中（標高 145 m）
- (11) ⑭：黒田小（標高 130 m）
- (12) ⑮：沼久保小（標高 97 m）

4 調査結果

(1) 観測地点別気温の変化

一日の気温の変化を見るのに、一般的には日平均気温 $\{(日最高気温 + 日最低気温) \div 2\}$ を用いるが、調査期間が短いため、ここでは、9時の気温を平均気温とした。また、日最高気温・日最低気温も合わせて記載した。各地点の月別平均気温を比較するには、観測地点12箇所の観測値を全てグラフに表わせば良いが、ここでは標高が大きく違う④上井出、⑨建設大学、⑩農業学園、⑥笹原、⑦大宮、⑪消防本部の6箇所にしぼった。図1-1によりわかるように、笹原と農業学園は、ほぼ同じ位の標高に位置するが、農業学園の方が $1^{\circ}\text{C} \sim 2^{\circ}\text{C}$ 低くなっている。その理由は白糸の滝により発生する水滴が、気化するために気化熱が奪われ、周囲の空気が冷やされて温度が低くなるためと思われる。消防本部と大宮は、距離が近く、周囲の環境も類似しているため、気温の変化の違いは見られない。また、他地点と比べて、日最高気温と日最低気温の差がわずかに大きくなっている。各地点の日平均気温・日最高気温・日最低気温の変化（6年間の平均）を図1-2～図1-13に及び各地点の年別、月別の日平均気温・日最高気温・日最低気温の平均を表1-1～表1-9に示す。最暖月は、いずれの地点も8月である。最寒月は、大滝、上井出の2地点は2月であるが、他の地点は1月である。また、地点別、月別、日平均気温（図1-1）より分かるように、各地とも気温変化は極めて似ている。

なお、富士山中腹の大滝の日別平均気温は他と比べて、各月とも 5°C 位下回っているのが特徴的である。

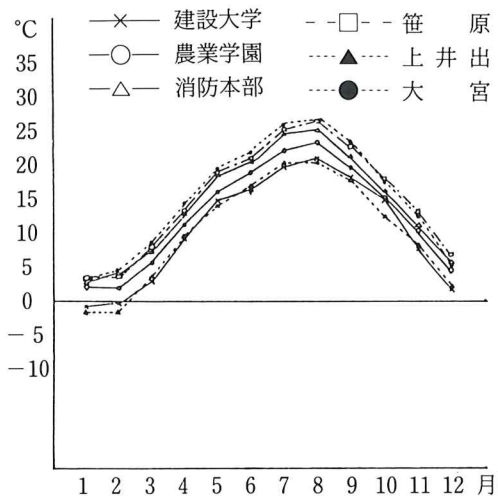


図1-1 観測地点別 9時気温

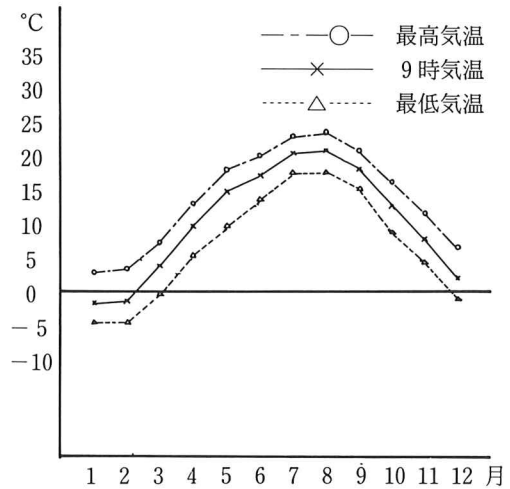


図1-4 観測地点 上井出

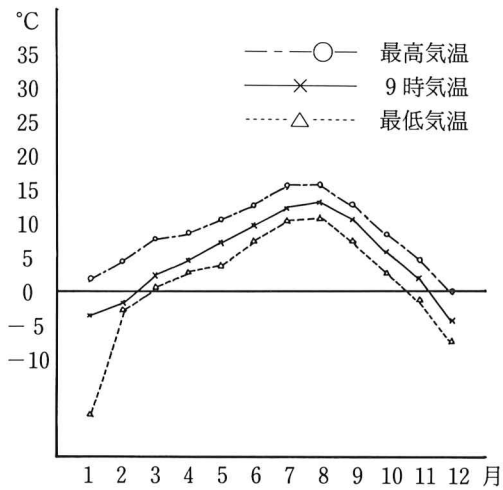


図1-2 観測地点 御中道

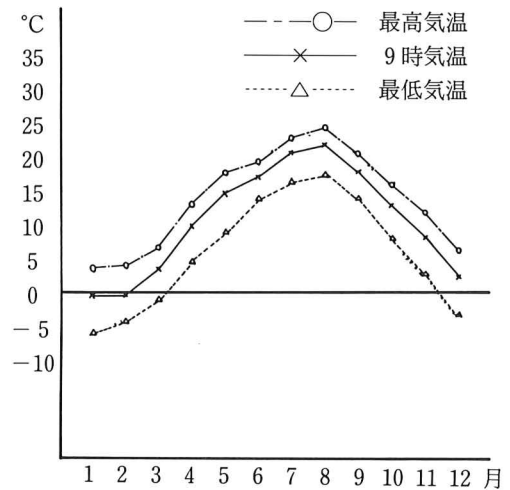


図1-5 観測地点 建設大学

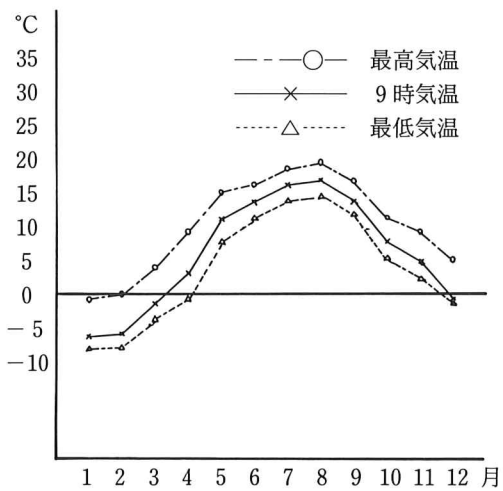


図1-3 観測地点 大滝

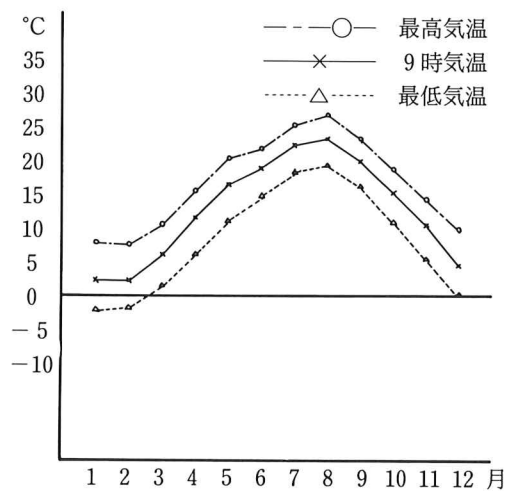


図1-6 観測地点 農業学園

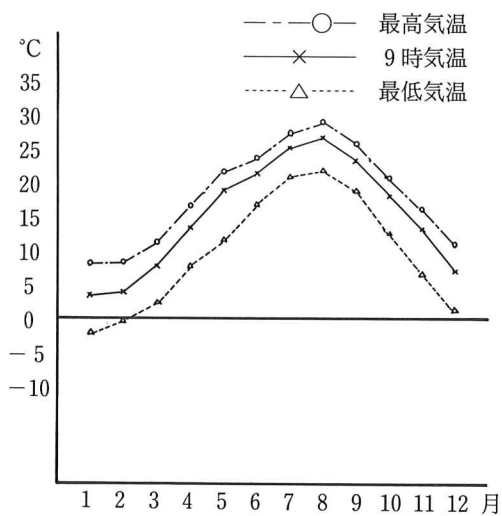


図1-7 観測地点 笹原

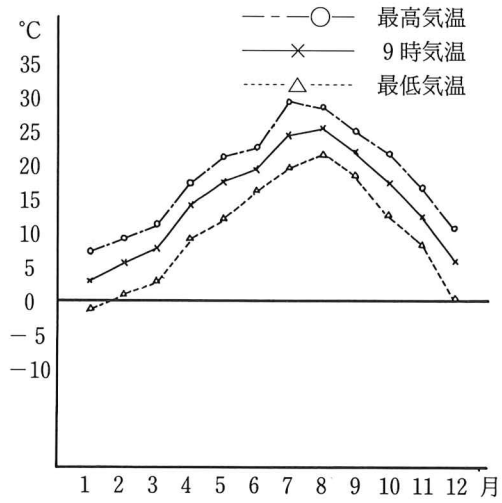


図1-8 観測地点 上野中

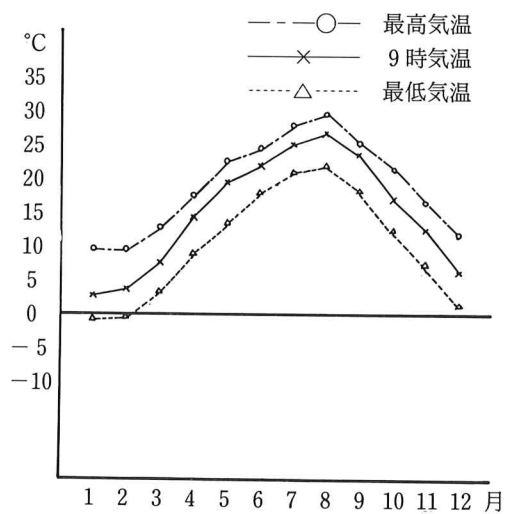


図1-9 観測地点 大宮

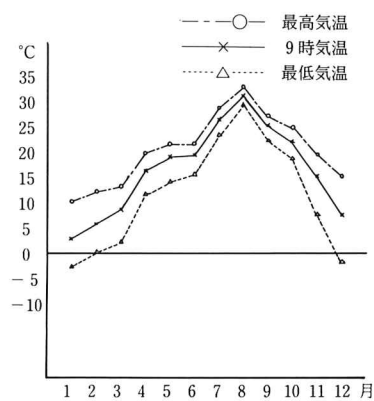


図1-10 観測地点 二

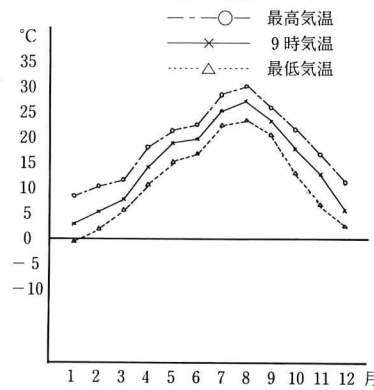


図1-11 観測地点 黒田小

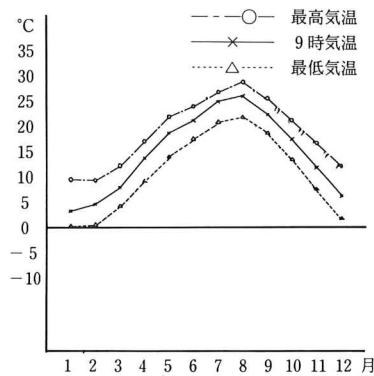


図1-12 観測地点 消防本部

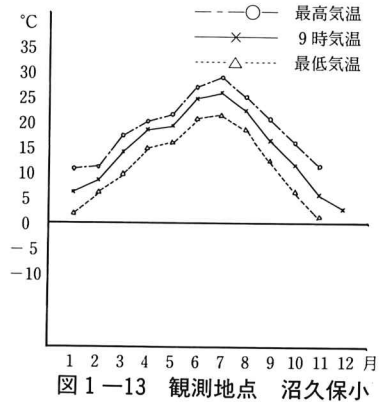


図1-13 観測地点 沼久保小

表1-1 御中道

単位：℃

	気温	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	平均
1月	平均	-8.0	-1.2	1.0	-3.8		-8.8	-3.5
	最高	5.0	2.1	3.1	-1.7		-4.3	2.1
	最低	-10.5	-5.2	-4.6	-6.8		-11.7	-18.5
2月	平均	-1.6	-1.8					-1.7
	最高	3.5	5.2 (28)					4.4
	最低	-3.5	-2.1 (28)					-2.8
3月	平均	2.5						2.5
	最高	7.9						7.9
	最低	0.6						0.6
4月	平均				9.2 (26)	0.3 (11)		4.8
	最高				12.0	5.4 (11)		8.7
	最低				6.4	-1.0 (11)		2.7
5月	平均	8.3	5.9 (8)	8.4 (11)	7.3	5.6 (12)	8.2	7.3
	最高	12.1	9.8	12.6	10.9	9.1 (12)	11.7	10.9
	最低	7.1	3.0	4.4	4.2	2.0 (12)	5.0	4.1
6月	平均	11.3	9.9	9.4	9.2 (1)	10.6	9.8	10.0
	最高	14.1	13.0 (30)	12.5 (30)	11.8	13.4	12.8	13.0
	最低	9.1	7.3 (30)	6.5 (30)	6.2	8.2	7.7	7.5
7月	平均	12.3	13.0	11.6	12.2	13.4	13.5	12.7
	最高	15.6	15.8	14.4	15.7	17.4	17.6	15.7
	最低	11.5	11.4	9.4	10.0	11.3 (1)	12.0	10.7
8月	平均	12.8	12.8	13.1	14.2	14.2	14.5	13.4
	最高	13.8	16.1	16.2	17.9	17.4	18.0	16.3
	最低	9.0	11.2	11.5	12.7	12.4	12.6	11.4
9月	平均	10.6	9.4	10.6	11.3 (1)	11.9 (16)	12.4	10.8
	最高	8.9	12.8	13.5	14.7	16.3 (16)	15.2	13.2
	最低	3.0	7.1	8.7	9.2	9.2	10.3	7.9
10月	平均	5.7	5.8	5.9	6.1	5.2 (15)	7.3	6.0
	最高	6.0	9.2	9.1	10.2	8.4 (16)	11.0	8.6
	最低	-0.1	2.2	3.2	3.7	3.2	4.5	2.8
11月	平均	2.5	-0.5	3.8	0.1 (4)	4.0 (19)	1.3	2.0
	最高		2.9 (30)	7.4 (30)	0.3	8.8 (17)	4.9	4.9
	最低		-3.5 (30)	0.8 (30)	-3.2	1.2 (17)	-1.8	-1.2
12月	平均	-4.4 (13)	-6.5 (20)	-2.8 (18)	-4.4 (20)		-4.1	-4.5
	最高						0.0	0.0
	最低						-7.5	-7.5
平均	平均	4.7	5.0	6.8	6.1	7.8	6.0	5.2
	最高	9.7	9.7	11.1	10.2	12.0	9.7	8.8
	最低	2.9	-1.7	5.0	4.7	5.8	3.5	1.5

() は欠測日数

表1-2 大 滝

单位: °C

	气温	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	平均
1月	平均	-5.3	-8.4	-6.6	-4.5	-8.0	-6.1	-6.5
	最高	-0.3	-2.7	-0.8	2.3	-2.4	0.0	-0.7
	最低	-7.6	-10.6	-7.8	-4.4	-9.7	-8.3	-8.1
2月	平均	-7.4	-4.9	-7.1	-5.8	-8.2	-2.5	-6.0
	最高	-0.8	0.3	-0.5	0.3	-1.9	2.7	0.0
	最低	-8.9	-7.9	-8.3	-7.0	-10.5	-5.1	-8.0
3月	平均	-1.6	-1.2		0.0	-5.1	2.2	-1.1
	最高	4.0	4.3		3.9	0.7	6.3	3.8
	最低	-3.6	-4.4		-3.2	-7.5	-0.8	-3.9
4月	平均	-3.1	0.7		8.5	2.9	6.1	3.0
	最高	5.2	8.2		12.7	8.0	11.7	9.2
	最低	-1.7	-3.0		4.8	0.3	3.3	0.7
5月	平均	10.5		10.5	11.4	10.0	12.4	11.0
	最高	14.9		16.2	16.1	13.7	16.0	15.4
	最低	6.5		8.6	7.9	6.1	8.7	7.6
6月	平均	13.6	15.0	11.5	13.5	14.0	13.8	13.6
	最高	16.9	16.2	15.3	16.1	16.1	16.4	16.2
	最低	11.8	12.0	10.5	10.8	11.1	11.4	11.3
7月	平均	15.8	15.8	12.7	17.4	17.0	18.7	16.2
	最高	16.9	18.3	15.3	20.0	19.7	21.6	18.6
	最低	11.8	13.7	10.7	15.6	15.1	16.3	13.9
8月	平均	15.5	15.0	15.4	19.2	18.0	18.6	17.0
	最高	18.5	18.3	17.4	22.0	21.0	20.6	19.6
	最低	13.5	13.1	14.1	17.0	15.9	15.7	14.9
9月	平均	13.2	10.7	13.0	16.1	13.9	16.1	13.8
	最高	16.3	14.1	15.6	18.3	17.4	18.5	16.7
	最低	11.3	8.8	11.0	13.6	11.9	13.9	11.8
10月	平均	4.6	6.3	7.7	9.0	8.3	10.2	7.7
	最高	8.5	10.9	11.4	12.0	11.7	13.0	11.3
	最低	1.3	4.0	5.8	6.5	5.9	6.8	5.1
11月	平均	4.9	2.1	6.6	1.7	9.5	4.7	4.9
	最高	8.5		10.4	6.9	12.3	9.1	9.4
	最低	1.3		4.0	-0.3	3.3	1.8	2.0
12月	平均	-2.7		2.1	-2.8	-0.6	-1.2	-1.0
	最高	9.9		5.4	1.8	4.1	3.6	5.0
	最低	2.1		-1.4	-0.6	-3.1	-4.7	-1.5
平均	平均	4.8	5.1	6.6	7.0	6.0	7.4	6.2
	最高	9.9	9.8	10.6	11.0	10.0	11.6	10.4
	最低	3.9	2.9	4.7	5.1	3.2	4.9	3.8

表1-3 上井出

单位: °C

	气温	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	平均
1月	平均	-1.7	-4.2	-1.9	1.7	-3.6	-1.4	-1.9
	最高	3.2	1.3	2.9	5.1	1.6	3.2	2.9
	最低	-4.3	-7.5	-3.3	-2.1	-6.7	-5.1	-4.8
2月	平均	-2.9	-0.9	-0.1	-0.6	-5.8	1.5	-1.5
	最高	2.5	4.0	3.4	4.3	-1.1	5.6	3.1
	最低	-6.0	-4.0	-3.7	-3.6	-9.4	-1.8	-4.8
3月	平均	3.2	6.0	4.2	3.9	0.4	5.3	3.8
	最高	7.5	9.2	7.6	7.4	4.3	8.6	7.4
	最低	-0.1	2.0	-0.2	0.3	-4.0	2.6	0.1
4月	平均	7.9	9.4	9.6	12.8	8.6	10.8	9.9
	最高	10.6	13.0	12.6	16.5	11.4	14.4	13.1
	最低	3.0	4.0	5.8	7.7	4.0	5.9	5.1
5月	平均	14.0	12.7	17.2	15.1	14.5	16.0	14.9
	最高	17.6	16.7	20.8	18.7	17.4	19.0	18.4
	最低	8.3	8.5	11.3	10.3	9.5	11.2	9.9
6月	平均	17.9	15.8	17.9	16.4	18.8	17.3	17.4
	最高	20.5	19.0	21.3	19.4	20.8	19.8	20.1
	最低	13.2	12.9	14.3	13.0	15.4	14.3	13.9
7月	平均	19.2	19.8	19.4	20.2	22.8	22.8	20.7
	最高	22.1	22.3	22.2	22.5	25.3	26.2	23.4
	最低	16.5	16.9	16.8	17.7	18.8	19.5	17.7
8月	平均	19.3	19.2	21.7	22.3	23.0	20.4	21.0
	最高	21.3	22.8	24.1	24.9	26.3	23.2	23.8
	最低	16.7	15.6	19.2	19.6	18.8	16.2	17.7
9月	平均	16.5	16.6	19.6	18.8	18.8	19.0	18.2
	最高	19.1	19.7	22.4	21.5	22.1	21.0	21.0
	最低	13.6	12.8	16.8	16.2	15.0	16.5	15.2
10月	平均	12.1	12.6	12.6	13.3	12.8	13.3	12.8
	最高	15.1	16.2	16.2	16.3	16.2	16.4	16.1
	最低	8.1	7.9	9.1	9.4	9.5	9.1	8.9
11月	平均	7.7	5.5	10.1	6.5	9.0	8.5	7.9
	最高	11.7	9.6	13.5	10.6	12.1	11.6	11.5
	最低	4.0	2.6	6.4	3.0	5.2	4.2	4.2
12月	平均	-1.0	1.7	4.1	0.8	3.8	2.5	2.0
	最高	4.5	6.8	8.3	5.8	7.3	6.3	6.5
	最低	-3.2	-2.1	1.1	-1.2	0.7	-2.0	-1.1
平均	平均	9.4	9.5	11.2	10.9	10.3	11.3	10.4
	最高	13.0	13.4	14.6	14.4	13.6	14.6	13.9
	最低	5.8	5.8	7.8	7.5	6.4	7.6	6.8

表1-4 建設大学

単位：℃

	気温	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	平均
1月	平均	-2.0	-1.7	1.0	1.2	-2.3	-1.4	-0.9
	最高	2.2	2.6	4.9	5.1	2.3	2.8	3.3
	最低	-8.3	-6.8	-4.6	-3.5	-7.2	-7.0	-6.2
2月	平均	0.5	-0.2	0.3	-0.1	-2.8	1.2	-0.2
	最高	5.2	3.8	4.2	4.0	1.0	5.2	3.9
	最低	-4.3	-4.5	-4.2	-4.9	-7.5	-4.0	-4.9
3月	平均		3.8	5.5	3.8	0.5	4.1	3.5
	最高		7.3	9.0	7.0	3.7	7.1	6.8
	最低		-1.4	1.1	-0.5	-5.0	0.8	-1.0
4月	平均	8.4	10.5	9.8	12.4	8.5	10.0	9.9
	最高	11.1	13.5	12.6	15.3	11.6	13.7	13.0
	最低	4.6	4.5	3.8	6.8	3.0	4.1	4.5
5月	平均	15.1	14.4	16.2	15.9	13.9	14.9	15.1
	最高	18.2	16.9	19.2	18.5	16.6	17.4	17.8
	最低	9.8	8.6	10.4	9.4	8.1	9.6	9.3
6月	平均	19.1	17.5	17.2	16.8		16.7	17.5
	最高	21.4	19.3	20.1	19.7		18.7	19.8
	最低	15.5	14.0	12.5	12.2		12.7	13.4
7月	平均	20.6	22.2	19.1	20.4	22.3	22.0	21.1
	最高	22.2	23.9	21.4	22.3	24.8	25.2	23.3
	最低	17.0	17.0	15.2	17.0	17.5	17.6	16.9
8月	平均	20.4	21.8	21.8	22.5	23.1	23.6	22.2
	最高	22.6	24.3	23.7	25.9	25.8	25.8	24.7
	最低	17.3	17.0	17.9	19.4	17.6	17.9	17.9
9月	平均	18.2	17.0	17.3	19.2	18.7	18.9	18.2
	最高	20.6	19.3	20.8	22.3	21.3	21.1	20.9
	最低	14.4	12.7	14.2	15.9	13.3	15.3	14.3
10月	平均	13.8	13.1	13.1	14.1	12.1	13.3	13.3
	最高	16.8	16.1	16.4	17.2	15.3	16.3	16.4
	最低	8.9	7.4	8.8	9.2	7.5	8.0	8.3
11月	平均	9.6	6.7	9.5	7.7	8.0	8.5	8.3
	最高	13.2	10.2	13.1	11.8	11.6	12.0	12.0
	最低	3.9	1.6	4.4	1.8	2.5	1.4	2.6
12月	平均	2.1	2.7	4.2	1.5	1.5	1.9	2.3
	最高	5.9	6.3	8.2	5.8	6.0	6.1	6.4
	最低	-3.3	-4.0	-0.7	-3.9	-3.7	-4.4	-3.3
平均	平均	11.4	10.7	11.3	11.3	9.4	11.1	10.9
	最高	14.5	13.6	14.5	14.6	12.7	14.3	14.0
	最低	6.9	5.5	6.6	6.6	4.2	6.0	6.0

表1-5 農業学園

単位：℃

	気温	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	平均
1月	平均	4.5	1.2	2.9	2.8	0.5	1.0	2.2
	最高	9.6	6.0	9.3	9.0	6.2	7.4	7.9
	最低	0.2	-4.1	-1.7	-1.5	-2.8	-3.2	-2.2
2月	平均	3.0	2.6	2.1	2.2	-0.1	3.6	2.2
	最高	7.3	8.0	7.8	8.4	5.6	8.6	7.6
	最低	-2.5	-1.9	-1.3	-2.2	-3.2	-0.4	-1.9
3月	平均	6.9	7.1	7.3	6.2	2.9	6.5	6.2
	最高	10.7	11.8	12.1	10.3	9.7	9.7	10.7
	最低	2.0	2.1	2.0	1.1	-1.8	3.8	1.5
4月	平均	11.4	12.6	11.9	13.4	9.8	12.3	11.9
	最高	14.9	16.2	16.2	17.5	13.5	16.7	15.8
	最低	6.1	6.5	5.9	7.3	5.7	7.0	6.4
5月	平均	16.8	16.7	18.2	17.4	15.6	16.6	16.9
	最高	20.4	20.9	21.7	21.3	19.0	20.1	20.6
	最低	10.6	10.2	12.3	11.1	10.7	12.8	11.3
6月	平均	20.9	19.0	18.8	18.4	19.5	18.3	19.2
	最高	23.7	22.0	23.5	22.3	21.6	21.3	22.4
	最低	14.5	15.3	14.4	14.1	16.3	15.2	15.0
7月	平均	22.0	23.4	20.6	21.8	24.3	23.7	22.6
	最高	24.5	25.8	24.0	25.0	27.6	27.1	25.7
	最低	16.6	19.9	16.4	18.7	20.1	20.4	18.7
8月	平均	22.0	23.6	23.1	24.1	24.9	24.8	23.8
	最高	24.9	26.7	26.4	29.0	28.2	28.4	27.3
	最低	18.7	18.9	19.5	21.3	20.7	20.2	19.9
9月	平均	21.0	19.8	19.7	20.9	20.9	20.9	20.5
	最高	23.7	22.8	23.3	24.2	25.1	24.1	23.9
	最低	16.9	15.7	15.6	17.9	15.7	19.2	16.8
10月	平均	16.3	15.8	15.8	15.3	14.9	15.2	15.6
	最高	19.7	19.1	19.7	19.2	18.6	19.2	19.3
	最低	11.1	10.4	10.6	11.4	11.5	11.6	11.1
11月	平均	12.0	9.0	12.2	10.2	10.3	10.9	10.8
	最高	15.7	12.3	16.0	14.6	14.4	14.7	14.6
	最低	6.5	3.9	7.9	5.0	6.2	5.3	5.8
12月	平均	5.7	5.2	5.7	3.4	4.6	4.2	4.8
	最高	9.5	10.9	11.4	9.4	9.8	9.6	10.1
	最低	-0.5	0.2	1.4	-0.3	1.1	-0.2	0.3
平均	平均	13.5	13.0	13.2	13.0	12.3	13.2	13.1
	最高	17.1	16.9	17.6	17.5	16.6	17.2	17.2
	最低	8.4	8.1	8.6	8.7	8.4	9.3	8.6

表1-6 笹原

单位: °C

	气温	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	平均
1月	平均	2.3	1.2	5.4	4.2	2.9	3.4	3.2
	最高	7.8	7.0	9.2	8.6	6.9	8.6	8.0
	最低	-2.0	-3.8	-0.9	-1.3	-2.7	-1.7	-2.1
2月	平均	1.3	3.9	4.7	5.0	2.4	6.0	3.9
	最高	7.0	8.2	8.3	8.9	5.9	10.5	8.1
	最低	3.0	-1.2	-0.3	-1.2	-2.8	0.3	-0.4
3月	平均	5.8	8.8	9.3	8.5	6.0	8.6	7.8
	最高	10.5	12.3		11.7	9.8	11.6	11.2
	最低	1.0	2.3		2.6	0.0	5.0	2.2
4月	平均	11.0	13.4	14.2	14.8	12.4	15.3	13.5
	最高	14.2	17.4	16.9	18.3	15.5	18.5	16.8
	最低	6.6	7.3	7.5	9.0	6.6	8.7	7.6
5月	平均	17.1	18.4	20.7	19.8	19.3	19.8	19.2
	最高	20.6	21.6	22.8	23.2	21.4	22.5	22.0
	最低	10.5	11.7	13.3	9.4	12.3	14.3	11.9
6月	平均	22.3	21.0	21.5	21.4	22.1	21.2	21.6
	最高	24.9	23.6	24.1	24.3	23.7	23.6	24.0
	最低	17.8	17.4	15.9	15.5	18.3	17.2	17.0
7月	平均	23.7	26.4	23.2	25.0	27.8	26.8	25.5
	最高	26.0	28.3	25.6	27.1	30.4	30.2	27.9
	最低	20.0	21.7	18.6	21.0	22.5	22.6	21.1
8月	平均	24.6	25.9	26.3	27.9	29.0	29.0	27.1
	最高	26.6	28.8	28.5	30.0	31.5	31.6	29.5
	最低	21.1	21.4	21.9	23.9	22.9	22.7	22.3
9月	平均	22.3	22.4	23.0	24.5	24.6	25.0	23.6
	最高	25.6	24.7	25.5	27.1	27.3	27.4	26.3
	最低	18.6	17.5	18.1	20.3	19.5	21.1	19.2
10月	平均	18.8	18.3	18.0	18.5	18.3	19.1	18.5
	最高	21.4	21.2	20.9	21.2	21.7	21.9	21.4
	最低	13.0	11.2	12.1	13.1	13.0	13.3	12.6
11月	平均	14.2	11.1	15.5	13.2	13.3	13.4	13.5
	最高	17.3	13.7	17.8	16.0	17.1	17.3	16.5
	最低	6.4	4.4	10.0	6.3	7.2	6.5	6.8
12月	平均	6.6	7.2	8.2	7.1	7.7	6.1	7.2
	最高	10.9	11.8	12.1	10.4	11.7	11.5	11.4
	最低	-0.2	1.3	2.0	-0.2	5.0	0.8	1.5
平均	平均	14.2	14.8	15.8	15.8	15.5	16.1	15.4
	最高	17.7	18.2	19.2	18.9	18.6	19.6	18.6
	最低	9.7	9.3	10.7	9.9	10.2	10.9	10.0

表1-7 大 宮

単位：°C

	気温	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	平均
1月	平均	3.1	0.8	4.2 (2)	4.9 (2)	1.5	3.2	2.9
	最高	10.0	7.7	11.5	11.0	8.6	9.5	9.8
	最低	-0.9	-4.4	1.2	1.3	-1.3	-0.9	-0.8
2月	平均	2.1	2.3	4.7 (2)	4.5 (3)	2.2	7.1	3.9
	最高	9.6	9.3	10.9	11.0	7.6	11.3	9.7
	最低	-1.8	-0.8	1.5	0.7	-0.9	1.6	-0.3
3月	平均	7.6	7.2	9.9	9.5	4.9	9.3	7.8
	最高	13.1	12.8	15.0	13.3	10.8	13.4	13.0
	最低	3.6	3.5	5.6	4.3	0.8	6.2	3.5
4月	平均	13.6	15.0	15.4	16.4 (2)	13.5	16.0	14.8
	最高	17.0	18.5	19.4	19.6	16.6	19.5	18.2
	最低	8.9	8.0	9.6	10.9	8.1	9.8	9.1
5月	平均	19.5	19.0	20.9	21.3 (1)	19.4	20.6	20.0
	最高	22.7	22.2	23.7	24.4	22.1	23.0	23.0
	最低	13.4	12.7	15.4	14.3	13.5	15.4	13.9
6月	平均	23.4	21.9 (2)	22.6	21.6 (1)	22.7	21.7	22.5
	最高	26.4	24.8	25.7	25.2	24.6	24.1	25.3
	最低	19.9	18.7	17.5	17.2	19.2	17.3	18.5
7月	平均	23.9	26.8	23.9	25.7	28.2	27.9	25.7
	最高	26.8	29.0	27.0	28.0	31.2	31.0	28.4
	最低	20.9	22.5	19.9	21.5	22.8	22.5	21.5
8月	平均	23.9	27.2 (3)	26.6	28.5	29.5	29.2	27.1
	最高	26.8	29.8	30.1	31.4	32.3	32.6	30.1
	最低	20.7	21.5	22.8	23.9	23.9	23.5	22.6
9月	平均	22.8	23.0	23.5	25.5 (1)	25.6	23.1	24.1
	最高	25.6	25.6	26.5	27.8	27.9	26.2	25.8
	最低	18.1	17.9	18.7	20.8	19.2	19.8	18.9
10月	平均	17.2	16.4	17.8	19.0	18.4	16.9	17.8
	最高	21.5	21.1	22.9	22.4	22.6 (6)	21.3	22.1
	最低	12.5	11.4	13.5	14.0	13.3 (1)	12.2	12.9
11月	平均	11.8	9.8 (12)	14.3	13.0 (1)	11.3	10.9	12.1
	最高	17.5	14.3	19.2	17.3	17.4	16.6	17.1
	最低	7.3	5.9	10.3	6.5	7.8	6.2	7.6
12月	平均	4.0	6.5 (16)	7.4	6.4	6.4	4.2	6.1
	最高	10.7	13.3	14.1	11.7	12.2	11.1	12.4
	最低	-1.3	2.0	3.5	0.6	2.8	0.6	1.5
平均	平均	14.4	14.7	16.2	16.4	15.3	15.8	15.4
	最高	19.0	19.0	20.5	20.3	19.5	20.0	19.6
	最低	10.1	9.9	11.6	11.3	10.7	11.2	10.7

() は欠測日数

表1-8 消防本部

单位: °C

	气温	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	平均
1月	平均	5.0	1.2	4.7	4.1	2.1	3.2	3.4
	最高	9.6	8.7	11.1	10.6	8.1	8.8	9.5
	最低	3.4	-2.5	0.8	0.2	-1.8	0.2	0.1
2月	平均	4.6	3.6	5.4	4.6	2.1	6.5	4.5
	最高	8.9	9.3	10.2	10.0	6.8	11.1	9.4
	最低	1.3	-0.3	1.5	-0.3	-1.8	2.3	0.5
3月	平均	8.8	7.9	9.0	7.9	5.3	9.2	8.0
	最高	12.4	12.7	13.8	12.1	9.9	12.6	12.3
	最低	5.1	3.5	4.9	3.8	0.1	6.9	4.1
4月	平均	12.8	14.2	14.1	14.8	12.0	15.3	13.9
	最高	16.1	17.6	17.7	18.6	15.5	18.3	17.3
	最低	9.4	8.3	8.7	10.5	7.9	10.6	9.2
5月	平均	19.1	17.4	20.2	20.0	17.9	19.5	19.0
	最高	22.4	21.4	23.5	23.2	21.0	21.6	22.2
	最低	13.2	12.4	15.4	14.1	13.4	15.7	14.0
6月	平均	23.1	20.7	21.6	21.3	21.7	20.7	21.5
	最高	25.5	23.5	25.0	24.1	23.9	23.2	24.2
	最低	19.1	17.7	17.2	16.8	18.1	17.4	17.7
7月	平均	24.2	25.6	23.3	24.2	27.0	26.5	25.1
	最高	26.7	27.7	25.9	27.1	30.0	28.8	27.7
	最低	21.0	21.4	19.4	21.0	22.6	22.7	21.4
8月	平均	24.2	25.6	25.9	27.4	28.2	27.8	26.5
	最高	27.0	28.3	28.5	30.2	31.1	30.7	29.3
	最低	20.8	21.0	22.3	23.0	23.4	23.0	22.3
9月	平均	22.8	21.6	21.9	23.0	23.5	23.8	22.8
	最高	25.3	24.8	25.7	26.6	27.1	26.5	26.0
	最低	18.6	18.0	18.0	20.1	18.8	20.4	19.0
10月	平均	17.6	16.9	17.1	19.0	17.6	17.9	17.7
	最高	21.8	22.1	21.7	21.5	21.5	21.8	21.7
	最低	13.1	12.5	12.7	17.4	12.9	13.6	13.7
11月	平均	12.8	10.2	13.5	11.1	12.0	12.6	12.0
	最高	18.1	14.7	17.9	16.8	17.1	17.1	17.0
	最低	7.9	6.4	9.6	6.1	7.6	7.6	7.6
12月	平均	5.7	6.3	6.8	5.1	6.9	6.5	6.2
	最高	11.6	13.4	13.0	11.5	12.2	12.0	12.3
	最低	0.7	1.4	2.1	0.0	3.4	1.7	1.6
平均	平均	15.1	14.3	15.3	15.2	14.7	15.8	15.1
	最高	18.8	18.7	19.5	19.4	18.7	19.4	19.1
	最低	11.1	10.0	11.1	11.1	10.4	11.8	10.9

月別気温一覧表

表1-9 1985年のみの観測地点

単位：℃

		二 中	上野中	沼久保小	黒田小
1月	平均	3.1	3.2	6.5	2.8
	最高	10.2	7.5	11.1	8.5
	最低	-2.6	-1.4	2.3	-0.7
2月	平均	6.2	5.9	8.7	5.5
	最高	12.5	9.7	11.9	10.6
	最低	-0.1	1.0	6.5	2.2
3月	平均	8.9	8.0	14.8	8.0
	最高	13.3	11.6	17.7	12.2
	最低	4.8	3.3	10.3	6.2
4月	平均	16.7	14.6	19.0	14.9
	最高	20.3	17.9	20.9	18.6
	最低	12.0	9.5	15.2	11.0
5月	平均	19.8	18.1	20.0	19.2
	最高	22.1	21.8	22.4	22.2
	最低	14.7	12.5	16.9	15.4
6月	平均	20.0	20.2	25.5	20.2
	最高	22.0	23.0	27.8	23.0
	最低	16.4	16.6	21.8	17.4
7月	平均	27.2	25.4	26.9	26.0
	最高	29.6	30.3	29.7	29.3
	最低	24.0	20.2	22.2	23.1
8月	平均	32.0	26.3	23.1	28.3
	最高	33.8	29.3	25.6	30.7
	最低	30.0	22.0	19.8	24.6
9月	平均	26.0	22.5	17.3	23.7
	最高	27.8	25.5	21.2	26.6
	最低	23.0	19.1	13.0	21.2
10月	平均	22.6	17.9	12.1	18.3
	最高	25.5	22.1	16.5	22.1
	最低	19.6	13.7	6.9	13.9
11月	平均	15.6	12.9	6.3	12.6
	最高	20.0	17.1	11.9	17.3
	最低	7.9	8.5	1.6	7.4
12月	平均	7.8	6.2	3.3	5.6
	最高	15.7	10.9		11.7
	最低	-1.7	0.4		2.6
平均	平均	17.2	15.1	15.3	15.4
	最高	21.1	18.9	19.7	19.4
	最低	12.4	10.5	12.4	12.0

(2) 観測地点別気温の極値

気温の極値を見ると表2のようになる。高極値は、1984年9月3日(笹原)である。しかし、他の年を見ると大体8月に高極値になっていることから、1984年だけは、特別な年だったと考えた方がよい。なぜ1984年だけ9月に高極値が現れたかは不明であるが、気圧配置、海流との関係、他の都市との比較等を行う必要がある。低極値は、1984年2月7日(大滝)、同年2月8日(建設大学)である。この両日は、市街地に珍しく大雪が降り、市民生活に混乱を生じさせた。他の年を見ると低極値は、やはり2月に現れることが多い。一般的に、寒い日が多い月は2月と言われているが、データからもこれが裏付けられている。建設大学と大滝のデータを比較すると、建設大学は、標高が低いにもかかわらず気温は低値を示している。その理由は、周囲に障害物がないために、風が通り易く、天気の良い日は冷え込み(放射冷却)が激しくなるためと思われる。

(3) 年較差

気温の変化の実態を知る目安として、較差を分析した。1日の気温の変化の中で、日最高気温と日最低気温との差を、日較差といい、月平均気温の最暖月と最寒月との差を、年較差という。

各観測地点の年較差は、表3に示すように農業学園が最小の21.6で、二中が最高の28.9である。これを、県下の各地点の年較差と比べると、次のようになる。すなわち、県下の年較差の小さい地点は、長津呂をはじめとする伊豆半島の諸地点で、18.0から19.9と小さく、御前崎、興津が20.0、静岡が20.4である。従って、富士宮市域は、県下でも温度差が大きい方と言える。

前述のように、住宅地付近では放射冷却が激しいため、年較差が大きくなっている。その証拠に標高の低い都市部ほど年較差が大きくなっている事実がある。

表2 観測地点における観測年での最高、最低気温(1位~3位)と発生日

単位:℃

順位	建設大学			農業学園			消防本部			大宮			上井出			笹原		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
最高気温	31.0	30.0	29.0	34.0	33.0	32.1	35.0	34.5	34.0	37.0	36.2	35.6	32.2	31.8	31.2	38.0	35.0	34.0
年月日	1984.9.3	1983.8.20	1983.8.1	1984.9.3	1983.8.19	1984.8.6	1983.9.12	1983.8.30	1984.8.7	1984.9.3	1984.9.2	1984.8.7	1984.9.3	1984.9.4	1984.9.12	1984.9.3	1984.9.4	1984.8.15
最低気温	-16.0	-15.0	-13.5	-11.2	-9.5	-8.5	-8.2	-7.5	-6.0	-7.4	-7.1	-5.2	-12.8	-11.0	10.8	-10.0	-9.0	-8.0
年月日	1984.2.8	1984.2.7	1984.2.10	1980.1.29	1981.2.27	1984.2.6	1984.2.4	1984.2.7	1981.2.26	1984.2.8	1984.2.7	1984.2.9	1984.2.7	1984.2.3	1984.2.6	1984.2.8	1984.2.7	1984.2.9

順位	大滝			御中道			二中			上野中			黒田小			沼久保小		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
最高気温	27.4	27.2	26.2	22.8	22.6	21.5	35.0	34.0	33.0	38.0	37.0	36.0	35.0	33.0	32.5	34.7	33.4	32.8
年月日	1984.9.3	1984.9.2	1984.9.4	1984.7.5	1984.7.4	1984.9.4	1985.7.14 8.5	1985.8.2 8.4 8.6	1985.8.13	1985.7.20	1985.7.18	1985.7.7	1985.8.30	1985.7.25 7.26	1985.7.27	1985.7.30	1985.6.26	1985.6.27 7.18
最低気温	-16.0	-15.0	-14.8	-7.5	-5.0	-4.9	-7.3	-6.4	-6.2	-6.0	-5.0	-4.5	-5.0	-4.0	-3.5	-3.7	-3.4	-3.3
年月日	1984.2.7	1984.2.3	1984.2.9	1984.4.12	1984.4.13	1984.4.15	1985.1.31	1985.1.16	1985.1.15	1985.3.8 2.1	1985.1.15 2.24	1985.1.21	1985.1.15 1985.1.31	1985.1.16	1985.2.1	1985.1.1 11.17	1985.1.22	1985.1.23

大宮、上井出、笹原、大滝、1984年と1985年のみ

御中道 1984年のみ(12月~3月欠測)

小中学校は1985年のみ(二中:8月欠測,上野中:8月欠測多し,沼久小:12月欠測)

表3 気温の年較差

観測 地点名	最 暖 月	最暖月の平均(°C)		気温の 高極値 (°C)	最 寒 月	最寒月の平均(°C)		気温の 低極値 (°C)	年較差
		平均気温	最高気温			平均気温	最低気温		
農業学園	8	23.8	27.3	34.0	1	2.2	-2.2	-11.2	21.6
建設大学	8	22.2	24.7	31.0	1	-0.9	-6.2	-16.0	23.1
消防本部	8	26.5	29.3	33.0	1	3.4	0.1	-5.2	23.1
大 滝	8	17.0	19.6	27.4	1	-6.5	-8.1	-16.0	23.5
上 井 出	8	21.0	23.8	32.2	1	-1.9	-4.8	-12.8	22.9
笹 原	8	27.2	29.5	38.0	1	3.2	-2.1	-10.0	24.0
大 宮	8	27.1	30.1	37.0	1	2.9	-0.8	-7.4	24.2
二 中	8	32.0	33.8		1	3.1	-2.6	-18.0	28.9
上 野 中	8	26.3	29.3		1	3.2	-1.4	-12.3	23.1
黒 田 小	8	28.3	30.7		1	2.8	-0.7	-10.0	25.5
沼久保小	7	26.0	29.7		1	0.5	2.3	-7.4	25.5

御中道は凍結による欠測が多いため省いた。

(4) 標高と気温

気温は、標高との関係が深い。地形の高さによる気温の減少率を気温減率といい、一般に高度100m増す毎に0.6°C位下がる。

富士宮市域の年間気温減率を見ると、図2の直線のようになる。この直線より上方は、高度の割に暖かく、下方はこの逆と言える。年間の気温減率を図2より求めると-0.6°C/100mとなることから、気塊の密度について述べると、上昇する気塊は、周囲より密度が大きいため、押し上げが止むと間もなく下へ戻って来るので、大気が安定していると言える。また、1月の気温減率は図2より-0.59°C/100m、8月の気温減率は図2より-0.61°C/100mとなるので、冬、夏とも、大気は安定していると考えられる。以上により、富士宮市は大気が安定しているため、天気の良い日が多い。

(5) 夏日・冬日等の日数

寒暖を表わす指標の一つとして、日最高気温が30°C

以上の日を真夏日、日最高気温が25°C以上の日を夏日、日最低気温が0°C未満の日を冬日、日最高気温が0°C未満の日を真冬日として比較する方法が用いられている。これらの日数の月別平均と年平均を富士宮市域の各地点ごとに求めたのが表4-1～表4-2である。また、年別月別日数を表4-3～表4-11に示す。夏日の始まりは、市街地では5月、山間部では6月以降である。市街地では、年間の約4分の1が夏日、約6分の1が冬日に当たる。真冬日は、朝霧方面及び山間部では観測されているが、市街地では観測されていない。各表からもわかるように、夏日と冬日を比べると、夏日が倍くらい多いことがわかる。

1984年に低極値を示したので、他の年と冬日で比較してみると、やはり冬日、真冬日とも多いことから、この年は他の年よりも寒かったことがわかる。しかし、夏日からみると他の年と変わらないことから、暑さについては、平年並みであったと言える。各年とも7月～8月は、ほとんど夏日、真夏日であり、また、1月～2月は、冬日が集中している。

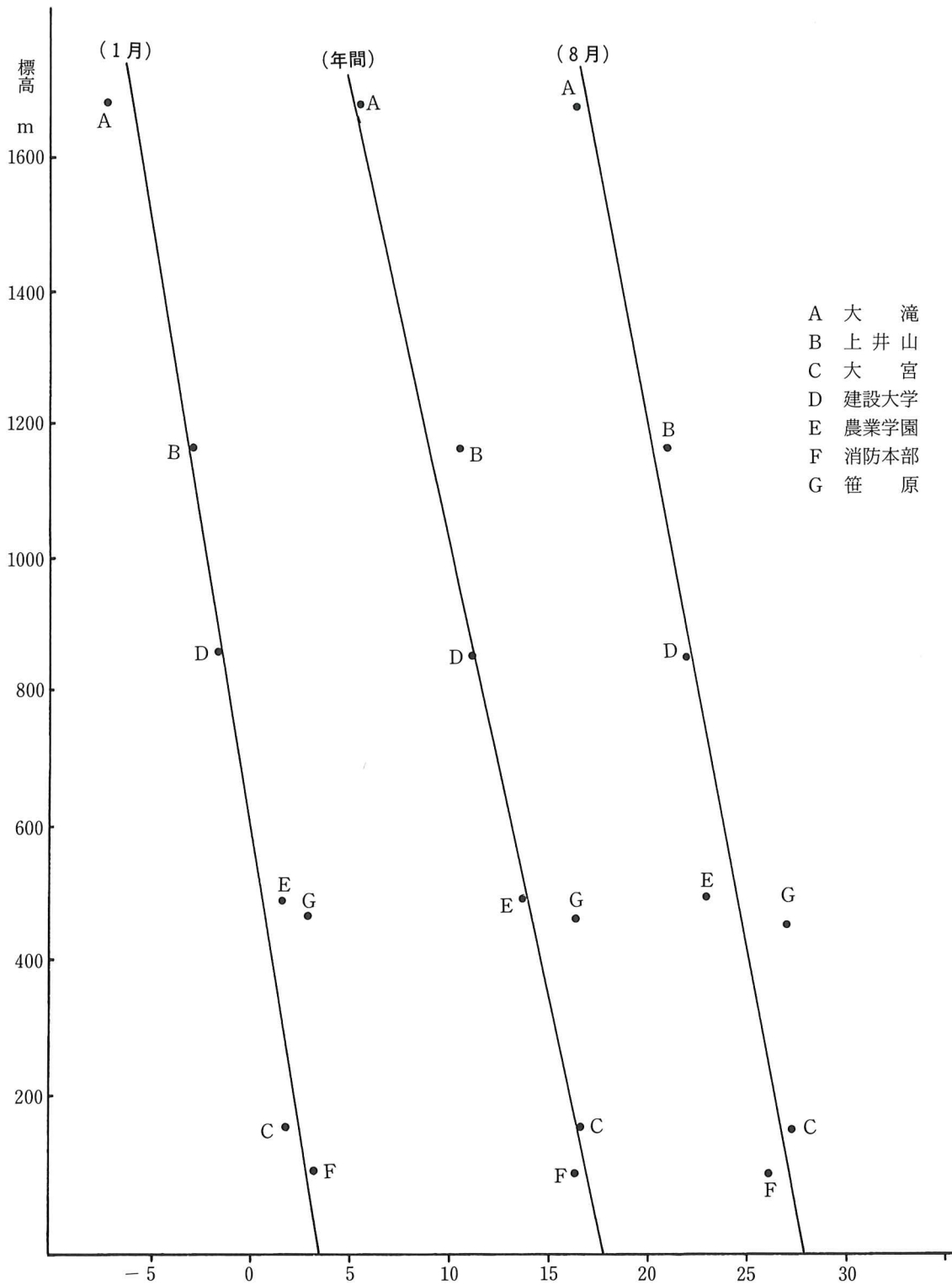


図2 高度と9時の気温

表4-1 夏日, 真夏日の年平均日数

観測地点名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
消防本部	夏日					5.7	14.8	16.5	14.3	15.8	4.8	0.2		27.8
	真夏日							9.0	14.8	4.0				71.7
大 宮	夏日					2.5	11.5	6.5	4.0	13.5	5.5			43.5
	真夏日						0.5	22.5	26.5	6.0	1.0			58.5
笹 原	夏日					3.5	7.5	9.5	6.0	12.5	7.0			67.5
	真夏日						0.5	19.0	20.5	7.5				44.0
上井出	夏日					0.5	8.5	22.5	6.5	1.5				39.5
	真夏日						1.5	0.5	1.5					3.5
農業学園	夏日					1.7	4.2	17.0	19.8	9.3	0.7			55.0
	真夏日							1.7	5.3	1.2				8.2
建設大学	夏日						0.4	8.5	15.2	3.0				28.0
	真夏日									0.2				0.2
大 滝	夏日							1.5		1.5				3.0
	真夏日													
御中道	夏日													
	真夏日													

表4-2 冬日, 真冬日の年平均日数

観測地点名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
消防本部	冬日	18.7	15.0	4.5								0.2	10.7	50.8
	真冬日													
大 宮	冬日	23.0	14.0	6.5									6.5	55.0
	真冬日													
笹 原	冬日	21.0	17.5	7.0									5.5	51.0
	真冬日													
上井出	冬日	30.0	13.0	14.0	2.0							1.5	17.0	80.0
	真冬日	5.5	2.5										0.5	8.5
農業学園	冬日	24.7	22.2	11.0	0.3							0.7	14.7	75.0
	真冬日		0.2											0.2
建設大学	冬日	27.0	22.3	13.3	3.3						0.7	9.3	26.2	97.3
	真冬日	2.3	3.5	0.7									0.3	6.8
大 滝	冬日	31.0	27.5	25.0	7.5							8.5	23	123.0
	真冬日	20.5	12.5	9.0									8.0	50.0
御中道	冬日	29.0			9.0	3.0					0.5	13.5	16.0	71.0
	真冬日				1.0							2.0	9.0	12.0

観測地点ごとの年次別、月別の真夏日、夏日、冬日、真冬日の日数

真夏日……日最高気温が30°C以上
 夏日……日最高気温が25°C以上30°C未満
 冬日……日最低気温が0°C以下
 真冬日……日最高気温が0°C以下

表4-3 農業学園

		1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	月合計
1月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	11	31	24	25	29	28	148
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
2月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	23	23	22	24	24	17	133
	真冬日	0	0	0	0	1	0	1
3月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	11	7	11	11	23	3	66
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
4月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	1	0	0	0	1	0	2
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
5月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	1	2	3	4	0	0	10
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
6月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	9	3	4	5	0	4	25
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
7月	真夏日	0	0	0	4	2	4	10
	夏日	10	23	12	8	27	22	102
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
8月	真夏日	1	0	0	17	9	5	32
	夏日	10	29	23	14	17	26	119
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
9月	真夏日	0	0	0	3	3	1	7
	夏日	14	0	10	11	8	13	56
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
10月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	1	0	0	1	2	0	4
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
11月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	0	1	1	1	0	1	4
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
12月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	19	17	7	15	12	18	88
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
年合計	真夏日	1	0	0	24	14	10	49
	夏日	45	67	52	43	58	65	330
	冬日	74	79	65	76	89	67	450
	真冬日	0	0	0	0	1	0	1

表4-4 建設大学

		1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	月合計
1月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	15	28	30	27	31	31	162
	真冬日	2	1	1	1	4	5	14
2月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	11	23	24	25	28	23	134
	真冬日	1	4	1	1	13	1	21
3月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	0	11	13	15	29	12	80
	真冬日	0	0	1	0	3	0	4
4月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	6	2	4	0	5	3	20
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
5月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
6月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	2	0	0	0	0	0	2
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
7月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	5	16	0	0	8	22	51
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
8月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	6	15	9	18	23	20	91
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
9月	真夏日	0	0	0	0	1	0	1
	夏日	2	0	4	0	5	7	18
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
10月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	2	1	0	0	1	0	4
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
11月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	3	11	4	13	9	16	56
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
12月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	27	26	19	29	28	28	157
	真冬日	0	0	0	1	1	0	2
年合計	真夏日	0	0	0	0	1	0	1
	夏日	15	31	13	34	26	49	168
	冬日	64	102	94	109	102	113	584
	真冬日	3	5	3	3	21	6	41

表4-5 大滝

		1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	月合計
1月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					31	31	62
	真冬日					25	16	41
2月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					29	26	55
	真冬日					20	5	25
3月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					31	19	50
	真冬日					17	1	18
4月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					13	2	15
	真冬日					0	0	0
5月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
6月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
7月	真夏日					0	0	0
	夏日					1	2	3
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
8月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
9月	真夏日					0	0	0
	夏日					3	0	3
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
10月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
11月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					5	12	17
	真冬日					0	0	0
12月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					21	25	46
	真冬日					9	7	16
年合計	真夏日					0	0	0
	夏日					4	2	6
	冬日					131	115	246
	真冬日					71	29	100

表 4-6 上井出

		1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	月合計
1月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					31	29	60
	真冬日					9	2	11
2月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					7	19	26
	真冬日					5	0	5
3月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					28	0	28
	真冬日					0	0	0
4月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					2	2	4
	真冬日					0	0	0
5月	真夏日					0	0	0
	夏日					1	0	1
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
6月	真夏日					3	0	3
	夏日					14	3	17
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
7月	真夏日					1	0	1
	夏日					24	21	45
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
8月	真夏日					3	0	3
	夏日					4	9	13
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
9月	真夏日						0	0
	夏日					0	3	3
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
10月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
11月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					1	2	3
	真冬日					0	0	0
12月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					12	22	34
	真冬日					1	0	1
年合計	真夏日					7	0	7
	夏日					43	36	79
	冬日					81	79	160
	真冬日					15	2	17

表 4-7 御中道

		1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	1986年	月合計
1月	真夏日						0		0
	夏日						0		0
	冬日						29		29
	真冬日						0		0
2月	真夏日								
	夏日								
	冬日								
	真冬日								
3月	真夏日								
	夏日								
	冬日								
	真冬日								
4月	真夏日					0	0		0
	夏日					0	0		0
	冬日					9	0		9
	真冬日					1	28		29
5月	真夏日					0	0		0
	夏日					0	0		0
	冬日					6	0		6
	真冬日					0	0		0
6月	真夏日					0	0		0
	夏日					0	0		0
	冬日					0	0		0
	真冬日					0	0		0
7月	真夏日					0	0		0
	夏日					0	0		0
	冬日					0	0		0
	真冬日					0	0		0
8月	真夏日					0	0		0
	夏日					0	0		0
	冬日					0	0		0
	真冬日					0	0		0
9月	真夏日					0	0		0
	夏日					0	0		0
	冬日					0	0		0
	真冬日					0	0		0
10月	真夏日					0	0		0
	夏日					0	0		0
	冬日					1	0		1
	真冬日					0	0		0
11月	真夏日					0	0		0
	夏日					0	0		0
	冬日					5	22		27
	真冬日					0	4		4
12月	真夏日						0		0
	夏日						0		0
	冬日						16		16
	真冬日						9		9
年合計	真夏日					0	0		0
	夏日					0	0		0
	冬日					21	67		88
	真冬日					1	41		42

欠測月は、1984年1月～3月、12月、1985年2月～3月

表 4-8 消防本部

		1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	月合計
1月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	10	28	15	17	26	16	112
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
2月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	13	17	14	17	21	8	90
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
3月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	0	0	2	6	19	0	27
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
4月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
5月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	8	5	8	10	1	2	34
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
6月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	23	10	20	16	13	7	89
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
7月	真夏日	6	8	1	8	21	10	54
	夏日	16	20	22	15	9	17	99
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
8月	真夏日	4	11	8	20	25	21	89
	夏日	23	18	19	10	6	10	86
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
9月	真夏日	0	0	5	8	6	5	24
	夏日	20	18	12	13	17	15	95
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
10月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	3	6	6	7	0	7	29
	冬日	0	0	0	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
11月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	1	0	0	0	1
	冬日	0	0	0	1	0	0	1
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
12月	真夏日	0	0	0	0	0	0	0
	夏日	0	0	0	0	0	0	0
	冬日	17	5	8	16	7	11	64
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0
年合計	真夏日	10	19	14	36	52	36	167
	夏日	93	67	89	71	52	58	430
	冬日	40	57	39	61	73	35	305
	真冬日	0	0	0	0	0	0	0

表4-9 大宮

		1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	月合計
1月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					25	21	46
	真冬日					0	0	0
2月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					18	10	28
	真冬日					0	0	0
3月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					13	0	13
	真冬日					0	0	0
4月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
5月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	5	5
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
7月	真夏日					0	1	1
	夏日					14	9	23
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
7月	真夏日					24	21	45
	夏日					6	7	13
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
8月	真夏日					25	28	53
	夏日					5	3	8
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
9月	真夏日					8	8	16
	夏日					16	11	27
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
10月	真夏日					1	1	2
	夏日					6	5	11
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
11月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
12月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					0	13	13
	真冬日					0	0	0
年合計	真夏日					58	59	117
	夏日					47	40	87
	冬日					66	44	110
	真冬日					0	0	0

表4-10 笹原

		1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	月合計
1月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					23	19	42
	真冬日					0	0	0
2月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					21	14	35
	真冬日					0	0	0
3月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					14	0	14
	真冬日					0	0	0
4月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
5月	真夏日					0	0	0
	夏日					2	5	7
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
6月	真夏日					0	1	1
	夏日					8	7	15
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
7月	真夏日					19	19	38
	夏日					10	9	19
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
8月	真夏日					17	24	41
	夏日					5	7	12
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
9月	真夏日					7	8	15
	夏日					14	11	25
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
10月	真夏日					0	0	0
	夏日					6	8	14
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
11月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					0	0	0
	真冬日					0	0	0
12月	真夏日					0	0	0
	夏日					0	0	0
	冬日					0	11	11
	真冬日					0	0	0
年合計	真夏日					36	52	88
	夏日					45	90	135
	冬日					58	44	102
	真冬日					0	0	0

表4-11 1985年だけの観測地点

		二 中	上野中	黒田小	沼久保小
1月	真夏日	0	0	0	0
	夏 日	0	0	0	0
	冬 日	25	26	21	8
	真冬日	0	0	0	0
2月	真夏日	0	0	0	0
	夏 日	0	0	0	0
	冬 日	16	11	7	0
	真冬日	0	0	0	0
3月	真夏日	0	0	0	0
	夏 日	0	0	0	0
	冬 日	1	6	0	0
	真冬日	0	0	0	0
4月	真夏日	0	0	0	0
	夏 日	1	0	0	2
	冬 日	0	1	0	0
	真冬日	0	0	0	0
5月	真夏日	0	0	0	0
	夏 日	3	2	0	7
	冬 日	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0
6月	真夏日	1	0	0	0
	夏 日	4	5	0	16
	冬 日	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0
7月	真夏日	17	16	16	0
	夏 日	12	12	13	9
	冬 日	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0
8月	真夏日	6	14	27	0
	夏 日	0	16	4	9
	冬 日	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0
9月	真夏日	3	1	9	0
	夏 日	25	17	12	7
	冬 日	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0
10月	真夏日	3	1	0	0
	夏 日	26	2	6	0
	冬 日	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	0
11月	真夏日	0	0	0	0
	夏 日	0	1	0	0
	冬 日	0	0	0	0
	真冬日	0	0	0	11
12月	真夏日	0	0	0	0
	夏 日	0	0	0	0
	冬 日	26	12	8	0
	真冬日	0	0	0	0
年合計	真夏日	30	32	52	0
	夏 日	71	60	43	41
	冬 日	68	56	36	8
	真冬日	0	0	0	11

降水量

佐野幸弘

はじめに

今回の調査は、現在観測されている地点を拾い上げ、その観測データを活かしていくという形と、新たに観測点を設け、短期間ではあるが観測データとする形とで出発した。しかし、最終的にデータとして使用したのは、長期間の観測データが中心となった。

1 観測地点

観測地点は、御中道、大滝、二合目、上井出、品荒、天照教、建設大学、笹原、農業学園、大宮、消防本部、上野中、二中、黒田小の14箇所である。これらの観測地点の中には、少し手薄の地域もあるが、一応市内全域に広がっている。

2 観測方法

機械による自動読み取り、人手に頼る従来の方法等、観測地点により異なっている。また、同一の地点であっても途中から自動読み取り観測に切り替わった所もあり、その点統一性を欠いている。

3 データ処理方法

各観測地点における、前日9時から当日9時までの日降水量をデータとして分析を行った。

4 統計期間

1980年から1985年までの6年間の観測データを使用した地点は8箇所であり、1980年、1981年、1984年、1985年の4年間で1箇所、1984年、1985年の2年間で2箇所、1985年のみが3箇所である。中には、機械の凍結等による欠測がある。

5 降水量の概況

月別に、各観測地点のデータから、降水量を平均してみると、6月と8月に多く、12月と1月に少ないMの字形のグラフとなっている(図1-12, 表1-7)。年次別では1980年から1985年の移り変わりがサインカーブの様に大きく変化している(図2-12, 表2-12)。つまり、年によって降水量は大きく変化する。

6 各観測地点での年変化

(1) 月平均降水量

降水量のグラフは、多少の凸凹は有るものの、各観測地点とも、6月と8月が山、1月と12月が谷となっている。

各地点で、降水量が多い月と少ない月との差をみると、標高の高い地点はその差が大きく、低い地点とは、対照的である。

(2) 年次別降水量

1980年から1985年までの6年間で見ると、降水量は1984年が谷となり、どの地点も最低値を示している。また、総雨量では、大滝が最高値、大宮が最低値となっているが、高度差による特徴的なものはなく、ばらつきがみられる。

7 季節と降水量

12月から2月までを冬季、6月から8月までを夏季、中間をそれぞれ春季・秋季とする。どの地点も夏季が最高、冬季が最低、春・秋はほぼ平均値となっている(図3)。また、夏蒸し暑く、冬カラカラ天気といった様相を呈している。

8 調査結果

(1) 月平均

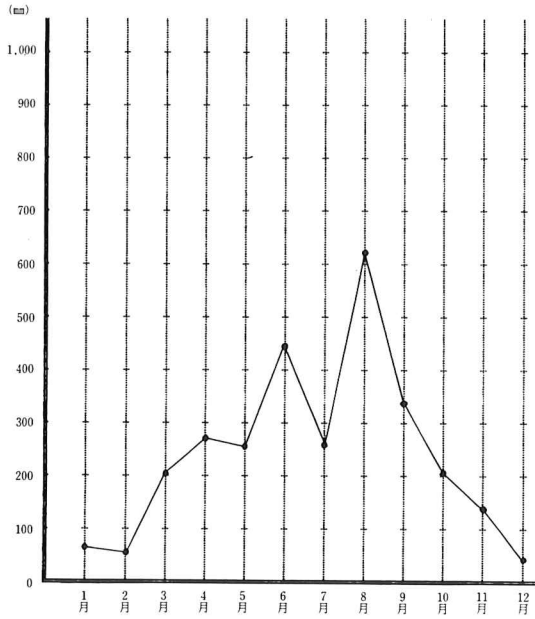


図 1-1 月平均降水量 御中道

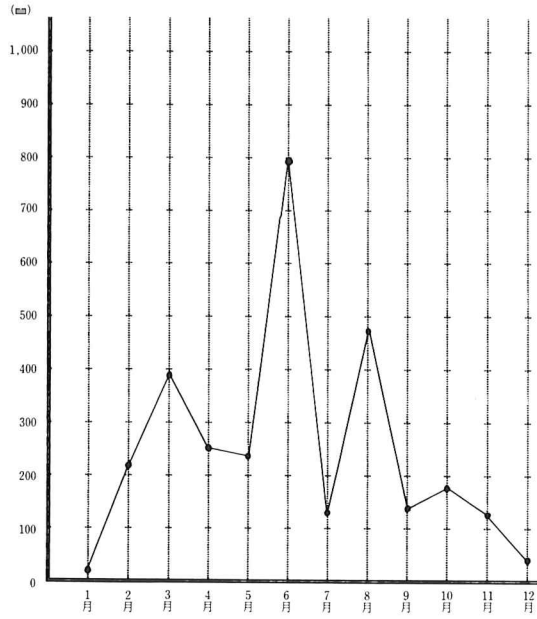


図 1-3 月平均降水量 二合目

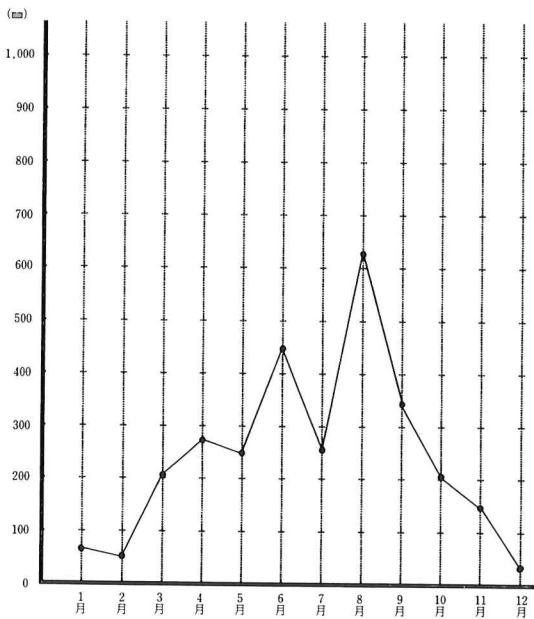


図 1-2 月平均降水量 大滝

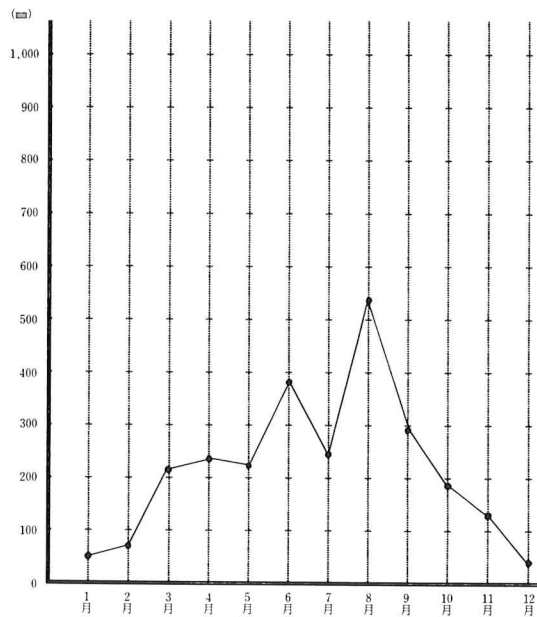


図 1-4 月平均降水量 上井出

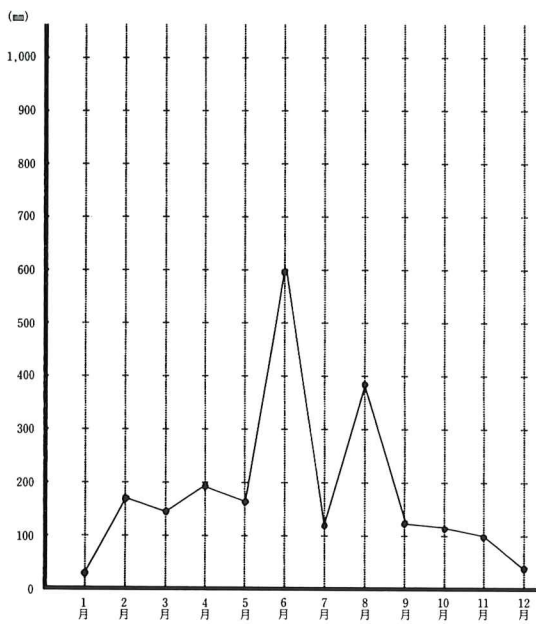


图 1—5 月平均降水量 品荒

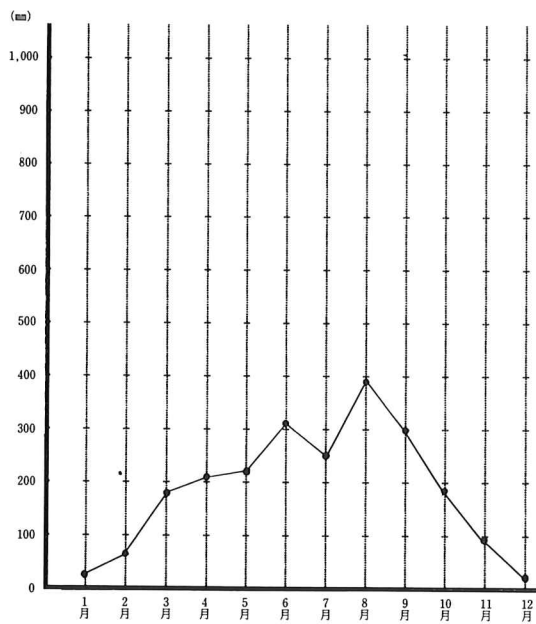


图 1—7 月平均降水量 建設大学

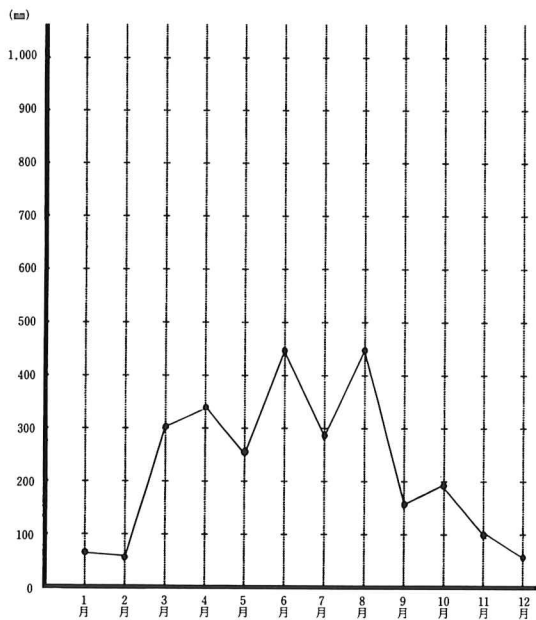


图 1—6 月平均降水量 天照教

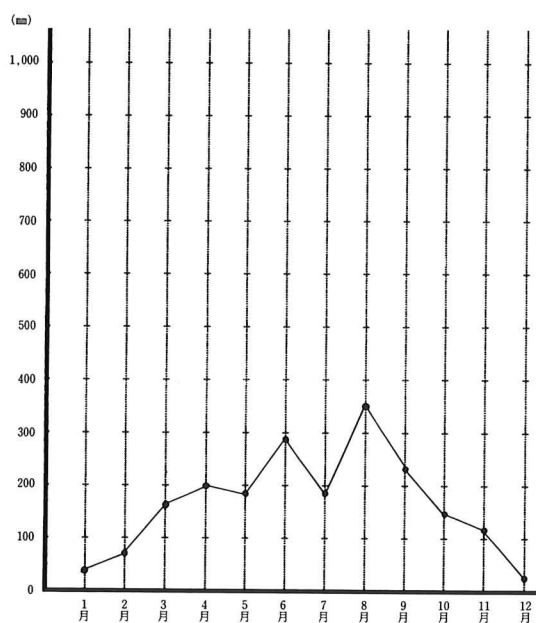


图 1—8 月平均降水量 笹原

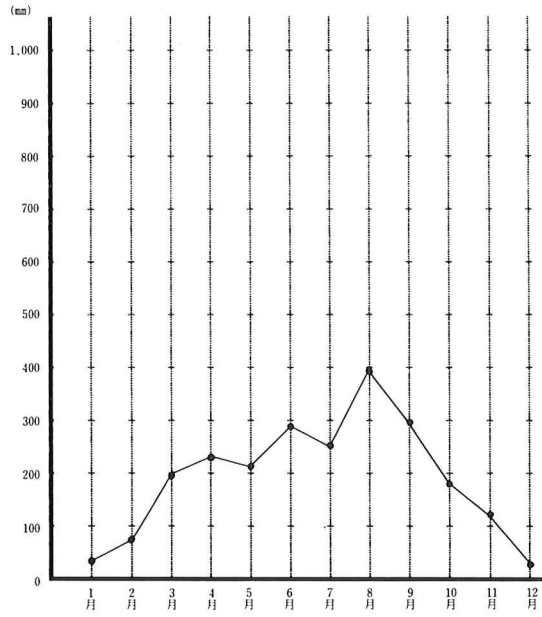


图 1-9 月平均降水量 農業学園

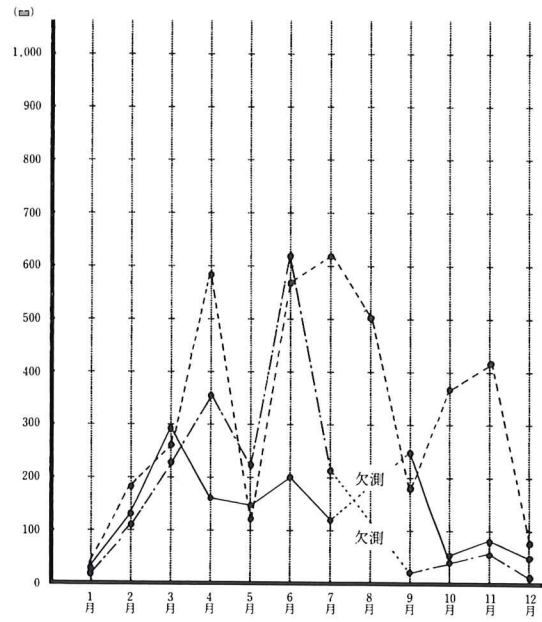


图 1-11 月別降水量—1985—

二 中 ——
上野中
黒田小 - - - -

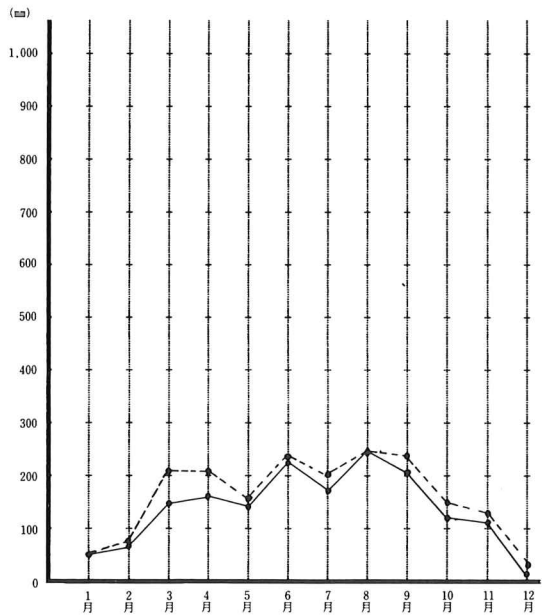


图 1-10 月平均降水量 大 宮 ——
消防本部
黒田小 - - - -

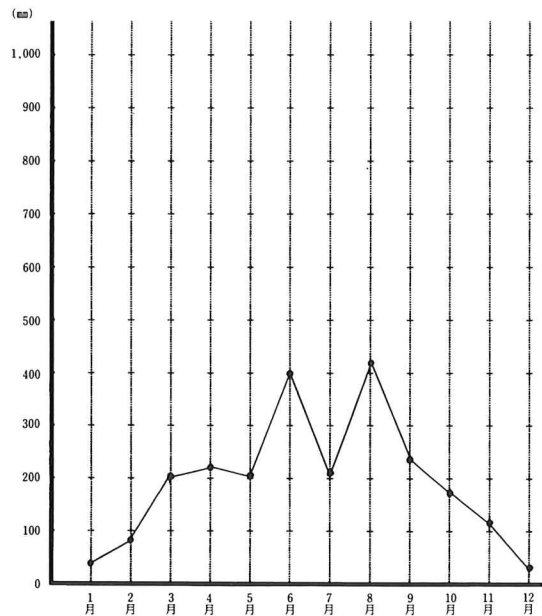


图 1-12 月平均降水量 全観測点

表1-1 各地点における月降水量 (1980年)

(単位: mm)

観測地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
御中道	39	5	91	275	320	446	409	229	433	306	97	25	2,675
大滝	106	14	230	344	339	448	339	181	376	296	145	37	2,855
二合目	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上井出	97	29	231	276	314	399	289	166	311	283	132	37	2,564
品荒	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
天照教	118	43	285	408	384	378	388	98	113	212	74	33	2,534
建設大学	-	-	-	295	360	440	295	165	230	247	113	37	2,182
笹原	92	26	205	226	270	282	271	147	204	197	102	32	2,054
農業学園	61	35	222	257	288	339	276	178	209	198	109	40	2,212
大宮	100	22	120	155	125	137	177	72	69	90	65	18	1,150
消防本部	111	15	237	215	238	227	307	177	146	172	143	34	2,022
平均	91	24	203	272	293	344	306	157	232	222	109	33	2,250

表1-2 各地点における月降水量 (1981年)

(単位: mm)

観測地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
御中道	-	17	185	141	266	184	188	963	491	360	114	4	2,913
大滝	-	43	310	290	311	206	231	620	427	291	161	15	2,905
二合目	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上井出	11	47	255	260	285	172	248	437	370	270	173	14	2,542
品荒	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
天照教	15	67	333	304	263	148	477	561	327	298	176	19	2,988
建設大学	12	68	98	230	253	195	223	237	303	269	144	12	2,044
笹原	8	63	179	241	199	168	173	258	271	257	143	12	1,972
農業学園	15	70	222	221	229	174	200	345	330	319	169	15	2,309
大宮	9	66	217	232	199	147	264	185	208	240	150	27	1,944
消防本部	10	77	284	191	162	79	177	169	164	272	180	18	1,783
平均	11	58	231	234	241	164	242	419	321	286	157	15	2,378

表1-3 各地点における月降水量 (1982年)

(単位: mm)

観測地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
御中道	37	29	87	180	139	105	198	1,370	668	265	287	21	3,386
大滝	96	83	214	238	160	365	379	1,360	644	190	326	59	4,114
二合目	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上井出	70	80	205	197	157	248	319	1,095	520	170	318	57	3,436
品荒	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
天照教	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建設大学	68	61	209	139	149	342	267	893	546	128	72	29	2,903
笹原	44	74	149	123	120	166	217	598	426	100	282	35	2,334
農業学園	41	72	188	158	125	249	238	662	545	120	300	41	2,739
大宮	44	88	135	115	97	157	265	220	447	111	301	34	2,014
消防本部	53	84	149	138	95	163	189	187	457	127	271	38	1,951
平均	57	71	167	161	130	224	259	798	532	151	270	39	2,860

表1-4 各地点における月降水量 (1983年)

(単位: mm)

観測地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
御中道	11	19	121	292	385	245	352	856	348	259	33	-	2,921
大滝	41	27	205	321	326	278	367	838	396	247	50	8	3,104
二合目	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上井出	46	50	253	299	286	265	291	720	359	177	37	16	2,799
品荒	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
天照教	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建設大学	46	44	226	83	190	87	269	547	381	249	46	17	2,185
笹原	49	43	213	247	254	204	208	546	289	185	33	10	2,281
農業学園	55	60	234	376	341	225	255	571	390	232	43	13	2,795
大宮	55	22	122	131	244	217	200	564	355	147	31	9	2,097
消防本部	58	57	232	286	234	234	194	594	365	169	27	15	2,465
平均	45	40	201	254	283	219	267	655	360	208	38	13	2,581

表 1-5 各地点における月降水量 (1984 年)

(単位: mm)

観測地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
御中道	-	13	6	71	92	363	97	524	99	95	83	30	1,473
大滝	-	13	16	109	115	393	165	524	76	77	95	75	1,658
二合目	-	-	-	148	150	574	105	622	97	137	142	70	2,045
上井出	7	27	57	106	119	404	199	564	78	80	85	58	1,784
品荒	-	-	8	108	126	441	149	535	116	87	106	57	1,733
天照教	-	-	-	-	143	557	134	743	82	100	57	65	1,881
建設大学	5	34	70	138	124	-	101	349	133	69	76	60	1,159
笹原	6	76	60	99	99	285	106	376	106	48	57	50	1,368
農業学園	4	66	32	134	109	305	123	417	118	58	70	59	1,495
大宮	34	76	88	106	110	332	78	330	76	39	61	45	1,375
消防本部	13	81	85	112	107	331	61	293	75	55	60	47	1,320
平均	12	48	47	113	118	399	120	480	96	77	81	56	1,572

表 1-6 各地点における月降水量 (1985 年)

(単位: mm)

観測地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
御中道	1	64	151	-	281	942	114	176	110	121	83	24	2,067
大滝	5	125	251	334	281	963	112	216	125	133	105	22	2,672
二合目	13	219	392	368	332	1,016	140	322	175	214	105	28	3,324
上井出	23	158	262	327	225	838	104	247	130	152	89	15	2,570
品荒	24	170	283	278	203	752	94	240	131	137	89	16	2,417
天照教	-	-	-	330	264	745	145	376	143	157	93	-	2,253
建設大学	30	128	294	375	227	512	401	147	195	117	113	14	2,553
笹原	18	146	186	251	149	622	109	174	113	90	75	10	1,943
農業学園	22	154	268	237	186	441	428	167	188	102	94	12	2,299
大宮	22	148	185	238	124	443	66	151	108	81	66	7	1,639
消防本部	23	141	265	291	132	455	272	92	237	95	87	11	2,101
平均	18	145	254	303	219	703	180	210	150	127	91	16	2,349

表1-7 各地点における平均月降水量 (1980年～1985年)

(単位: mm)

観測地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
御中道	22	25	107	224	247	381	226	686	358	234	116	21	2,573
大滝	62	51	204	273	255	442	266	623	341	206	147	36	2,885
二合目	13	219	392	258	241	795	123	472	136	176	124	49	2,685
上井出	42	65	211	244	231	388	242	538	295	189	139	33	2,616
品荒	24	170	146	193	165	597	122	388	124	112	98	37	2,075
天照教	67	55	309	347	264	457	286	445	166	192	100	49	2,414
建設大学	32	67	179	210	217	315	259	390	298	180	94	28	2,171
笹原	36	71	165	198	182	288	181	350	235	146	115	25	1,992
農業学園	33	76	194	231	213	289	253	390	297	172	131	30	2,308
大宮	44	70	145	163	150	239	175	254	211	118	112	23	1,703
消防本部	45	76	209	206	161	248	200	252	241	148	128	27	1,940
平均	38	86	206	232	211	404	212	435	246	170	119	33	2,306

(2) 年次別平均

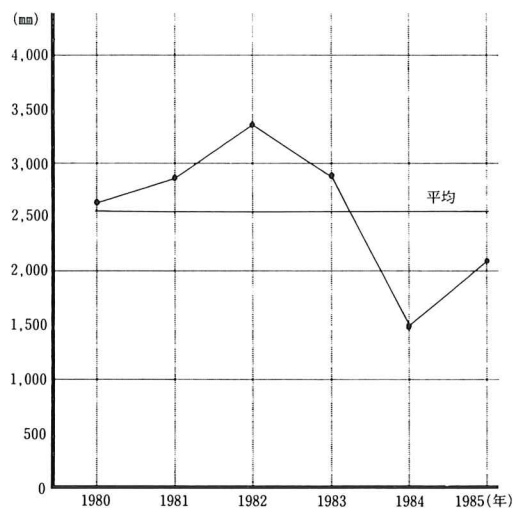


图 2-1 年次別降水量 御中道

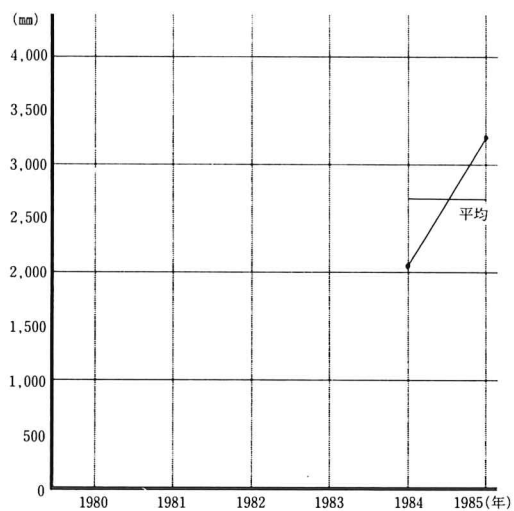


图 2-3 年次別降水量 二合目

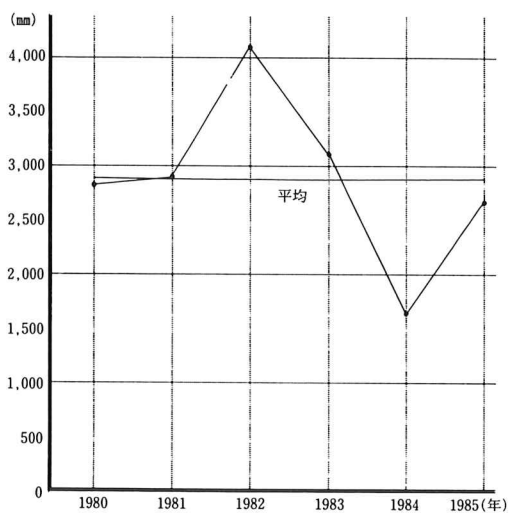


图 2-2 年次別降水量 大滝

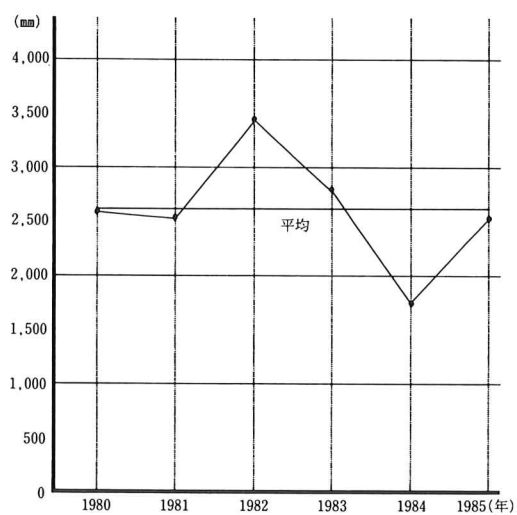


图 2-4 年次別降水量 上井出

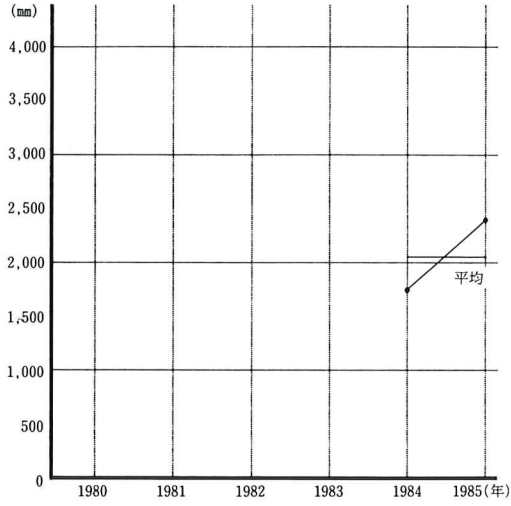


図 2-5 年次別降水量 品芝

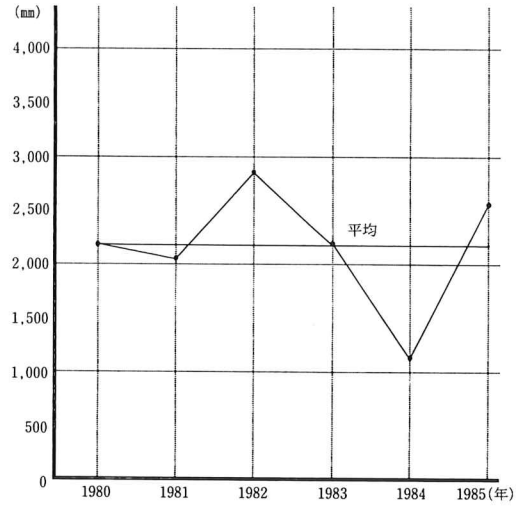


図 2-7 年次別降水量 建設大学

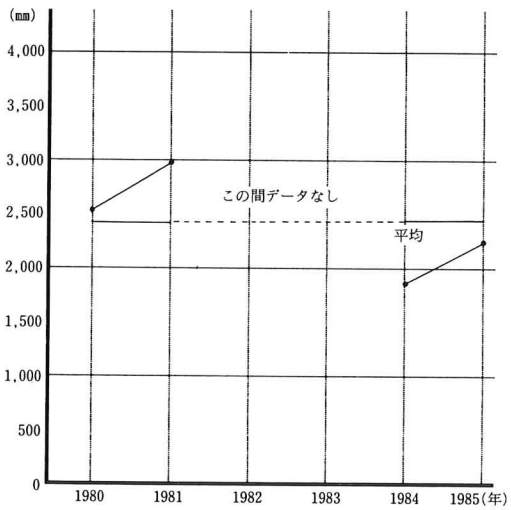


図 2-6 年次別降水量 天照教

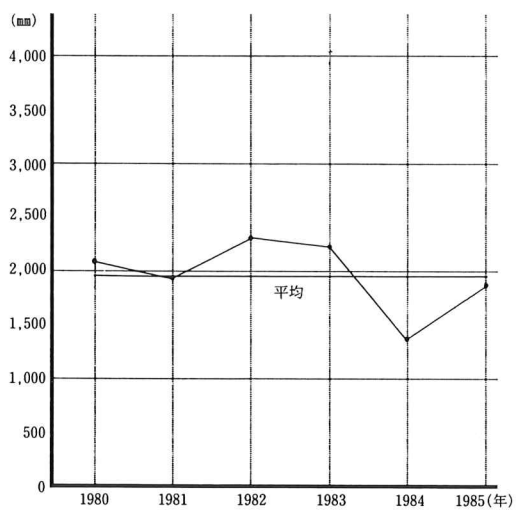


図 2-8 年次別降水量 笹原

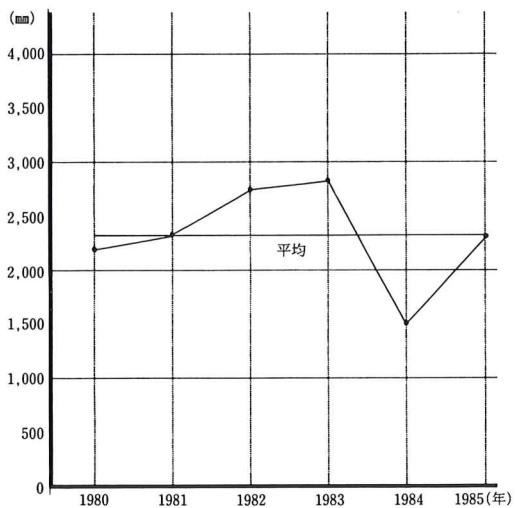


图 2-9 年次別降水量 農業学園

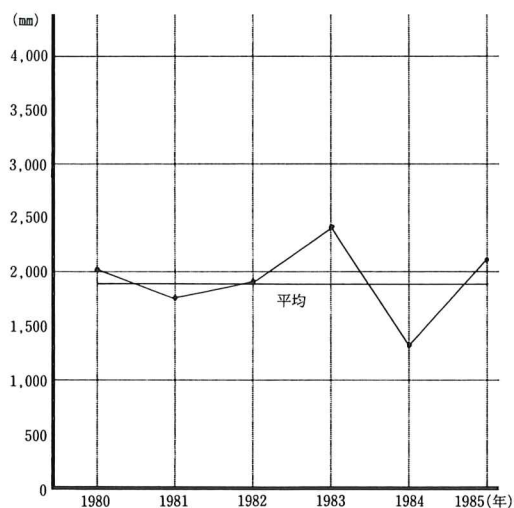


图 2-11 年次別降水量 消防本部

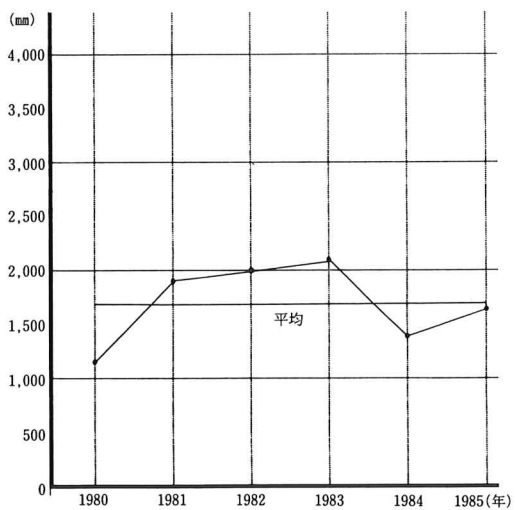


图 2-10 年次別降水量 大宮

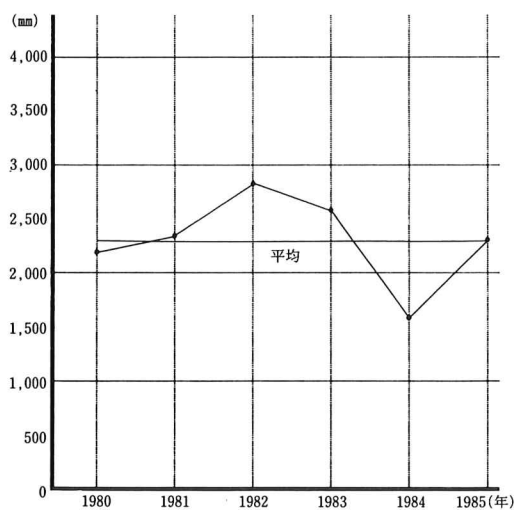


图 2-12 年次別降水量 全観測点

表 2-1 年次別月降水量 (御中道)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	39	5	91	275	320	446	409	229	433	306	97	25	2,675
1981年	-	17	185	141	266	184	188	963	491	360	114	4	2,913
1982年	37	29	87	180	139	105	198	1,370	668	265	287	21	3,386
1983年	11	19	121	292	385	245	352	856	348	259	33	-	2,921
1984年	-	13	6	71	92	363	97	524	99	95	83	30	1,473
1985年	1	64	151	-	281	942	114	176	110	121	83	24	2,067
平均	22	25	107	224	247	381	226	686	358	234	116	21	2,573

表 2-2 年次別月降水量 (大 滝)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	106	14	230	344	339	448	339	181	376	296	145	37	2,855
1981年	-	43	310	290	311	206	231	620	427	291	161	15	2,905
1982年	96	83	214	238	160	365	379	1,360	644	190	326	59	4,114
1983年	41	27	205	321	326	278	367	838	396	247	50	8	3,104
1984年	-	13	16	109	115	393	165	524	76	77	95	75	1,658
1985年	5	125	251	334	281	963	112	216	125	133	105	22	2,672
平均	62	51	204	273	255	442	266	623	341	206	147	36	2,885

表 2-3 年次別月降水量 (二合目)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1981年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1982年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1983年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1984年	-	-	-	148	150	574	105	622	97	137	142	70	2,045
1985年	13	219	392	368	332	1,016	140	322	175	214	105	28	3,324
平均	13	219	392	258	241	795	123	472	136	176	124	49	2,685

表 2-4 年次別月降水量 (上井出)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	97	29	231	276	314	399	289	166	311	283	132	37	2,564
1981年	11	47	255	260	285	172	248	437	370	270	173	14	2,542
1982年	70	80	205	197	157	248	319	1,095	520	170	318	57	3,436
1983年	46	50	253	299	286	265	291	720	359	177	37	16	2,799
1984年	7	27	57	106	119	404	199	564	78	80	85	58	1,784
1985年	23	158	262	327	225	838	104	247	130	152	89	15	2,570
平均	42	65	211	244	231	388	242	538	295	189	139	33	2,616

表 2-5 年次別月降水量 (品 荒)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1981年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1982年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1983年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1984年	-	-	8	108	126	441	149	535	116	87	106	57	1,733
1985年	24	170	283	278	203	752	94	240	131	137	89	16	2,417
平均	24	170	146	193	165	597	122	388	124	112	98	37	2,075

表 2-6 年次別月降水量 (天照教)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	118	43	285	408	384	378	388	98	113	212	74	33	2,534
1981年	15	67	333	304	263	148	477	561	327	298	176	19	2,988
1982年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1983年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1984年	-	-	-	-	143	557	134	743	82	100	57	65	1,881
1985年	-	-	-	330	264	745	145	376	143	157	93	-	2,253
平均	67	55	309	347	264	457	286	445	166	192	100	49	2,414

表 2-7 年次別月降水量 (建設大学)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	-	-	-	295	360	440	295	165	230	247	113	37	2,182
1981年	12	68	98	230	253	195	223	237	303	269	144	12	2,044
1982年	68	61	209	139	149	342	267	893	546	128	72	29	2,903
1983年	46	44	226	83	190	87	269	547	381	249	46	17	2,185
1984年	5	34	70	138	124	-	101	349	133	69	76	60	1,159
1985年	30	128	294	375	227	512	401	147	195	117	113	14	2,553
平均	32	67	179	210	217	315	259	390	298	180	94	28	2,171

表 2-8 年次別月降水量 (笹原)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	92	26	205	226	270	282	271	147	204	197	102	32	2,054
1981年	8	63	179	241	199	168	173	258	271	257	143	12	1,972
1982年	44	74	149	123	120	166	217	598	426	100	282	35	2,334
1983年	49	43	213	247	254	204	208	546	289	185	33	10	2,281
1984年	6	76	60	99	99	285	106	376	106	48	57	50	1,368
1985年	18	146	186	251	149	622	109	174	113	90	75	10	1,943
平均	36	71	165	198	182	288	181	350	235	146	115	25	1,992

表 2-9 年次別月降水量 (農業学園)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	61	35	222	257	288	339	276	178	209	198	109	40	2,212
1981年	15	70	222	221	229	174	200	345	330	319	169	15	2,309
1982年	41	72	188	158	125	249	238	662	545	120	300	41	2,739
1983年	55	60	234	376	341	225	255	571	390	232	43	13	2,795
1984年	4	66	32	134	109	305	123	417	118	58	70	59	1,495
1985年	22	154	268	237	186	441	428	167	188	102	94	12	2,299
平均	33	76	194	231	213	289	253	390	297	172	131	30	2,308

表 2-10 年次別月降水量 (大 宮)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	100	22	120	155	125	137	177	72	69	90	65	18	1,150
1981年	9	66	217	232	199	147	264	185	208	240	150	27	1,944
1982年	44	88	135	115	97	157	265	220	447	111	301	34	2,014
1983年	55	22	122	131	244	217	200	564	355	147	31	9	2,097
1984年	34	76	88	106	110	332	78	330	76	39	61	45	1,375
1985年	22	148	185	238	124	443	66	151	108	81	66	7	1,639
平均	44	70	145	163	150	239	175	254	211	118	112	23	1,703

表 2-11 年次別月降水量 (消防本部)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	111	15	237	215	238	227	307	177	146	172	143	34	2,022
1981年	10	77	284	191	162	79	177	169	164	272	180	18	1,783
1982年	53	84	149	138	95	163	189	187	457	127	271	38	1,951
1983年	58	57	232	286	234	234	194	594	365	169	27	15	2,465
1984年	13	81	85	112	107	331	61	293	75	55	60	47	1,320
1985年	23	141	265	291	132	455	272	92	237	95	87	11	2,101
平均	45	76	209	206	161	248	200	252	241	148	128	27	1,940

表 2-12 年次別月降水量 (全地点平均)

(単位: mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1980年	91	24	203	272	293	344	306	157	232	222	109	33	2,250
1981年	11	58	231	234	241	164	242	419	321	286	157	15	2,378
1982年	57	71	167	161	130	224	259	798	532	151	270	39	2,860
1983年	45	40	201	254	283	219	267	655	360	208	38	13	2,581
1984年	12	48	47	113	118	399	120	480	96	77	81	56	1,572
1985年	18	145	254	303	219	703	180	210	150	127	91	16	2,349
平均	39	64	184	223	214	342	229	453	282	179	124	29	2,332

(3) 季節別

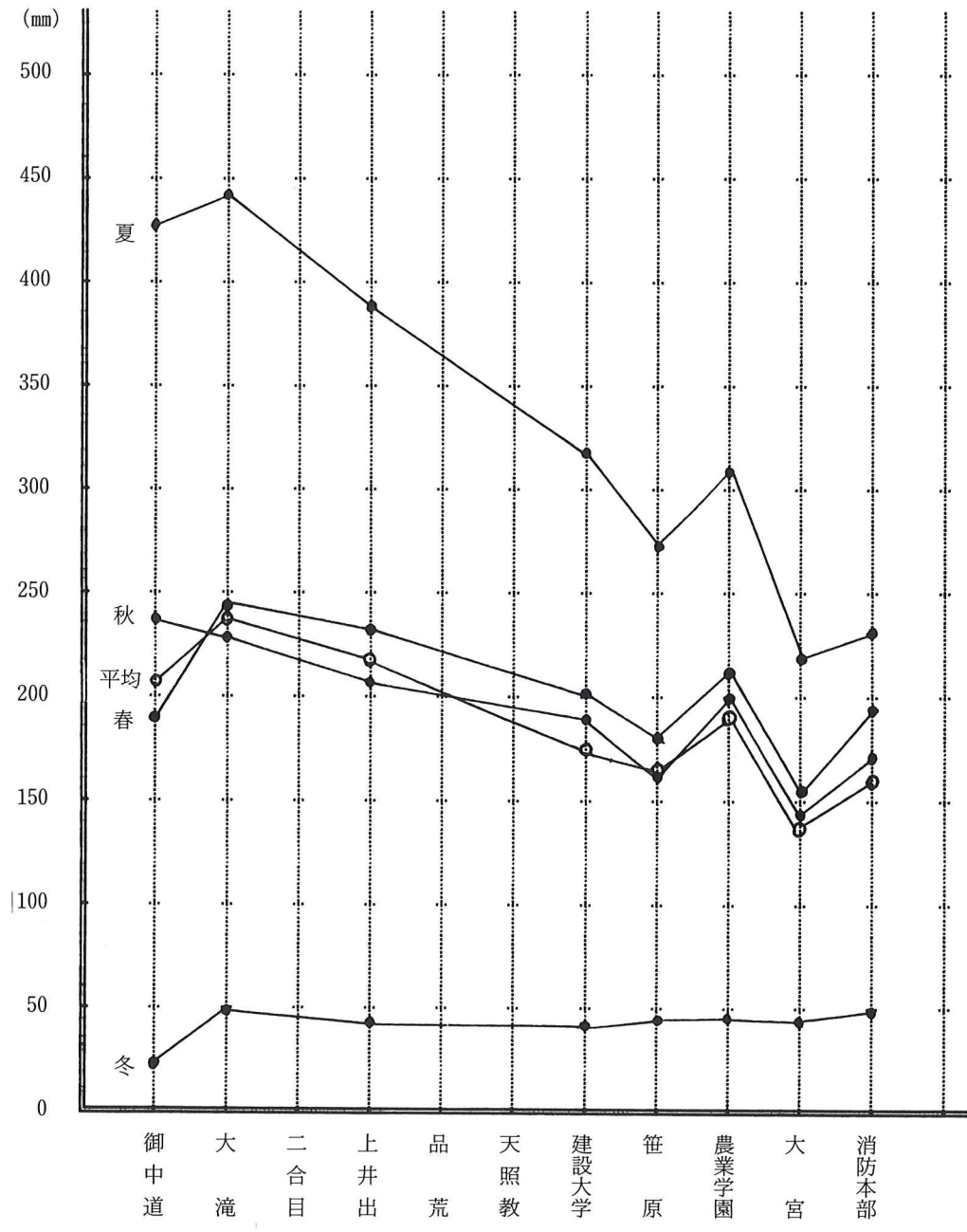


图3 季節別平均降水量

表3 季節別 月平均降水量（1980年～1985年）

（単位：mm）

観測地点	12月～2月の平均	3月～5月の平均	6月～8月の平均	9月～11月の平均	年間
御中道	23	193	431	236	214
大滝	50	244	444	231	240
二合目	—	—	—	—	—
上井出	47	229	389	208	218
品荒	—	—	—	—	—
天照教	—	—	—	—	—
建設大学	42	202	321	191	181
笹原	44	182	273	165	166
農業学園	46	213	311	200	192
大宮	46	153	223	147	142
消防本部	49	192	233	172	162
平均	43	201	328	194	189

風

齊藤 好

1 調査方法

観測を実施しているところから観測データを借用し、必要事項を読み取り集計した。

2 観測地点

○建設大学

朝霧高原の中央部に位置し、富士宮市域の最北地区の風を観測するには最も良い位置にある。

○農業学園

農地、山林の比較的多い地域で標高も市域の中程で、天子山脈寄りの風を観測には都合の良い地点である。

○御中道

富士山の西麓では、最も高所山腹の観測地点で、低い所の風との比較に最も都合の良い地点であるが、高所のため冬季観測機器が凍結し、観測データが得にくい。

○笹原

上井出地先にあり、農業学園に対し、白糸の滝をはさんで富士山寄りがあるので対比するのに都合の良い位置にある。

○消防本部

富士宮市域の南部に位置し、市街地の風について観測するのに都合の良い地点にある。

3 観測方法

建設省関係の建設大学、御中道、笹原などの地点では、自動観測装置による観測。

消防本部は、1980年～1984年までは定時観測、1985年からは自動観測装置により観測。

農業学園は9時のみの定時観測である。

4 データ処理方法

農業学園が9時の観測であったので、5地点の比較

ができるように、データより9時のみを読み取り、月・年ごとに集計し、風向は風配図に度数で示し、また、春（3月～5月）、夏（6月～8月）、秋（9月～11月）、冬（12月～2月）を同じく示した。

風速は、月・年の平均で示した。最大風速、風向は1年のみの集計であるので、表と季節毎の3位までを示した。

5 統計期間

1980年から1985年までの6年間とし、最大風速はデータの関係で1985年のみとした。

6 調査結果

(1) 各地点の年変化

a 建設大学

西に毛無山、東に富士山を控えているため、西方向と東方向の風はほとんど吹かないが、夏、秋の低気圧や台風の接近時には吹く。

6年間の集計によると、南、南南西、南西の南方向の風が最も多く53%。北、北北東、北東の北方向は34%である。

風速は他のどの地点よりも強く、年平均3m/秒を越えている。

これは朝霧高原の中央部に有り、風を遮るものがなく標高が高いためと考えられる。

b 農業学園

年間を通じて南南東の風が最も多く16%、次いで南西11%、南10%、南南西10%である。これは、芝川及び大倉川沿いに登ってくる風が多いためと考えられる。また、北7%、北北東5%、北東6%は建設大学に比べ非常に少なく、北北西、北西、西北西が多いのは、風が天子山脈に影響されるためと考えられる。風速が観測されていないのは残念である。

表1 風 向 9時 場所・建設大学 (単位:日)

年	方位	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	計
1980		23	30	11	3	4	0	4	5	49	60	27	3	2	0	1	3	225
1981		23	50	22	14	2	10	1	1	51	96	20	8	2	10	0	2	312
1982		39	54	23	12	0	3	3	8	59	62	24	3	2	3	4	2	301
1983		42	23	30	10	2	0	1	7	59	36	33	6	2	3	1	2	257
1984		50	34	30	12	6	4	2	5	76	56	24	2	1	3	1	9	315
1985		47	40	22	11	2	0	3	5	101	70	24	2	0	1	1	9	338
計		224	231	138	62	16	17	14	31	395	380	152	24	9	20	8	27	1,748

表2 風 速 9時 場所・建設大学 (単位:m)

年	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	平均
1980		—	—	—	3.8	4.4	3.2	—	3.0	4.0	4.1	3.8	3.5	29.8	3.7
1981		3.5	2.9	3.4	—	4.2	2.3	3.6	3.4	2.8	2.5	2.6	3.2	34.4	3.1
1982		3.2	3.1	3.6	3.1	3.2	3.6	2.3	3.0	3.5	4.1	2.9	3.0	38.6	3.2
1983		3.1	3.9	4.3	4.0	3.5	3.2	2.5	2.2	2.1	3.1	3.2	2.7	37.8	3.2
1984		3.2	3.0	2.7	3.0	3.5	3.0	2.9	2.1	2.9	3.5	3.0	3.4	36.2	3.0
1985		2.8	3.2	4.2	4.7	3.5	2.4	2.5	2.3	2.3	2.6	3.0	2.5	36.0	3.0
計		15.8	16.1	18.2	18.6	22.3	17.7	13.8	16.0	17.6	19.9	18.5	18.3	—	19.2
平均		3.2	3.2	3.6	3.7	3.7	3.0	2.8	2.7	2.9	3.3	3.1	3.1	—	3.2

表3 風 向 9時 場所・農業学園 (単位:日)

年	方位	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	計
1980		7	0	7	6	26	25	27	95	33	0	77	44	0	2	2	0	351
1981		17	4	24	9	10	6	35	141	28	26	28	12	5	3	10	6	364
1982		27	21	28	19	18	14	21	26	26	43	31	30	18	14	17	11	364
1983		48	13	19	16	18	24	32	31	40	35	30	15	9	7	6	19	362
1984		30	36	26	12	14	10	20	26	45	58	33	13	5	5	6	27	366
1985		33	30	22	6	11	17	26	30	45	47	37	13	8	5	9	22	361
計		162	104	126	68	97	96	161	349	217	209	236	127	45	36	50	85	2,168

c 御中道

観測結果を見ると、風向は、北と南の方向が圧倒的に多く南12%、南南東12%、南東11%であり、北方向は、北9%、北北東8%、北東9%である。これは富士山の西面に位置するので、南と北が開けているためである。東風は、“富士おろし”も考えられるが、9時の観測時では少なく、西風も1%と非常

に少ない。最も標高の高い観測地点であるので、西風の多いことを予想したが、結果的には最も少ない。これは冬季の欠測によるものと考えられる。また、天子山脈に遮られ、この高さでは、偏西風の影響を受けないためとも考えられる。風速は冬季と夏季との差が大きく、夏季は平地とあまり大差はないが、冬季は平均4m/秒を越し4倍となっている。

表4 風 向 9時 場所・御中道 (単位:日)

年	方位	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	計
1980		18	15	24	10	20	17	24	27	38	13	8	8	5	4	11	11	253
1981		19	13	16	9	13	12	21	14	20	2	0	0	0	0	0	6	145
1982		9	16	8	10	6	13	13	13	12	8	2	2	0	1	3	7	123
1983		21	18	16	10	13	12	19	20	20	15	3	0	3	0	0	14	184
1984		2	4	6	7	8	7	8	13	8	3	0	0	0	1	2	3	72
1985		13	13	20	14	18	8	22	26	14	2	0	1	2	1	7	10	171
計		82	79	90	60	78	69	107	113	112	43	13	11	10	7	23	51	948

表5 風 速 9時 場所・御中道 (単位:m)

年	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	平均
1980		5.3	6.5	—	—	4.0	3.3	3.1	2.2	3.9	3.8	4.4	4.6	41.1	4.1
1981		3.2	3.1	—	—	1.8	1.6	1.0	2.1	1.8	2.9	3.3	3.2	24.0	2.4
1982		3.6	4.4	—	—	1.0	—	1.3	—	1.5	1.8	4.0	4.0	21.6	2.7
1983		3.1	3.9	—	—	2.5	1.6	1.9	1.2	1.4	4.4	3.0	3.3	26.3	2.6
1984		3.4	—	—	—	1.6	2.4	1.5	—	—	—	—	—	—	—
1985		3.7	5.2	—	—	2.8	1.5	1.4	1.1	2.2	2.4	4.1	4.7	29.1	2.9
計		22.3	23.1	—	—	13.7	10.4	10.2	6.6	10.8	15.3	18.8	19.8	—	—
平均		3.7	4.6	—	—	2.3	2.1	1.7	1.7	2.2	3.1	3.8	4.0	—	—

d 笹原

風向は、南南西28%、南19%、南西9%と南南西を中心とする風が60%近い。また、逆に北北東16%、北9%とこれも25%である。これは地形的にみて潤井川沿いに吹き上がってくる風が多いと考えられる。風速は、観測地点の中では最も低い。

e 消防本部

最も周囲が開けた所にあるが、風向は他の観測地

点と同じような傾向にあり、南37%、南南東8%、南南西6%、南西8%、南東9%と南方向が圧倒的に多い。

これは、潤井川沿い及び富士川を吹き登る風の一部が星山丘陵沿いに吹いてくるためと考えられる。北は6%、北西6%、西6%と同じような割合であり、富士山側の東北東は非常に少ない。

風速は、年平均1.3m/秒と弱く、また、強弱の差も少ない。

表6 風 向 9時 場所・笹 原 (単位:日)

年	方位	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	計
1980		28	44	7	3	8	6	8	37	103	71	11	7	6	0	2	5	346
1981		24	28	0	0	0	1	5	12	30	16	3	0	0	0	0	1	120
1982		8	20	7	0	0	0	2	9	10	20	6	0	0	0	0	0	82
1983		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1984		10	14	6	0	0	0	0	0	13	51	50	0	0	0	0	0	144
1985		0	23	10	0	0	0	1	1	4	70	20	1	1	0	0	0	131
計		70	129	30	3	8	7	16	59	160	228	90	8	7	0	2	6	823

表7 風 速 9時 場所・笹 原 (単位:m)

年	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	平均
1980		3.4	3.0	3.2	2.5	2.5	2.0	2.0	2.1	2.3	2.2	2.2	2.1	29.5	2.5
1981		0.9	0.5	1.0	0.9	1.2	0.4	0.9	0.7	0.5	1.0	0.5	0.8	9.3	0.8
1982		0.8	1.2	1.7	1.1	1.1	0.6	0.2	0.4	0.6	0.5	0.2	0.2	8.6	0.7
1983		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1984		0.7	0.5	—	—	—	0.4	1.0	1.1	1.1	1.4	1.1	1.0	—	—
1985		0.7	1.0	0.9	1.0	0.9	0.6	0.8	0.8	0.6	0.5	0.6	0.7	9.1	0.8
計		6.5	6.2	6.8	5.5	5.7	4.0	4.9	5.1	5.1	5.6	4.6	4.8	—	—
平均		1.3	1.2	1.7	1.4	1.4	0.8	1.0	1.0	1.0	1.1	0.9	1.0	13.8	1.2

表8 風 向 9時 場所・消防本部 (単位:日)

年	方位	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	計
1980		17	2	2	0	6	0	11	1	86	0	12	0	13	0	7	3	160
1981		16	0	0	0	4	1	9	4	111	2	8	0	11	0	8	0	174
1982		11	0	2	0	7	1	20	5	76	5	11	0	6	1	14	3	162
1983		5	0	1	1	9	0	25	8	60	3	11	1	8	1	17	5	155
1984		9	0	1	2	5	2	11	15	84	12	22	10	8	7	16	4	208
1985		10	2	3	2	7	16	30	68	41	56	37	30	24	15	6	17	364
計		68	4	9	5	38	20	106	101	458	78	101	41	70	24	68	32	1,223

表9 風 速 9時 場所・消防本部 (単位:m)

年	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	平均
1980		0.5	0.8	1.7	1.4	1.7	1.2	1.5	1.1	1.6	1.3	0.8	0.7	14.3	1.2
1981		0.9	0.9	0.6	1.1	1.5	1.7	1.9	1.4	1.3	1.6	1.0	0.9	14.8	1.2
1982		0.6	1.1	1.8	1.5	2.1	1.6	1.3	1.5	1.0	0.6	0.7	0.5	14.3	1.2
1983		0.5	0.9	1.4	1.6	1.9	1.8	1.6	1.6	1.0	0.5	0.4	0.5	13.7	1.1
1984		1.1	0.5	0.8	1.6	1.8	1.3	1.6	1.6	1.8	1.5	1.1	1.6	16.3	1.4
1985		1.4	1.7	2.0	2.1	2.4	1.9	2.0	1.8	1.4	1.4	1.4	1.4	20.9	1.7
計		5.0	5.9	8.3	9.3	11.4	9.5	9.9	9.0	8.1	6.9	5.4	5.6	94.3	7.8
平均		0.8	1.0	1.4	1.6	1.9	1.6	1.7	1.5	1.4	1.2	0.9	0.9	15.9	1.3

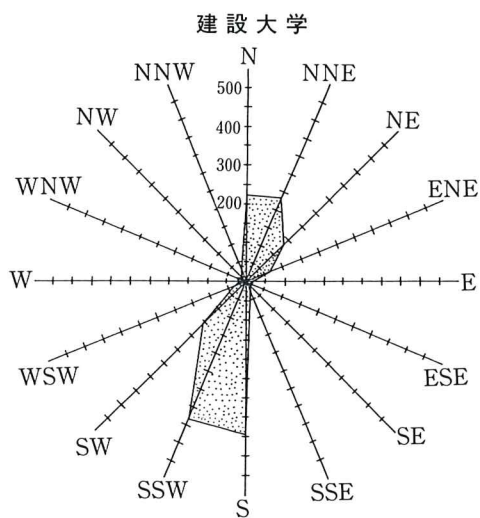


図 1-1

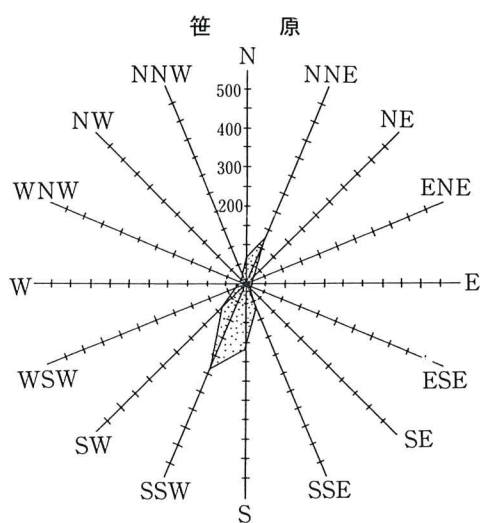


図 1-4

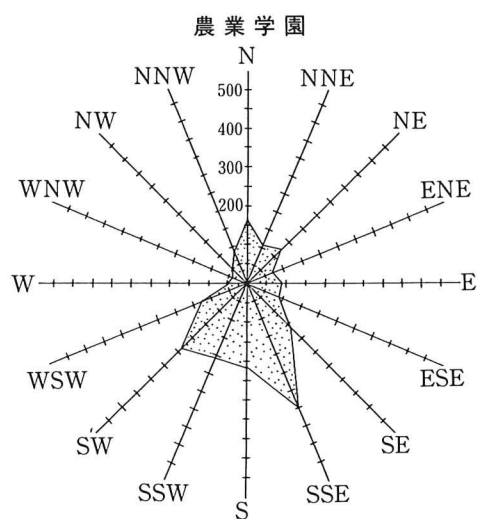


図 1-2

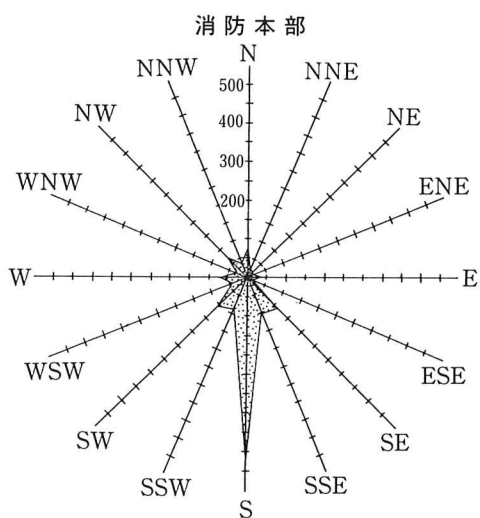


図 1-5

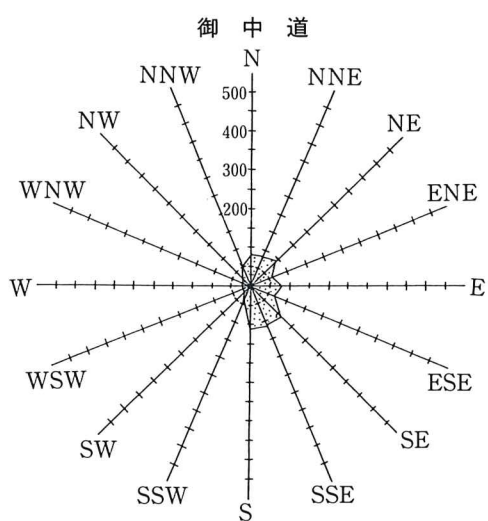


図 1-3

(2) 季節と風

a 春の風

富士宮市域は、圧倒的に南からの風が多い。駿河湾から吹いてくる風は、潤井川沿いに北上し、市街地では南風となり、白糸の原地区では芝川、大倉川に沿って北上し、南南東と南南西の風となる。

上井出の笹原では、潤井川沿いに北上し、南南西の風となっている。また、朝霧高原は、平坦で北東に開けているため、その方向に風が吹き抜け、南か南南西の風が吹く。

南風の時は、比較的天気は良いが、他の風向の風

が吹く時は天気が崩れる。特に、北方向の風は天気が崩れ、吹く風も強い。

風速は、建設大学が最も強い。御中道は、さらに高所にあるため、ここより強いことが予想されるが資料不足で何とも言えない。

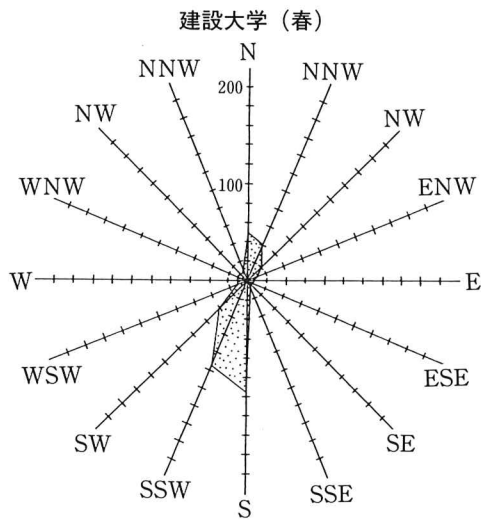


図 2-1

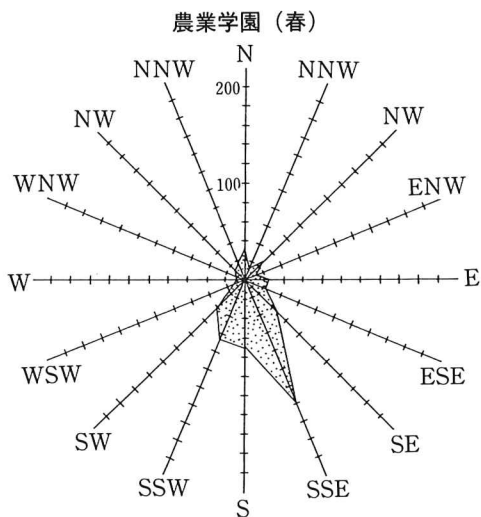


図 2-2

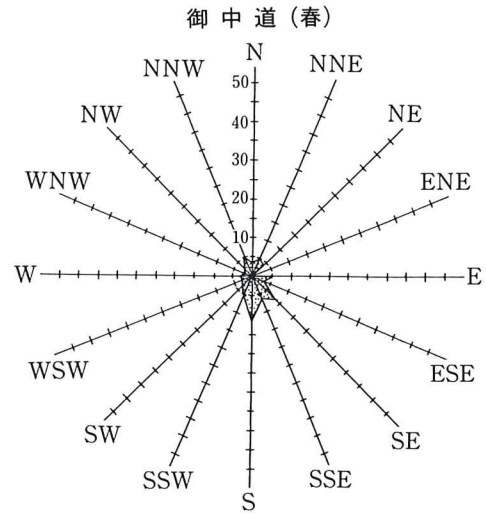


図 2-3

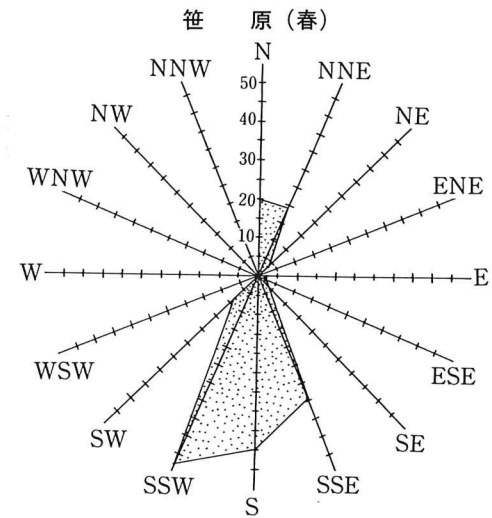


図 2-4

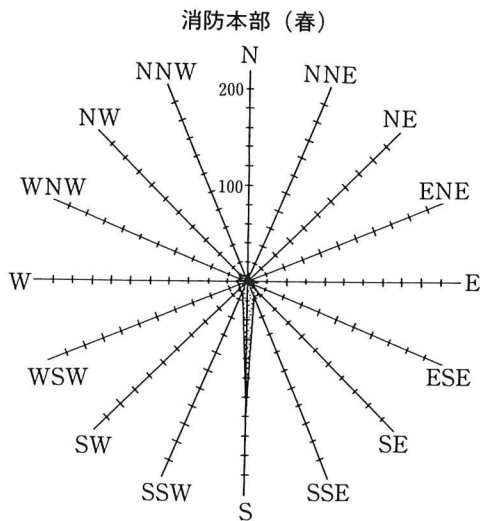


図 2-5

b 夏の風

風力は、春に比べると弱い。市街地の消防本部を除き、他の地点では一年中で最も風の弱い時期である。風は南か南東から市内に吹き込み、天子山脈にぶつかり北東の山梨県の郡内地方に吹き抜けている。

この時期の強い風は、ほとんどが南風である。農業学園や建設大学の観測でも、南南西、南西の風がほとんどである。これは富士川を上り、芝川町より芝川、大倉川沿いを吹き上る風が多いことが考えられる。

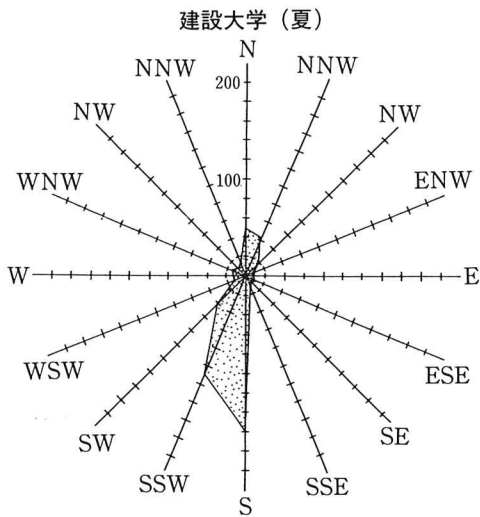


図 3-1

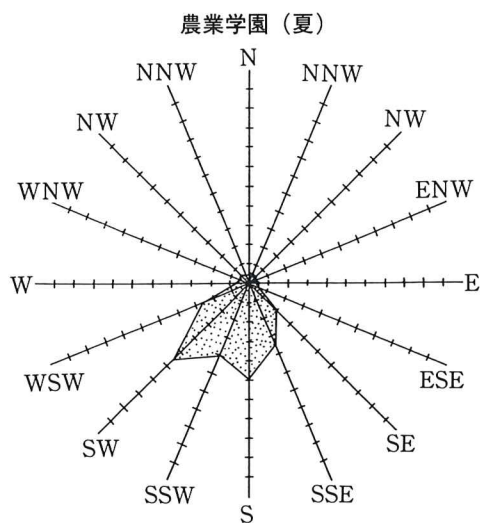


図 3-2

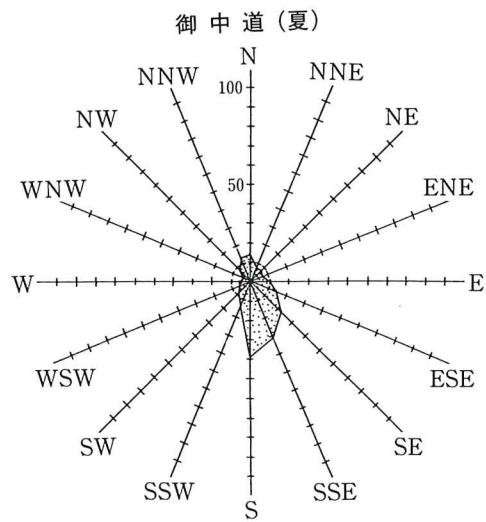


図 3-3

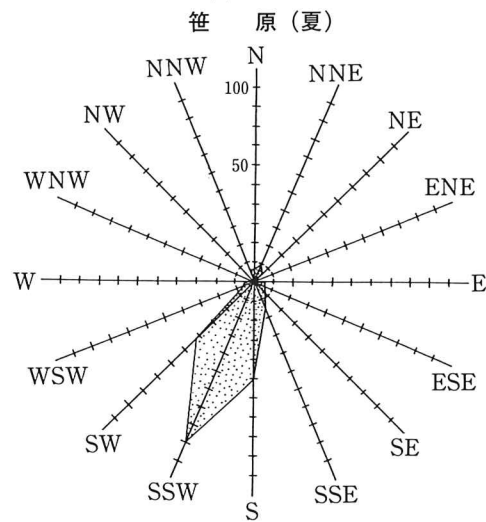


図 3-4

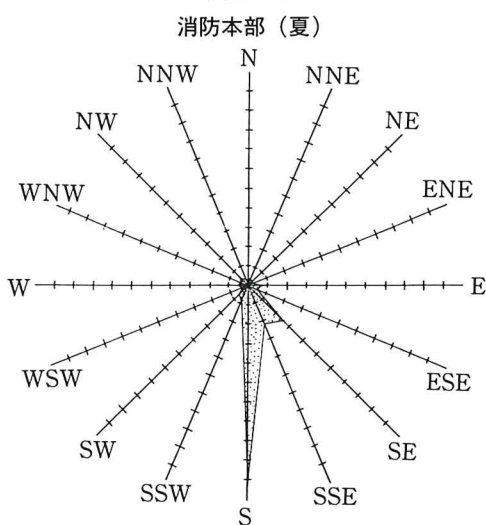


図 3-5

c 秋の風

風向は、南南東が減り、南西、北、北北東が増えてくる。風速は、低地が弱いのに御中道、建設大学等の高所は強くなっている。これは、この時期上空に強い北西の風が入って来ていることによるものと考えられる。

この現象は、局地の地形の影響を受けて風向を変えるなど消防本部、農業学園等に顕著に表われている。

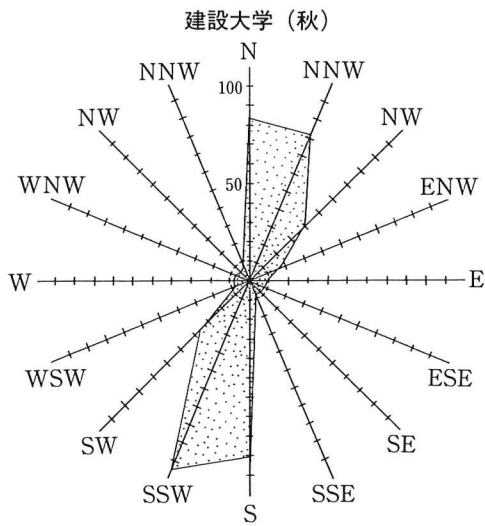


図4-1

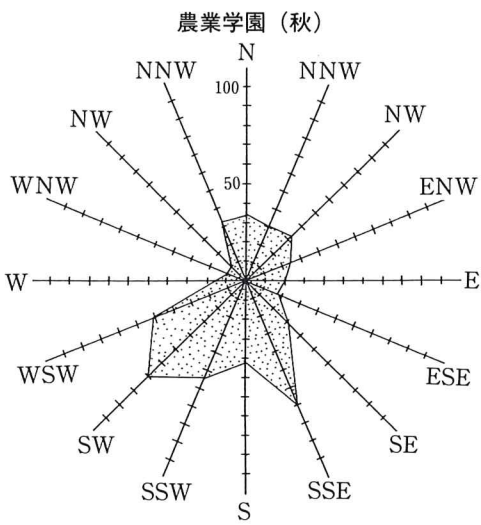


図4-2

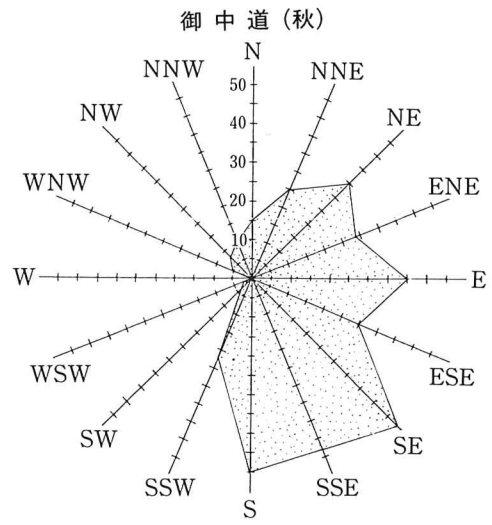


図4-3

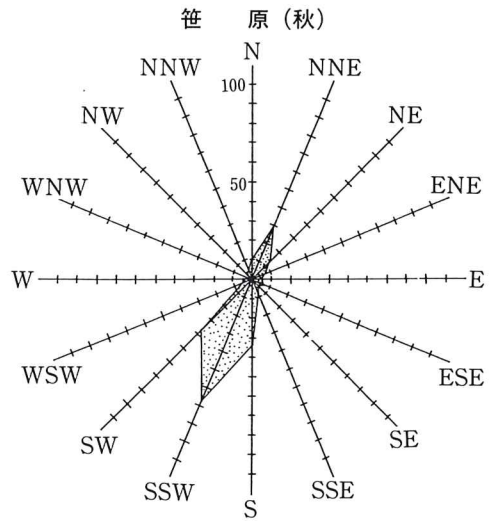


図4-4

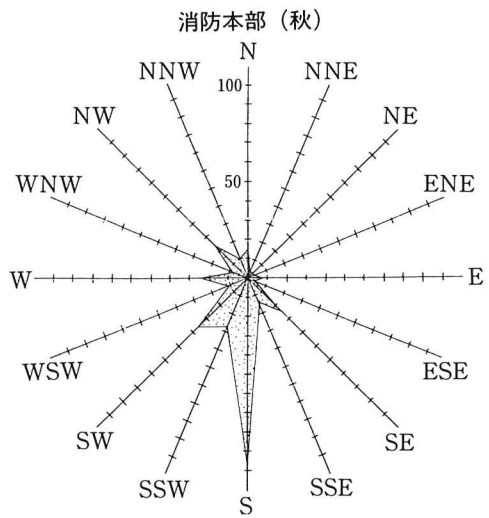


図4-5

d 冬の風

風向は、北から北東が多い。これは、富士宮市域に山梨県の郡内地方から風が吹き込んでいることを示している。

しかし、富士川を上り星山、沼久保からも南方向の風が吹き込んでおり、消防本部では南西、西風も多い。

一方向の風の多い建設大学や御中道では、風力が強いが、風の交差する笹原、消防本部では、逆に風力は弱められる結果となっている。

建設大学 (冬)

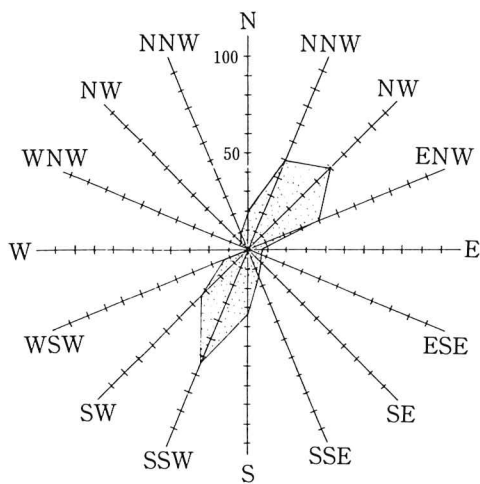


図 5-1

農業学園 (冬)

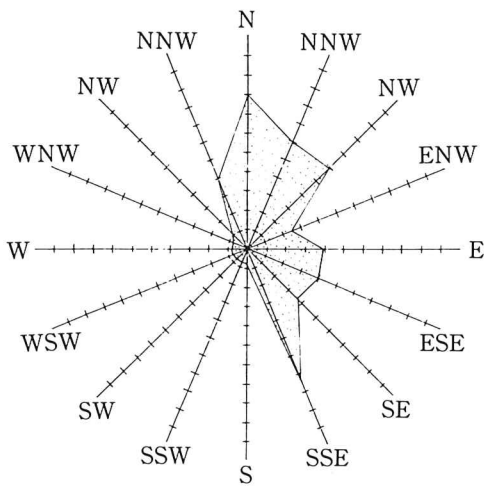


図 5-2

御中道 (冬)

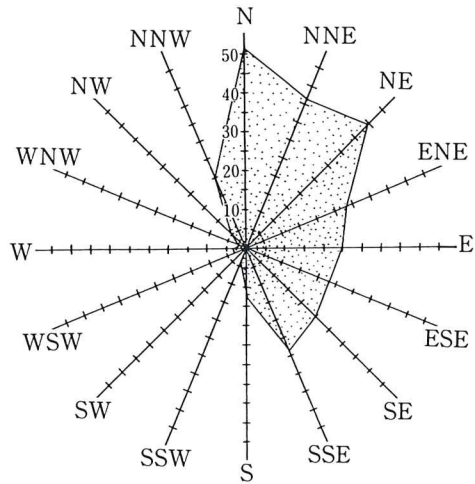


図 5-3

笹原 (冬)

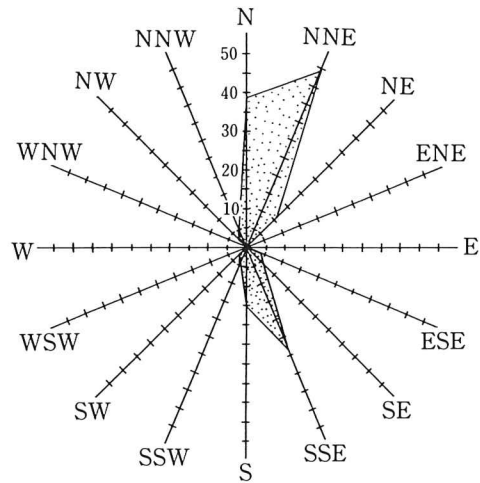


図 5-4

消防本部 (冬)

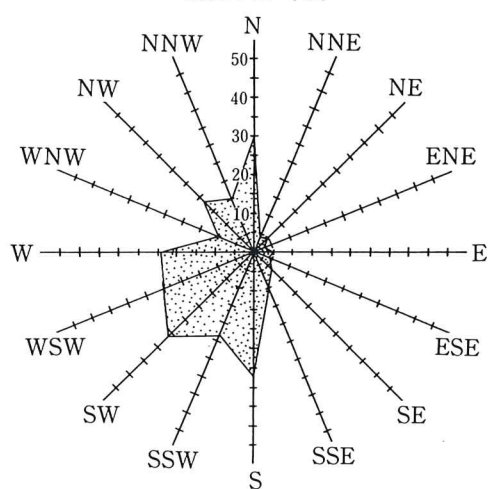


図 5-5

(3) 最大風速

a 1985年の各地における最大風速, 風向

表10 最大風速の風向

(単位: 日)

観測地点 \ 方位	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	計
建設大学	74	44	24	2	1	0	0	3	104	64	11	2	0	0	2	13	344
御中道	23	16	36	42	35	28	23	15	14	1	2	1	1	0	8	15	260
笹原	3	78	23	0	0	0	2	5	20	158	54	4	1	1	0	0	349
消防本部	12	1	1	0	6	17	33	153	43	22	6	8	12	14	14	23	365

表11 最大風速

(単位: m)

観測地点 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
建設大学	8.5	12.2	10.4	10.9	9.2	10.3	7.9	7.6	7.5	8.8	9.2	9.6	9.3
御中道	16.1	16.2	—	—	11.4	11.8	9.3	7.3	10.9	13.4	14.6	16.9	12.8
笹原	6.2	8.0	5.3	6.5	5.9	5.4	4.7	5.4	4.0	4.9	5.9	5.6	5.7
消防本部	8.8	12.0	8.4	9.6	9.1	7.7	8.5	8.6	6.9	6.7	8.1	9.0	8.6

b 観測地点における最大風速の季節ごとの極値

表12 季節の最大風速 (1985年)

(単位: m)

観測地点	季節	春			夏			秋			冬		
		順位	月日	風向	風速	月日	風向	風速	月日	風向	風速	月日	風向
建設大学	1	5/15	N	18.5	6/30	S	26.0	11/12	SSW	17.5	2/19	N	18.0
	2	4/12	NNW	18.5	7/1	S	18.5	11/28	SSW	14.0	2/23	NW	17.5
	3	3/9	SSE	16.5	6/22	—	16.5	11/15	N	13.5	2/24	NNE	17.5
御中道	1	5/25	SSE	29.0	6/8	E	32.0	11/24	E	23.5	2/9	SSE	31.0
	2	5/20	S	17.0	6/30	SE	31.0	11/13	NE	22.0	12/9	ENE	23.0
	3	5/26	S	16.5	7/1	S	30.5	11/28	SSE	21.5	2/16	ENE	22.0
笹原	1	5/15	ESE	14.0	6/30	S	15.5	11/2	N	14.0	1/13	N	16.5
	2	4/12	NNE	13.0	8/30	S	12.5	11/12	S	13.0	2/20	NE	14.0
	3	3/31	N	12.5	7/1	S	12.0	11/25	E	12.0	2/14	—	13.5
消防本部	1	5/25	SSE	18.4	7/1	ESE	20.6	11/2	N	21.1	2/19	NNW	23.2
	2	3/31	N	18.2	8/30	E	15.2	11/3	WNW	16.6	2/13	N	19.8
	3	4/12	WNW	15.8	6/30	SSE	14.5	11/12	WSW	15.0	2/14	N	19.7

c 季節の最大風速の風向

表13 季節の最大風速の風向 (1985年)

場所・建設大学 (単位:日)

季節 \ 方位	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	計
春	23	8	4	1	0	0	0	2	31	14	0	0	0	0	0	6	89
夏	17	6	6	0	0	0	0	0	33	16	5	0	0	0	0	2	85
秋	20	14	7	1	1	0	0	1	20	17	4	1	0	0	0	2	88
冬	14	16	7	0	0	0	0	0	20	17	2	1	0	0	2	3	82
年間	74	44	24	2	1	0	0	3	104	64	11	2	0	0	2	13	344

表14 季節の最大風速の風向 (1985年)

場所・御中道 (単位:日)

季節 \ 方位	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	計
春	1	0	0	2	2	1	3	2	2	0	0	0	0	0	0	3	16
夏	9	5	8	6	8	7	13	4	10	1	1	1	1	0	3	5	82
秋	5	3	13	16	20	17	5	6	1	0	0	0	0	0	3	2	91
冬	8	8	15	18	5	3	2	3	1	0	1	0	0	0	2	5	71
年間	23	16	36	42	35	28	23	15	14	1	2	1	1	0	8	15	260

表15 季節の最大風速の風向 (1985年)

場所・笹原 (単位:日)

季節 \ 方位	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	計
春	1	19	0	0	0	0	1	2	10	34	9	0	0	0	0	0	76
夏	0	12	1	0	0	0	1	3	4	62	8	0	0	1	0	0	92
秋	1	18	17	0	0	0	0	0	3	26	24	1	1	0	0	0	91
冬	1	29	5	0	0	0	0	0	3	36	13	3	0	0	0	0	90
年間	3	78	23	0	0	0	2	5	20	158	54	4	1	1	0	0	349

表16 季節の最大風速の風向 (1985年)

場所・消防本部 (単位:日)

季節 \ 方位	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	計
春	2	0	1	0	1	5	17	39	17	2	1	0	1	2	2	2	92
夏	0	0	0	0	2	6	12	49	11	6	0	1	0	2	0	3	92
秋	2	0	0	0	1	4	3	38	11	9	2	3	0	6	7	5	91
冬	8	1	0	0	2	2	1	27	4	5	3	4	11	4	5	13	90
年間	12	1	1	0	6	17	33	153	43	22	6	8	12	14	14	23	365

気象と 市民生活

花井延三

は じ め に

富士宮市域は比較的良好な気候に恵まれているが、地形は山地、台地、丘陵地などの傾斜地が広い範囲を占めているために、集中豪雨、暴風雨などの異常気象に見舞われると、大きな自然災害を起こすことがある。

また、高原地や山地の麓の地域では、特有の霧や霜の発生が見られ、そこに生活する市民に大きな影響を与えている。

1 集中豪雨による災害

- (1) 昭和47年(1972)7月12日、富士宮市域北部地域を襲った集中豪雨は、建設省富士砂防工事事務所上井出観測所で、14時50分から15時50分の1時間に観測した雨量が153mm(史上最大の時間降雨量)というものであった。

このため、富士山の大沢から流出した雨水は、土石流となって下流の河川を氾濫させ、上井出地区では洪水による被害が出た。また、この時大中里地区の反田橋及び弁天橋が流失した。

- (2) 昭和49年(1974)、7月7日～8日、台風8号(七夕台風)により、集中豪雨に見舞われ、時間雨量35mm、1日雨量500mmを記録した。

このため、家屋、道路、護岸、農地、農作物等に大きな被害を受けた。

- (3) 昭和49年(1974)、8月24日～26日、台風14号により、富士山麓地帯に最高時間雨量60mm、総雨量814mmという雨量を記録し、家屋、道路、農地等が被害にあった。

- (4) 昭和54年(1979)10月19日に、東海地方を台風20号が縦断したとき、富士宮市域は暴風雨に見舞われた。消防本部では、最大風速20m、雨量は12時の降り始めから15時までに、200mmを観測した。また、大滝では12時から13時までの1時間に、88mm、御中道では65mmという多量の

雨量を観測した。

この雨水は、護岸工事が進み、流れ易くなった潤井川に一気に流れ込み、短時間のうちに平野部に流れ下って、大中里地区で増水現象を起こした。

この増水により、大中里、神田川町、黒田、山本の各地域では、床上・床下浸水家屋が続出した。また、野中橋が流失するという災害が発生した。

- (5) 昭和57年(1982)7月31日～8月3日、台風10号による1日から2日にかけての降水、2日から3日にかけての低気圧の影響による大雨のため、白糸では総降水量522mmを記録した。家屋、芝川、ヤシャブ上水道取入施設等が被害を受けた。
- (6) 昭和57年(1982)11月30日、発達した低気圧の通過による大雨のため、最高時間雨量が北部で54mm、南部で38.5mmを記録し、家屋、道路等が被害を受けた。

2 風向と強風

富士宮市域の風向は、年間を通して、南南東の風が多く、冬季の季節風である北西の風は少ない。

これは富士宮市域の南部が富士山の裾野で広く開けていることと、北東部から北西部にかけて、富士山、天子山脈、御坂山地と連なる地形が、冬季の北西からの風をさえぎっているためと考えられる。

反面、この地形のために、冬季の夜間に“富士おろし”といわれる強い北東の風が吹いたり、ごく限られた狭い範囲の地域で、特異な風が吹いたりする。

3 霧の発生

- (1) 北部地域に発生する霧

根原、猪之頭地区を中心とする天子山脈の東麓にあたる北部地域全域では、霧が多く発生する。特に、6月、7月には、5m～6m先も見えなくなる濃霧に閉ざされることがある。

これは高温多湿の駿河湾気流が、南南東の風にのっ

て北上し、天子山脈などにぶつかり、上昇気流となったものが、上空で冷やされて露点（水蒸気が飽和し露を結ぶ温度）に達するために、霧（滑昇霧）になるものと考えられる。

(2) 朝霧高原に発生する霧

朝霧高原では、6月から7月上旬に、夜から朝にかけて霧が多く発生し、日中になると消えるのが通常である。

これは、この地域が高原にあるため、日中暖ためられて水蒸気になった湿気が、夜間から朝方にかけて高原特有の急激な冷え込みにより、露点に達して霧（放射霧）になるものと考えられる。

4 霜 の 発 生

気温や地形と密接な関係にある霜の発生は、地域によって下記の表のように大きな差がある。

霜の発生

	富 士 宮 市			富 士 市
	根 原	北 部	南 部	
初 霜	10月下旬	11月下旬	11月下旬	12月上旬
晩 霜	4月上旬	3月下旬	3月中旬	3月中旬

根原・北部地域では、秋から春先にかけての風が弱く晴れた夜に、放射冷却により、地表から1.5 m位で3°C以下、地表が氷点以下になることが多い。

このため、地表と接する大気中の下層にある水蒸気が昇華して霜（うすい氷の膜が地表物にできたもの）ができるものと考えられる。

この霜の発生のため、北部では、南部より農作物の収穫時期を早くする必要から、田植えなどの植え付けや、種まきなどの時期も早くしなければならないというように、霜害防止対策を講ずる必要があり、自然からの影響を大きく受けている。

提 言

(1) 気象情報を総合的・長期的に分析調査する機関の組織

気象が、その地域に住む人々の生活に大きな影響を与え、これまで人々は、その気象環境に合った生活を生み出してきた。

しかし、これからは、与えられた自然環境に適応した生活をしていくことは当然であるが、もっと積極的に、この自然環境を活用していくことも必要である。そのためには、富士宮市域の気象の特徴を十分に把握して、生活とどのような関わりがあるのかを分析・考察していくことが大切である。

(2) 標高差による気温差の活用

富士宮市域の気温減率は、約0.6°Cである。標高差の大きい富士宮市域にあつては、北部と南部では気温の開きが大きいことは言うまでもない。

例えば、富士宮市域最北部の根原地区と南部の大宮地区との標高差は、約800 mあるために、約4.8°C内外の気温差がある。

このことが、これまでの住居環境や産業（特に、農林業）及び観光等に大きな影響を与えてきた。

標高差による気温変化が、北部と南部とで、大きな差があることは、夏季における生活環境にとって好ましい環境となり得るものである。

朝霧高原、猪之頭、田貫湖、白糸の滝など、北部一帯の観光レクリエーションゾーンを単に、「水と緑に恵まれている地域」であるというだけでなく、「夏、涼しい観光地」と強くアピールすることができる。

(3) 地形性降雨による災害の防止

静岡県内の年間の降水量は、低地では一般に、2,000 mm前後であるが、富士山周辺では、その地形性から、2,500 mm以上の降水量がある。

従って、この雨が一時的に集中して降ると、現在、崩壊が進行・拡大しつつある大沢崩れや、山麓に数多

く刻まれた放射谷を一気に流れ下って、大洪水となり、大きな災害を起こすことになる。

このために、防災工事を実施することは当然のことであるが、開発を行う時は、このような特有の地形による流水を十分考慮して行うべきである。もし、これらのことを無視した時には、自然から大きなシッペ返しを受けることを覚悟しなければならない。

(4) 湧水の活用

富士宮市域に降る年間総降水量は、約7億トンと言われている。富士山に降った雨の一部は、地表を低地に向かって流下し、一部は蒸発して空中に拡散し、他は地下水となって流れ下っている。この地下水のうち、一部が山麓に湧水となって湧き出している。

この自然の恵みである貴重な湧水を、より適正に活用していくことは大切なことである。

お わ り に

本調査をまとめるにあたって、建設省富士砂防工事事務所、建設省建設大学校中央訓練所、静岡県立高等農業学園、天照教社、富士市役所みどりの課、富士宮市芝川町消防組合消防本部の方々には、観測データの提供等大変お世話になりました。これらの各位に対し、厚くお礼申し上げます。また、上野中、二中、黒田小、沼久保小で観測に当たられた先生方、さらにパソコンによるデータ処理をプログラミングされた深沢（二中）、井出（四中）の各先生方のご協力に対し厚くお礼申し上げます。

参 考 文 献

- 1 佐々倉航三・伊藤通玄（1967）：静岡県の気候 静岡県地学資料No.10 静岡県地学会
- 2 富士宮市（1987）：富士宮市総合発展計画
- 3 富士宮市教育委員会（1985）：富士宮（中学校社会科地域学習資料）

植 物

登 野 佐
夫 典 朝
久 奈 比
光 林 小
野 野 佐
直 辺 渡

はじめに

富士宮市は、富士火山の溶岩と天子山脈の第三紀層上に位置し、著しい標高差と広大な面積、変化ある地形、豊かな湧水などの、優れた自然環境を有している。また、このため植生も豊かで、貴重な植物群が見られる。

富士宮市域の西に位置する天子山脈は、標高1,946mの毛無山や天子ヶ岳などの山々が連なり、植物の種類が数多く、他に見られない景観を呈している。

毛無山には、コメツツジ・ホツツジ・ヒカゲツツジ等めずらしいツツジがあり、また、文化財として残したいスルガジョウロウホトトギスなど貴重な植物も点在している。天子ヶ岳では最近まで、枝を折って雨乞を行っていたヨウラクツツジ（サラサドウダン）をはじめ、シロヤシオと呼ばれるゴヨウツツジ、ブナ、ミズナラの巨木。高さ10cm足らずのヒメイワカガミ、ヤマウツボなどが見られ、少し下った茅間には、多くのアツモリソウも見られた。

田貫湖周辺には、ミツガシワやイチゲキスミレの群落などがあり、バイカツツジも見られる。小田貫湿原ではアケボノソウ・アサマフウロウなどの人目を引く植物が群をなしている。朝霧高原は、ほとんどが畜産地区として整備されたため、牧野と化し、昔ながらの草原は根原の南側のごく一部だけとなってしまった。ここには高原特有のマツムシソウやウメバチソウ、ワレモコウ、ユウスゲ、リンドウなどがある。

富士宮口登山道新五合目付近では、火山砂礫地にミヤマハンノキ、ダケカンバ、トウヒが頭上を覆い、下草としてコケモモ、クルマユリ、グンナイフウロなどが群をなしている。陽の光の差すところでは、ヒメシヤジンが大群落を作り、タイツリオオギ、イワオオギ、ムラサキモメンズルが株立ちしている。新六合目へ登

ると、雪に押えられてハイマツ状の樹形になっているカラマツ及びオンタデが多く、この上の室付近には、ヤナギランが見られる。新六合目を下ると、キンレイカ、ヤマホオコが群落をなし、イタドリ・メイゲツソウ（イタドリの一種：赤花）が登山道の両側を飾る。また、エビガライチゴも多く、旧二合目近くになるとカエデ類・ブナの巨木も見られる。沢の岩場には、イワタバコの群落を目にすることが出来る。

猪之頭、白糸、上野、北山、富士根北部の各地域は、サクラの種類が多く、ヤブカンゾウ、ノカンゾウ、ヒガンバナの群落も見受けられる。また、神社境内では、スギの老木が目につく。以前スギ、ヒノキの植林内でよく見かけたエビネランは、ここ3年～4年の野草ブームで絶滅に近くなってしまった。カタクリも乱獲により群生地を失いつつあったが、ようやく白糸、猪之頭等に保護地が設けられた。川ノリとして、全国的にも珍しい芝川ノリも激減しているので、大切にしたいものの一つである。

安居山、沼久保地区では、イカリソウ、シャガ、カンアオイを多く見かける。明星山は、コガンピ、ヤマツツジ、モチツツジ、また、高原で見られるカセンソウの群落もある。

市街地には、特記するものはないが、タンポポが4種～5種あり、スミレの種類も多い。これらは、今回の調査には含まれていないので、今後、調査を行う必要がある。

I 調査方法

広い面積を有する富士宮市域を、短期間で調査することは至難の業であるが、幸い、富士宮市理科同好会が積み上げて来た資料が存在しているので、これを基に調査を行うことができた。

調査は、複数の調査員が目的地の現地調査を行い、既存の資料に調査結果を書き加えて行く方法を採用した。

富士宮市理科同好会は、約 15 年前に、小中学校の理

科担当の教師を主体として結成され、毎月 1 回、土曜日の午後、2 時間半を費やして調査し、写真撮影、植物名、科名、開花状況等を記録している。これを、冬期に地図上に落とす作業を行っている。この理科同好会の調査の積み重ねがなければ本調査は、一部の狭い範囲の調査に終わったであろうと思われる。

しかし、富士山麓を始め、未調査の地域が多いので、今後も長期間の調査が必要である。

II 調査結果

1 富士山の植物

(1) 富士宮口登山道宝永遊歩道の植物

富士宮口登山道新五合目の駐車場より宝永火口にかけての遊歩道付近は、6 月～8 月ともなると亜高山帯の針葉樹林の下で、可憐な高山植物のお花畑となる。

針葉樹林は、トウヒ、シラビソ、ヒメコマツ、ツガなどがその代表的なもので、その間にダケカンバ、ナナカマド、ハナヒリノキなどが点在する。この一帯の樹林は比較的背が低く、日光も入り易い。

樹林下では、まず朱紅色の華やかなクルマユリが遠くからでもよく目立ち、新五合目から大沢にかけて大群落をなし、お花畑を彩る主役の花である。これに対しグンナイフウロは、紫色で控えめだが、これも大群落をなすところは壮観である。同じ所にヒメシャジンも大きな群落をつくり、満開時には、一面に青紫色の花が広がり美しい。

また、苔むした溶岩の上には、高さ 10 cm にも満たないマイヅルソウが、所々でカーペット状に広がって

いる。マイヅルソウは 6 月～7 月ころに白い花をつけ、“舞鶴” の名の通り優雅で美しい。コバノイチヤクソウも高さ 10 cm 程度で、華やかな群落をつくらずに木陰に咲いている。

数は少ないが、ミヤマハンショウヅルも草や木の枝につるを巻きつけ、この仲間としては比較的大きな半鐘形の赤紫色の花をつける。

以下、周辺に見られる草花をあげる。

アカショウマ	(ユキノシタ科)
アキノキリンソウ	(キク科)
アズマヤマアザミ	(キク科)
イチヨウラン	(ラン科)
イワスゲ	(カヤツリグサ科)
ウラハグサ	(イネ科)
カラマツソウ	(キンポウゲ科)
コウモリソウ	(キク科)
コケモモ	(ツツジ科)
ゴゼンタチバナ	(ミズキ科)
シュロソウ	(ユリ科)

ツクバネソウ	(ユリ科)
ツバメオモト	(ユリ科)
ホソバナノキソチドリ	(ラン科)
ホタルブクロ	(キキョウ科)
ミヤマゼンコ	(セリ科)
ムラサキモメンヅル	(マメ科)
モミジハグマ	(キク科)
モリイチゴ	
(シロバナノヘビイチゴ)	(バラ科)
ヤハズヒゴタイ	(キク科)
ヤマオダマキ	(キンポウゲ科)
ユキザサ	(ユリ科)

以上がその主なものである。特にムラサキモメンヅルは、砂礫帯を好み5年～6年前までは宝永火口の周辺にも多く見られたが、最近ではほとんど見られなくなった。登山者によって踏みつぶされたのか、移動する砂礫のために枯死したのか原因はつかめていない。遊歩道の近くの日だまりで、僅かに紫色の蝶形の花を見かけるのみである。

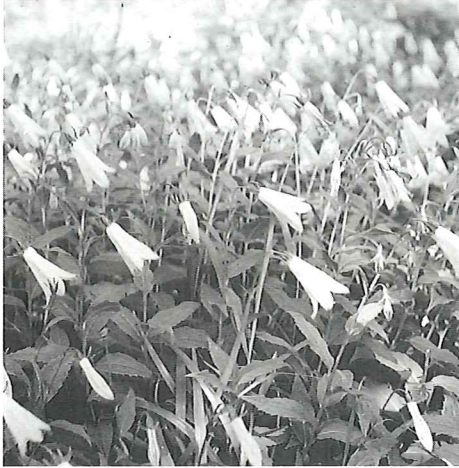
この地区は、登山者やハイカーが気軽に訪れるため、種類も数も年々減少しつつあるので、今後積極的に保護しなければならない場所である。



クマユリ (ユリ科)



グンナイフワ (フウロソウ科)



ヒメシャジン (キキョウ科)



ムラサキモメンツル (マメ科)

(2) 富士宮口登山道沿い (新五合目～六合目) の植物

新五合目付近の森林限界から頂上にかけては、大小の砂礫がむき出しになっていて、目立った群落をつくる植物は、オンタデとメイゲツソウくらいである。これらは、自分の生活範囲を上へ上へ広げようと、六合目の上の方まで頑張っているパイオニア的植物である。

以下、主な植物をあげる。

イワオウギ	(マメ科)
イワシモツケ	(バラ科)
イワツメクサ	(ナデシコ科)
オンタデ	(タデ科)
カラマツ	(マツ科)
コタヌキラン	(カヤツリグサ科)

タイツリオウギ	(マメ科)
タカネイワヤナギ	(ヤナギ科)
タカネバラ	(バラ科)
フジハタザオ	(アブラナ科)
ミヤマオトコヨモギ	(キク科)
ミヤマハンノキ	(カバノキ科)
メイゲツソウ	(タデ科)
ヤマホタルブクロ	(キキョウ科)

この中で、フジハタザオは富士山の固有植物の代表としてあげて良いだろう。これらの植物の共通の性質として、根が極めて長いことがあげられる。砂の中深く根を張って水分を吸収し、強い風に吹き飛ばされないようにとの工夫であると思われる。



オンタデ (タデ科)



ミヤマオトコヨモギ (キク科)



フジハタザオ (アブラナ科)



イワオウギ (マメ科)

(3) ガラン沢 (御殿庭) の植物

富士山南斜面の中腹には、宝永噴火により広大な火山砂礫の裸地が広がっている。宝永第3火口に沿って少し下ると、火山荒原のパイオニア植物のオンタデ、ベニイタドリなどの植物が、砂礫の移動に耐えて懸命に生きている姿が見られる。火山荒原を進むと、溶岩上の乾燥した貧養の立地にカラマツ、ダケカンバなどの木々が見られる。ほとんどの木が横に寝るようになり、枝も横に広がるようになっている。

これらの木々に混じって、ミヤマハナゴケ、ツバメオモトなどが群生している。さらに下ると、うっそうと茂る巨木の大きな森に入る。ここには、ブナ、ミズナラ、カエデ類などが見られ、1年を通して最も変化に富み、植物の種類も多く、森の中を自由に歩ける。

以下、主な植物をあげる。

アオマムシグサ	(サトイモ科)	コウモリソウ	(キク科)
アカソ	(イラクサ科)	コバイケイ	(コバイケイソウ) (ユリ科)
アズマヤマアザミ	(キク科)	コバノイチャクソウ	(イチャクソウ科)
アセビ	(ツツジ科)	サワギク	(キク科)
イケマ	(ガガイモ科)	シモツケ	(バラ科)
イチヨウラン	(ラン科)	シラビソ	(マツ科)
イワオウギ	(マメ科)	シロカネソウ	(キンポウゲ科)
イワツメクサ	(ナデシコ科)	シロバナノヘビイチゴ	(バラ科)
ウツギ	(ユキノシタ科)	ソバナ	(キキョウ科)
ウラハグサ	(イネ科)	ダイコンソウ	(バラ科)
オオカメノキ	(スイカズラ科)	タケシマラン	(ユリ科)
オオバヤエムグラ	(アカネ科)	チダケサシ	(ユキノシタ科)
オタカラコウ	(キク科)	ツリフネソウ	(ツリフネソウ科)
オニノヤガラ	(ラン科)	ツルウメモドキ	(ニシキギ科)
ガマズミ	(スイカズラ科)	テンニンソウ	(シソ科)
ガンクビソウ	(キク科)	ナナカマド	(バラ科)
キソチドリ	(ラン科)	ニワトコ	(スイカズラ科)
キンレイカ	(オミナエシ科)	ノイバラ	(バラ科)
クサレダマ	(サクラソウ科)	ノリウツギ	(ユキノシタ科)
コイチャクソウ	(イチャクソウ科)	ハンゴンソウ	(キク科)
		ヒメシャジン	(キキョウ科)
		ヒメジョオン	(キク科)
		フジオトギリ	(オトギリソウ科)
		フジサンシキウツギ	(スイカズラ科)
		ハウチャクソウ	(ユリ科)
		ホザキイチヨウラン	(ラン科)
		マイズルソウ	(ユリ科)
		マルバダケブキ	(キク科)
		ミナモトソウ	(バラ科)
		ミヤマアキノキリンソウ	(キク科)
		ミヤマイボタ	(モクセイ科)
		ミヤマエンレイソウ	(ユリ科)
		ミヤマオトコヨモギ	(キク科)
		ミヤマカタバミ	(カタバミ科)

ミヤマクワガタ	(ゴマノハグサ科)
ミヤマシキミ	(ミカン科)
ミヤマシシウド	(セリ科)
ミヤマナルコユリ	(ユリ科)
ミヤマハハコ	(キク科)
ミヤマハンショウズル	(キンポウゲ科)
ミヤマハンノキ	(カバノキ科)
ミヤマフタバラン	(ラン科)
ミヤママタタビ	(サルナシ科)
ミヤマヤナギ	(ヤナギ科)
ムカゴイラクサ	(イラクサ科)
ムラサキモメンズル	(マメ科)
ヤマシャクヤク	(キンポウゲ科)
ヤマシロギク	(キク科)
ヤマトリカブト	(キンポウゲ科)
ヤマホウコ	(キク科)
ヤマホタルブクロ	(キキョウ科)
ユキザサ	(ユリ科)
ヨツバヒヨドリバナ	(キク科)

火山砂礫帯では、ミヤマオトコヨモギ、ムラサキモメンズル、オンタデなどの種類に限られているが、カラマツ林に入るとミヤマハナゴケやコケモモの群落が目立つ。針葉樹林帯に入るとカニコウモリ、コウモリソウ、ツバメオモト、キンレイカと種類も多くなる。また、イチヨウラン、キソチドリ、ミヤマフタバランなどのラン科の小さな植物も観察できる。

2 天子山脈の植物

(1) 天子ヶ岳、長者ヶ岳周辺の植物

a 白糸小学校～佐折～半野の茅山^{カヤマ}周辺

白糸小学校より、佐折集落を通過して、天子ヶ岳への登山道を植林地沿いに進む。天子ヶ岳登山口で左折して、新しい林道沿いに半野の茅山に向かう。

春は林道沿いにヤマブキが咲き、雑木林内に入ると、ギンラン、チゴユリなどを見かける。以前はクマガイ

ソウの群落も見られたが、乱掘により、近年はほとんど全滅してしまった。

以下、主な植物をあげる。

アカソ	(イラクサ科)
アカネ	(アカネ科)
アカバナ	(アカバナ科)
アカメガシワ	(トウダイグサ科)
アキカラマツ	(キンポウゲ科)
アキノキリンソウ	(キク科)
アキノタムラソウ	(シソ科)
アケビ	(アケビ科)
アケボノソウ	(リンドウ科)
アセビ	(ツツジ科)
アブラガヤ	(カヤツリグサ科)
アブラチャン	(クスノキ科)
アヤメ	(アヤメ科)
ウコギ	(ウコギ科)
ウツギ	(ユキノシタ科)
ウバユリ	(ユリ科)
ウメモドキ	(モチノキ科)
エノコログサ	(イネ科)
オオキヌタソウ	(アカネ科)
オトギリソウ	(オトギリソウ科)
オトコエシ	(オミナエシ科)
オミナエシ	(オミナエシ科)
カラスノゴマ	(シナノキ科)
カワラマツバ	(アカネ科)
ガンクビソウ	(キク科)
キツネノカミソリ	(ヒガンバナ科)
キツネノボタン	(キンポウゲ科)
キツネノマゴ	(キツネノマゴ科)
キツリフネ	(ツリフネソウ科)
ギボウシ	(ユリ科)
キンミズヒキ	(タデ科)
クサギ	(クマツヅラ科)

クズ	(マメ科)	ドクゼリ	(セリ科)
クマヤナギ	(クロウメモドキ科)	ドクダミ	(ドクダミ科)
クルマバナ	(シソ科)	トンボソウ	(ラン科)
クロモジ	(クスノキ科)	ニガイチゴ	(バラ科)
ゲンノショウコ	(フウロソウ科)	ニワトコ	(スイカズラ科)
コアジサイ	(ユキノシタ科)	ノアザミ	(キク科)
コウゾ	(クワ科)	ハキダメギク	(キク科)
コウゾリナ	(キク科)	ハグロソウ	(キツネノマゴ科)
コウヤボウキ	(キク科)	ハナイカダ	(ミズキ科)
コウヤワラビ	(ウラボシ科)	バライチゴ	(バラ科)
コオニユリ	(ユリ科)	ヒメジョオン	(キク科)
コクサギ	(ミカン科)	ヒメシラスゲ	(カヤツリグサ科)
コマツナギ	(マメ科)	ヒヨドリバナ	(キク科)
サジガクビソウ	(キク科)	フジウツギ	(フジウツギ科)
サラシナショウマ	(キンポウゲ科)	フシグロセンノウ	(ナデシコ科)
サルトリイバラ	(キク科)	ヘクソカズラ	(アカネ科)
サワヒヨドリ	(キク科)	ホタルサイコ	(セリ科)
サンショウ	(ミカン科)	ホタルブクロ	(キキョウ科)
シオデ	(ユリ科)	ボタンズル	(キンポウゲ科)
シシウド	(セリ科)	マタタビ	(サルナシ科)
ジシバリ	(キク科)	マツカゼソウ	(ミカン科)
シデシャジン	(キキョウ科)	ママコノシリヌグイ	(タデ科)
シュロソウ	(ユリ科)	ミズギボウシ	(ユリ科)
シラヤマギク	(キク科)	ミズヒキ	(タデ科)
シロモジ	(クスノキ科)	ミツバ	(セリ科)
センブリ	(リンドウ科)	ヤハズソウ	(マメ科)
ソクズ	(スイカズラ科)	ヤブタバコ	(キク科)
タツノヒゲ	(イネ科)	ヤブレガサ	(キク科)
タマアジサイ	(ユキノシタ科)	ヤクシソウ	(キク科)
チゴユリ	(ユリ科)	ヤマツツジ	(ツツジ科)
チダケサシ	(ユキノシタ科)	ヤマトウバナ	(シソ科)
ツチアケビ	(ラン科)	ヤマトリカブト	(キンポウゲ科)
ツユクサ	(ツユクサ科)	ヤマノイモ	(ヤマノイモ科)
ツルニンジン	(キキョウ科)	ヤマハッカ	(シソ科)
テイカカズラ	(キョウチクトウ科)	ヤマブキ	(バラ科)

ヤマホウコ (キク科)

ヤマホトトギス (ユリ科)

ユウガギク (キク科)

ヨメナ (キク科)

リュウノウギク (キク科)

リンドウ (リンドウ科)

ワレモコウ (バラ科)



ギンラン (ラン科)



クマガイソウ (ラン科)



チゴユリ (ユリ科)



シデシャジン (キキョウ科)

b 天子ヶ岳～長者ヶ岳

佐折より天子ヶ岳登山道を登ると、植林地をぬけた草原や雑木林内で興味ある植物に出会うことが多い。

天子ヶ岳頂上付近ではヤマツツジ、ミツバツツジ、ドウダンツツジ、ベニドウダン、アシタカツツジなど多数のツツジ類が見られ、春の花期には見事である。

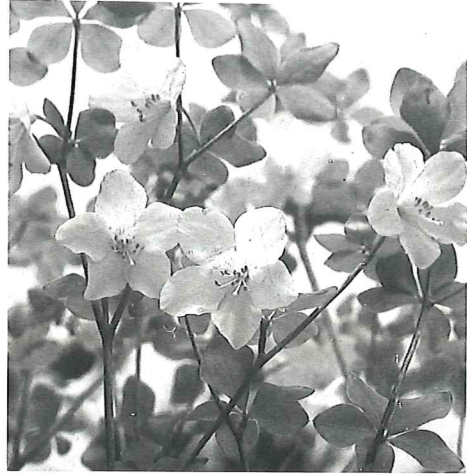
頂上にはブナ、ゴヨウツツジ、ヒメシャラなどが雑

木に混じって自然林を形成している。また、伝説で有名なヨウラクツツジ（サラサドウダン）が自生している。乱掘によりアツモリソウは見られなくなった。

長者ヶ岳から田貫湖にかけての草原には、ヤマツツジ、ミツバツツジ、レンゲツツジ、モチツツジなどが多い。尾根の北側にはホツツジの大株もあったが、盗掘されてしまった。



ヒメイワカガミ (イワウメ科)



ゴヨウツツジ (ツツジ科)

(2) 田貫湖周辺の植物

a 田貫湖畔

春はイチゲキスミレ、フジザクラ、ミツバツチグリ、ヤマブキ、レンゲツツジ、ヤマツツジ、アシタカツツジ、ミツバツツジ、サラサドウダンなどが咲き絶好のハイキング地になる。草原にはワラビ、ゼンマイなども多い。

夏から秋にかけてマツムシソウ、ワレモコウ、ウメバチソウなど、多くの高原の植物が咲く。やがてリンドウが咲くと秋も終わりである。

以下、主な植物をあげる。

アキカラマツ	(キンポウゲ科)
アキノキリンソウ	(キク科)
アキノタムラソウ	(シソ科)
アサマフウロ	(フウロソウ科)
アブラススキ	(イネ科)
アリノトウグサ	(アリノトウグサ科)
イヌコウジュ	(シソ科)
ウツボグサ	(シソ科)
ウメバチソウ	(ユキノシタ科)

ウメモドキ	(モチノキ科)	チカラシバ	(イネ科)
オミナエシ	(オミナエシ科)	チダケサシ	(ユキノシタ科)
カミエビ	(ツツラフジ科)	ツリガネニンジン	(キキョウ科)
カルカヤ	(イネ科)	ツリバナ	(ニシキギ科)
カワラマツバ	(アカネ科)	ツルリンドウ	(リンドウ科)
キッコウハグマ	(キク科)	ヌマトラノオ	(サクラソウ科)
ギボウシ	(ユリ科)	ノダケ	(セリ科)
キンミズヒキ	(タデ科)	ノリウツギ	(ユキノシタ科)
クサレダマ	(サクラソウ科)	バイカツツジ	(ツツジ科)
ゲンノショウコ	(フウロソウ科)	ヒカゲノカズラ	(ヒカゲノカズラ科)
コシロネ	(シソ科)	ホタルイ	(カヤツリグサ科)
サルトリイバラ	(ユリ科)	マツムシソウ	(マツムシソウ科)
サワアザミ	(キク科)	ミズオトギリ	(オトギリソウ科)
サワシロギク	(キク科)	ミツガシワ	(リンドウ科)
サワヒヨドリ	(キク科)	ミヤコアザミ	(キク科)
サンカクイ	(カヤツリグサ科)	ムカゴニンジン	(セリ科)
シモツケ	(バラ科)	メギ	(メギ科)
シュロソウ	(ユリ科)	メドハギ	(マメ科)
シラヤマギク	(キク科)	ヤマハギ (ハギ)	(マメ科)
ズミ	(バラ科)	ヤマボクチ	(キク科)
セキヤノアキチョウジ	(シソ科)	ヤマラッキョウ	(ユリ科)
センブリ	(リンドウ科)	リンドウ	(リンドウ科)
タガネソウ	(カヤツリグサ科)	レンゲツツジ	(ツツジ科)
タムラソウ	(キク科)	ワレモコウ	(バラ科)



イチゲキスミレ (キスミレ) (スマレ科)



レンゲツツジ (ツツジ科)



ウメバチソウ (ユキノシタ科)

b 小田貫湿原

芝川支流のすげの沢（田貫尾根北側の谷）付近は、神代杉を採掘した所でもあり、小田貫湿原が形成されている。この付近では、湿地の植物も数多く見られ、近年、田貫湖畔では見られなくなったモウセンゴケを確認することができた。

以下、主な植物をあげる。

アキノウナギズル	(タデ科)	タチフウロ	(フウロソウ科)
アキノキリンソウ	(キク科)	タムラソウ	(キク科)
アキノタムラソウ	(シソ科)	ダンドボロギク	(キク科)
アケボノソウ	(リンドウ科)	チダケサシ	(ユキノシタ科)
アサマフウロ	(フウロソウ科)	ツユクサ	(ツユクサ科)
アブラガヤ	(カヤツリグサ科)	ツリガネニンジン	(キキョウ科)
アリノトウグサ	(アリノトウグサ科)	ツリフネソウ	(ツリフネソウ科)
イボタノキ	(モクセイ科)	ツルニンジン	(キキョウ科)
ウメバチソウ	(ユキノシタ科)	ツルリンドウ	(リンドウ科)
ウメモドキ	(モチノキ科)	テリハノイバラ	(バラ科)
オトギリソウ	(オトギリソウ科)	ナンテンハギ	(マメ科)
オトコエシ	(オミナエシ科)	ヌマトラノオ	(サクラソウ科)
オミナエシ	(オミナエシ科)	ノギラン	(ユリ科)
キンミズヒキ	(バラ科)	ノダケ	(セリ科)
クサレダマ	(サクラソウ科)	ハンノキ	(カバノキ科)
クマヤナギ	(クロウメモドキ科)	ヒメシロネ	(シソ科)
ゲンノショウコ	(フウロソウ科)	フシグロセンノウ	(ナデシコ科)
サラシナショウマ	(キンポウゲ科)	ヘクソカズラ	(アカネ科)
サワアザミ	(キク科)	マツムシソウ	(マツムシソウ科)
サワシロギク	(キク科)	ミズオトギリ	(オトギリソウ科)
サワヒヨドリ	(キク科)	ミズゴケ	(蘚類)
シモツケ	(バラ科)	ミヤコアザミ	(キク科)
シラネセンキュウ	(セリ科)	ムカゴニンジン	(セリ科)
ズミ	(バラ科)	メギ	(メギ科)
セキヤノアキチョウジ	(シソ科)	モウセンゴケ	(モウセンゴケ科)
センニンソウ	(キンポウゲ科)	ヤブツルアズキ	(マメ科)
		ヤマハギ (ハギ)	(マメ科)
		ヤマホウコ	(キク科)
		ヤマラッキョウ	(ユリ科)
		ユウガギク	(キク科)
		リョウブ	(リョウブ科)
		レンゲツツジ	(ツツジ科)
		ワレモコウ	(バラ科)



モウセンゴケ (モウセンゴケ科)



アケボノソウ (リンドウ科)

(3) 猪之頭, 湯の奥林道沿いの植物

この猪之頭地域には, 市内でも数少ないカタクリやイワカガミの群落がある。また, 湯の奥林道沿いにはシラヒゲソウなどがあり, 保護したいものである。

以下, 主な植物をあげる。

イワカガミ	(イワウメ科)
オランダガラシ	(アブラナ科)
カタクリ	(ユリ科)
キツリフネ	(ツリフネソウ科)
クリンソウ	(サクラソウ科)
シラヒゲソウ	(ユキノシタ科)
セリ	(セリ科)
ツリフネソウ	(ツリフネソウ科)
バイカモ	(キンポウゲ科)
マタタビ	(サルナシ科)
リュウノウギク	(キク科)
リンドウ	(リンドウ科)



カタクリ (ユリ科)



シラヒゲソウ (ユキノシタ科)



フシグロセンノウ (ナデシコ科)

(4) 麓地域、毛無山の植物

グリーンパークから麓集落への道路沿いにフジアザミがあったが、現在は河原に群生している。これは、環境によって植物が変化した例と考えられる。

麓より毛無山への登山道沿いには、ダイモンジソウ、ヒカゲツツジ、イワナンテン、シモツケソウなどがある。頂上付近でマルバダケブキを見かけた。

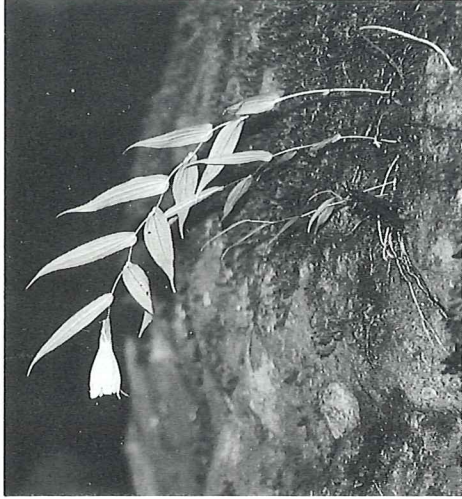
また、近年スルガジョウロウホトトギスが発見されたが、珍しさから山取りされて減ってきている。

以下、主な植物をあげる。

イワナンテン	(ツツジ科)
コメツツジ	(ツツジ科)
シモツケソウ	(バラ科)
スルガジョウロウホトトギス	(ユリ科)
ダイモンジソウ	(ユキノシタ科)
ヒカゲツツジ	(ツツジ科)
フジアザミ	(キク科)
マルバダケブキ	(キク科)



フジアサミ (キク科)



スルガジョウロウホトトギス (ユリ科)



シモツケソウ (バラ科)

3 朝霧高原の植物

(1) 野外活動センター周辺の植物

朝霧高原は、富士山の西麓に広がる標高 500 m から 1,000 m の高原で、富士山から噴出した溶岩上に火山灰が堆積してできたものである。

春の訪れは遅いが、路傍や雑木林内にアセビ、クサボケ、タチツボスミレなどが見られ、夏は、シモツケ、コウゾリナ、チダケサシなどが高原を色どり、マツムシソウが秋風にゆれる時が、高原の一番美しい季節である。リンドウやリュウノウギクが咲くころには、秋も終わりを告げる。

年ごとに自然が破壊され、原野として自然が残っているのは、この朝霧ぐらいである。植物も豊富だが野草ブームにより乱掘も激しく、減少の一途をたどっている。

以下、主な植物をあげる。

アカザ (アカザ科)
 アカソ (イラクサ科)
 アカマツ (マツ科)

アカメガシワ (トウダイグサ科)
 アキノキリンソウ (キク科)
 アキノタムラソウ (シソ科)
 アキノノゲシ (キク科)
 アケビ (アケビ科)
 アセビ (ツツジ科)
 アマドコロ (ユリ科)
 アリノトウグサ (アリノトウグサ科)
 イタチササゲ (マメ科)
 イタドリ (タデ科)
 イチヤクソウ (イチヤクソウ科)
 イヌガラシ (アブラナ科)
 イヌザンショウ (ミカン科)
 イヌタデ (タデ科)
 イヌツゲ (モチノキ科)
 イヌノフグリ (ゴマノハグサ科)
 イヌビユ (ヒユ科)
 イボタノキ (モクセイ科)

イワガラミ	(ユキノシタ科)	キスゲ	(ユリ科)
ウコギ	(ウコギ科)	キツネアザミ	(キク科)
ウシハコベ	(ナデシコ科)	キツネノボタン	(キンポウゲ科)
ウツギ	(ユキノシタ科)	キツネノマゴ	(キツネノマゴ科)
ウツボグサ	(シソ科)	キヌタソウ	(アカネ科)
ウド	(ウコギ科)	ギボウシ	(ユリ科)
ウナギツカミ	(タデ科)	ギョウジャノミズ	(ブドウ科)
ウバユリ	(ユリ科)	キランソウ	(シソ科)
ウマノアシガタ	(キンポウゲ科)	キンミズヒキ	(バラ科)
ウルシ	(ウルシ科)	クサギ	(クマツヅラ科)
エゴノキ	(エゴノキ科)	クサボケ	(バラ科)
エノコログサ	(イネ科)	クサレダマ	(サクラソウ科)
エビズル	(ブドウ科)	クズ	(マメ科)
エビネ	(ラン科)	クヌギ	(ブナ科)
オオイヌタデ	(タデ科)	クマヤナギ	(クロウメモドキ科)
オオイヌノフグリ	(ゴマノハグサ科)	クモキリソウ	(ラン科)
オオケタデ	(タデ科)	クリ	(ブナ科)
オオシマザクラ	(バラ科)	クロモジ	(クスノキ科)
オオバコ	(オオバコ科)	クワ	(クワ科)
オオマツヨイグサ	(アカバナ科)	ケヤキ	(ニレ科)
オカトラノオ	(サクラソウ科)	ゲンノショウコ	(フウロソウ科)
オガルカヤ	(イネ科)	コウゾリナ	(キク科)
オキナグサ	(キンポウゲ科)	コウヤボウキ	(キク科)
オトギリソウ	(オトギリソウ科)	コウヤワラビ	(ウラボシ科)
オトコエシ	(オミナエシ科)	コウリンカ	(キク科)
オニタビラコ	(キク科)	コゴメウツギ	(バラ科)
オミナエシ	(オミナエシ科)	コナラ	(ブナ科)
カキドオシ	(シソ科)	コマツナギ	(マメ科)
カセンソウ	(キク科)	コメツブツメクソ	(マメ科)
カナムグラ	(クワ科)	コモチマンネングサ	(ベンケイソウ科)
ガマズミ	(スイカズラ科)	サルトリイバラ	(ユリ科)
カラマツソウ	(キンポウゲ科)	サワシバ	(カバノキ科)
カワラヨモギ	(キク科)	シオデ	(ユリ科)
ギシギシ	(タデ科)	シシウド	(セリ科)
キジムシロ	(バラ科)	シシガシラ	(ウラボシ科)

ジシバリ	(キク科)	ツリフネソウ	(ツリフネソウ科)
シモツケ	(バラ科)	ツルウメモドキ	(ニシキギ科)
シモバシラ	(シソ科)	ツルリンドウ	(リンドウ科)
シュロソウ	(ユリ科)	テリハノイバラ	(バラ科)
シラヤマギク	(キク科)	テンニンソウ	(シソ科)
シロザ	(アカザ科)	トウダイグサ	(トウダイグサ科)
シロツメクサ	(マメ科)	ドクダミ	(ドクダミ科)
ジロボウエンゴサク	(ケシ科)	トチバニンジン	(ウコギ科)
スイカズラ	(スイカズラ科)	ナギナタコウジュ	(シソ科)
スイバ	(タデ科)	ナズナ	(アブラナ科)
スギ	(スギ科)	ナツトウダイ	(トウダイグサ科)
スギナ	(トクサ科)	ナルコユリ	(ユリ科)
ススキ	(イネ科)	ナンテンハギ	(マメ科)
スベリヒユ	(スベリヒユ科)	ニガナ	(キク科)
ズミ	(バラ科)	ニシキギ	(ニシキギ科)
スマレ	(スマレ科)	ニリンソウ	(キンポウゲ科)
センニンソウ	(キンポウゲ科)	ニワトコ	(スイカズラ科)
センブリ	(リンドウ科)	ヌスビトハギ	(マメ科)
ゼンマイ	(ゼンマイ科)	ノアザミ	(キク科)
ダイオウ	(タデ科)	ノイバラ	(バラ科)
ダイコンソウ	(バラ科)	ノゲシ	(キク科)
タケニグサ	(ケシ科)	ノビル	(ユリ科)
タチツボスマレ	(スマレ科)	ノブドウ	(ブドウ科)
タチフウロ	(フウロソウ科)	ハキダメギク	(キク科)
タニウツギ	(スイカズラ科)	ハコネウツギ	(スイカズラ科)
タネツケバナ	(アブラナ科)	ハナガサギク	(キク科)
タムラソウ	(キク科)	ハハコグサ	(キク科)
タラノキ	(ウコギ科)	バライチゴ	(バラ科)
タンポポ	(キク科)	ハルジオン	(キク科)
チカラシバ	(イネ科)	ハンボンソウ	(キク科)
チゴユリ	(ユリ科)	ヒトリシズカ	(センリョウ科)
チダケサシ	(ユキノシタ科)	ヒメジョオン	(キク科)
チドメグサ	(セリ科)	ヒメトラノオ	(ゴマノハグサ科)
ツユクサ	(ツユクサ科)	ヒメハギ	(ヒメハギ科)
ツリガネニンジン	(キキョウ科)	ヒルガオ	(ヒルガオ科)

フジザクラ	(バラ科)
フタリシズカ	(センリョウ科)
フナバラソウ	(ガガイモ科)
ヘクソカズラ	(アカネ科)
ヘビイチゴ	(バラ科)
ハウチャクソウ	(ユリ科)
ホタルブクロ	(キキョウ科)
マツカゼソウ	(ミカン科)
マツムシソウ	(マツムシソウ科)
ママコノシリヌグイ	(タデ科)
ミズキ	(ミズキ科)
ミズヒキ	(タデ科)
ミミナグサ	(ナデシコ科)
ミヤコグサ	(マメ科)
ムラサキケマン	(ケシ科)
ムラサキサギゴケ	(ゴマノハグサ科)
ムラサキシキブ	(サトイモ科)
メギ	(メギ科)
モジズリ	(ラン科)
ヤクシソウ	(キク科)

ヤブガラシ	(ブドウ科)
ヤブレガサ	(キク科)
ヤマオダマキ	(キンポウゲ科)
ヤマハギ (ハギ)	(マメ科)
ヤマボウシ	(ミズキ科)
ヤマユリ	(ユリ科)
ユウガギク	(キク科)
ヨモギ	(キク科)
リュウノウギク	(キク科)
ワルナスビ	(ナス科)
ワレモコウ	(バラ科)

以前には、長瀬の周辺に、サクラソウ、ショウブ、ヤマシャクヤク、ベニバナヤマシャクヤク、クサソテツ、ヒレハリソウなどの大群落が見られたが、ダム建設に伴い、ほとんど見られなくなった。しかし、まだ一部には、ヒメハギやヌマトラノオの群落が見られる所も残っている。

野外活動センターの東側の道沿いには、カナウツギが目立つ。



マツムシソウ (マツムシソウ科)



オトギリソウ (オトギリソウ科)



タチフウロ (フウロソウ科)

(2) 人穴周辺の植物

標高 600 m から 800 m の朝霧高原の東域にあり、人穴、見返、荻平、向陽、広見地区に分けられている。この地区は広々とした牧草地、雑木林が分布し、沼や洞窟が存在するなど、変化に富んでいる。

春は、オオイヌノフグリやヒメオドリコソウが道端に咲き、林の内には、キンラン、ギンランなどを見かける。イネ科の植物が多く見られる。

以下、主な植物をあげる。

アカネ	(アカネ科)
アカメガシワ	(トウダイグサ科)
アキノウナギツカミ	(タデ科)
アキノキリンソウ	(キク科)
アキノタムラソウ	(シソ科)
アキノノゲシ	(キク科)
アケビ	(アケビ科)
アセビ	(ツツジ科)
アレチノギク	(キク科)

イタドリ	(タデ科)
イタヤカエデ	(カエデ科)
イヌガラシ	(アブラナ科)
イヌザンショウ	(ミカン科)
イヌタデ	(タデ科)
イヌツゲ	(モチノキ科)
イヌノフグリ	(ゴマノハグサ科)
イヌビユ	(ヒユ科)
イボタノキ	(モクセイ科)
イロハカエデ	(カエデ科)
ウシハコベ	(ナデシコ科)
ウツギ	(ユキノシタ科)
ウツボグサ	(シソ科)
ウバユリ	(ユリ科)
エゴノキ	(エゴノキ科)
エノコログサ	(イネ科)
エンコウカエデ	(カエデ科)
オオアワガエリ	(イネ科)
オオイヌタデ	(タデ科)
オオシマザクラ	(バラ科)
オオバコ	(オオバコ科)
オオマツヨイグサ	(アカバナ科)
オオモミジ	(カエデ科)
オカトラノオ	(サクラソウ科)
オキナグサ	(キンポウゲ科)
オトギリソウ	(オトギリソウ科)
オトコエシ	(オミナエシ科)
オヒシバ	(イネ科)
オミナエシ	(オミナエシ科)
カキドオシ	(シソ科)
カゼクサ	(イネ科)
カナムグラ	(クワ科)
カモガヤ	(イネ科)
カワラナデシコ	(ナデシコ科)
カワラマツバ	(アカネ科)

キツネノマゴ	(キツネノマゴ科)	スズメノヤリ	(イネ科)
キヌタソウ	(アカネ科)	スベリヒユ	(スベリヒユ科)
キバナアキギリ	(シソ科)	スマレ	(スマレ科)
ギボウシ	(ユリ科)	センニンソウ	(キンボウゲ科)
キランソウ	(シソ科)	センブリ	(リンドウ科)
キンミズヒキ	(バラ科)	ダイコンソウ	(バラ科)
キンラン	(ラン科)	タチツボスマレ	(スマレ科)
ギンラン	(ラン科)	タネツケバナ	(アブラナ科)
クサギ	(クマツヅラ科)	タラノキ	(ウコギ科)
クサボケ	(バラ科)	タンポポ	(キク科)
クサレダマ	(サクラソウ科)	チカラシバ	(イネ科)
クズ	(マメ科)	チゴユリ	(ユリ科)
クモキリソウ	(ラン科)	チヂミザサ	(イネ科)
クロバナエンジュ(イタチハギ)	(マメ科)	チダケサシ	(ユキノシタ科)
クロモジ	(ラン科)	ツユクサ	(ツユクサ科)
ゲンノショウコ	(フウロソウ科)	ツリガネニンジン	(キキョウ科)
コウゾリナ	(キク科)	テリハノイバラ	(バラ科)
コガマ	(ガマ科)	ドクダミ	(ドクダミ科)
コケイラン	(ラン科)	ナギナタコウジュ	(シソ科)
コケオトギリ	(オトギリソウ科)	ナズナ	(アブラナ科)
コナラ	(ブナ科)	ナンテンハギ	(マメ科)
コハウチワカエデ	(カエデ科)	ニガナ	(キク科)
コマツナギ	(マメ科)	ニリンソウ	(キンボウゲ科)
コモチマンネングサ	(ベンケイソウ科)	ネムノキ	(マメ科)
サクラソウ	(サクラソウ科)	ノイバラ	(バラ科)
シシウド	(セリ科)	ノゲシ	(キク科)
ジシバリ	(キク科)	ノダイオウ	(タデ科)
シモツケ	(バラ科)	ハウチワカエデ	(カテデ科)
シモバシラ	(シソ科)	ハキダメギク	(キク科)
シュロソウ	(ユリ科)	ハチク	(イネ科)
ジュンサイ	(スイレン科)	ハハコグサ	(キク科)
シラヤマギク	(キク科)	ハルジオン	(キク科)
シロツメクサ	(マメ科)	ヒトリシズカ	(センリョウ科)
スイカズラ	(スイカズラ科)	ヒメジョオン	(キク科)
ススキ	(イネ科)	フシグロセンノウ	(ナデシコ科)

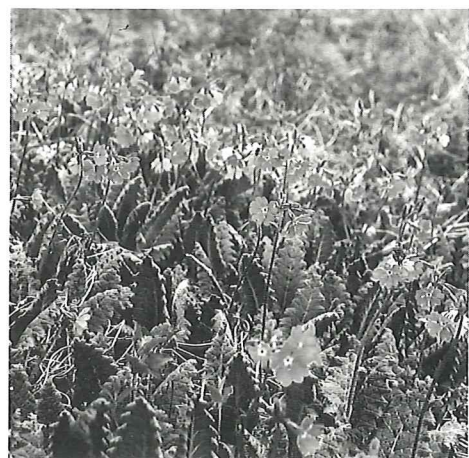
フジザクラ	(バラ科)
フタリシズカ	(センリョウ科)
ヘクソカズラ	(アカネ科)
ヘビイチゴ	(バラ科)
ハウチャクソウ	(ユリ科)
ホタルブクロ	(キキョウ科)
マツムシソウ	(マツムシソウ科)
マツヨイグサ	(アカバナ科)
ママコナ	(ゴマノハグサ科)
ミズキ	(ミズキ科)
ミズヒキ	(タデ科)
ミゾコウジュ	(シソ科)
ミツバ	(セリ科)
ミツバツチグリ	(バラ科)
ミヤコグサ	(マメ科)
ムラサキケマン	(ケシ科)
ムラサキサギゴケ	(ゴマノハグサ科)

メヒシバ	(イネ科)
モジズリ	(ラン科)
ヤクシソウ	(キク科)
ヤブガラシ	(ブドウ科)
ヤブレガサ	(キク科)
ヤマウコギ	(ウコギ科)
ヤマハギ (ハギ)	(マメ科)
ヤマユリ	(ユリ科)
ワニグチソウ	(ユリ科)
ワレモコウ	(バラ科)

牧草地以外の道端にも、カモガヤ (オーチャードグラス)、オオアワガエリ (チモシー) などが目立つ。林の中には、ニリンソウ、キツネノカミソリ、ママコナ、コケイランの群落や、ユリ科としてはめずらしいワニグチソウなどが見られる。以前には、サクラソウやオキナグサの群落があったが、乱掘によりほとんど全滅してしまった。



カワラナデシコ (ナデシコ科)



サクラソウ (サクラソウ科)



コケイラン (ラン科)

(3) 根原地区の植物

山梨県境に近い当地区には、昔ながらの、ススキが一面に生えた草原がまだ残っている。また、朝霧の名の通り、霧の出る日が多く、県内では他にあまり見られない貴重な植物の宝庫ともなっている。

a 春に見られる植物

春はスプリング・エフェメラルと呼ばれる命の短い草花たちが、コナラ、クヌギ、イヌシデなどの雑木林の下にパッと花を咲かせてすぐに消えて行く。代表的なものに、カタクリ、ヤブエンゴサク、ヒトリシズカなどがあげられる。

また、この地区特有のものとして、イチゲキスミレがある。黄色の花のスミレは日本に何種類かあるが、イチゲキスミレ以外は高山に生育するものである。このイチゲキスミレは、大昔に中国大陸から移って来たものの生き残りだと言われ、限られた場所にしか生育せず、その数も非常に少ない植物である。

以下、主な植物をあげる。

イチゲキスミレ	(スミレ科)
エイザンスミレ	(スミレ科)
カタクリ	(ユリ科)
スルガナンテンシヨウ	(サトイモ科)
タチツボスミレ	(スミレ科)
ニリンソウ	(キンポウゲ科)
ヒトリシズカ	(センリョウ科)
ヒメオドリコソウ	(シソ科)
ヤブエンゴサク	(ケシ科)

b 夏に見られる植物

根原地区は標高が1,000m近くあるので、平地と比べて気温が5°C近く低くなる。このため、6月～8月にかけて、駿河湾から入ってくる、暖かくて湿った空気が高原で冷やされて、霧がよく発生する。この霧により育つ特有の植物として、ユウスゲがあげられる。ユウスゲは、夕日が沈むころ、高さ1m～1.5mの茎の先に明りを灯すように、黄色い花をつける。暗くなりかけた空に突き出した花が、夕風にゆっくり揺れるさまは、夏の高原でなくては味わえないものである。色が黄色いのでキスゲとも呼ばれ、国道139号沿いに多く見られる。

アツモリソウは、日本産ラン科植物としては、最も大きな花をつける。以前は、この地区ではかなりの数があったが、花が美しく、それに遠くからでも目立つため乱掘され、その減り方は激しい。今では幻の花として、わずかの個体が発見されるだけである。

以下、主な植物をあげる。

アツモリソウ	(ラン科)
イタチササゲ	(マメ科)
イヌゴマ	(シソ科)
ウツボグサ	(シソ科)
オオバギボウシ	(ユリ科)
オオマツヨイグサ	(アカバナ科)
オカトラノオ	(サクラソウ科)

オトギリソウ	(オトギリソウ科)	アキノキリンソウ	(キク科)
カイジンドウ	(シソ科)	アキノタムラソウ	(シソ科)
カキラン	(ラン科)	ウメバチソウ	(ユキノシタ科)
カセンソウ	(キク科)	オケラ	(キク科)
カラマツソウ	(キンポウゲ科)	オトコエシ	(オミナエシ科)
カワラナデシコ	(ナデシコ科)	オミナエシ	(オミナエシ科)
キキョウ	(キキョウ科)	オヤマボクチ	(キク科)
ギボウシ	(ユリ科)	キキョウ	(キキョウ科)
クサレダマ	(サクラソウ科)	キセワタ	(シソ科)
ゲンノショウコ	(フウロソウ科)	クズ	(マメ科)
コウゾリナ	(キク科)	クルマバナ	(シソ科)
コオニユリ	(ユリ科)	コウリンカ	(キク科)
コマツナギ	(マメ科)	サワヒヨドリ	(キク科)
シシウド	(セリ科)	ススキ	(イネ科)
シュロソウ	(ユリ科)	センニンソウ	(キンポウゲ科)
ダイコンソウ	(バラ科)	センブリ	(リンドウ科)
タケニグサ	(ケシ科)	タムラソウ	(キク科)
タチフウロ	(フウロソウ科)	ツリガネニンジン	(キキョウ科)
チダケサシ	(ユキノシタ科)	ツルニンジン	(キキョウ科)
ツリフネソウ	(ツリフネソウ科)	ツルフジバカマ	(マメ科)
ノコギリソウ	(キク科)	ナデシコ	(ナデシコ科)
ノハナショウブ	(アヤメ科)	ヒメトラノオ	(ゴマノハグサ科)
バライチゴ	(バラ科)	ボタンヅル	(キンポウゲ科)
フジアザミ	(キク科)	マツムシソウ	(マツムシソウ科)
フナバラソウ	(ガガイモ科)	ヤクシソウ	(キク科)
ヤマホタルブクロ	(キキョウ科)	ヤマハギ (ハギ)	(マメ科)
ユウスゲ	(ユリ科)	ヤマラッキョウ	(ユリ科)
		リンドウ	(リンドウ科)
		ワレモコウ	(バラ科)

c 秋に見られる植物

高原の秋は、平地より一足早くやって来る。

「萩の花、尾花、葛花、なでしこの花、^{おみなへし}女郎花、藤袴、朝がほの花」万葉集の有名な秋の七草のうち、フジバカマだけは見つかっていない。しかし、同じ仲間によく似たヒヨドリバナがある。

以下、主な植物をあげる。

この高原は、富士火山灰土の植生であり、標高も1,000 m 近くあって、夏も霧が多く涼しい。このため種類も非常に多く、植物の貴重な宝庫と言える。他には余り見られないユウスゲ、イチゲキスミレなども保護をしたい。アツモリソウの二の舞はしたくないものである。



ユウスゲ (ユリ科)



チダケサシ (ユキノシタ科)



ヤマトラノオ (ゴマノハグサ科)



コウリンカ (キク科)

4 白糸の滝周辺の植物

猪之頭湧水に源を発する芝川には、優雅で女性的な白糸の滝、水量豊富で男性的な音止の滝がある。

白糸の滝は、1936年9月に国の名勝・天然記念物に指定されている。幅約120mで、高さ約20mの垂直の壁の上部から数えきれない程の大小の滝が白い糸を垂らしたように懸っている。

この滝の周囲には、諸種の落葉樹イヌシデ、クマシデ、コナラ、ガマズミ、アブラチャン、ダンコウバイ、ミツバウツギ、コクサギ、ノダフジ、ヒメウツギ、ウツギなどがあり、また、杉や桧の老樹が林を成している。これらの樹皮には、マメツタ、セッコク、カヤラン等が着生している。マタタビも数多く見られ、6月～7月ころは葉を白く染めている。

垂直の壁の下部は、古富士火山の活動による古富士泥流の層であり、イワギボウシ、ミツデウラボシ、ヘラシダ、イワタバコ、ネコノメソウ、ミゾソバ、カキドウシ、シャガ、セリ、キツリフネなどが見られる。また、音止の滝上部の芝川沿いには、ダイモンジソウも多く見られる。

以下、主な植物をあげる。

アカショウマ	(ユキノシタ科)
イヌザンソク	(ウラボシ科)
イヌタデ	(タデ科)
イノデ	(ウラボシ科)
イワギボウシ	(ユリ科)
イワタバコ	(イワタバコ科)
ウワバミソウ	(イラクサ科)
エンレイソウ	(ユリ科)
オオバギボウシ	(ユリ科)
オオバコ	(オオバコ科)
オオバノイノモトソウ	(ウラボシ科)
オランダガラシ	(アブラナ科)
カキドウシ	(シソ科)

カナムグラ	(クワ科)
カヤラン	(ラン科)
カラスノゴマ	(シナノキ科)
カラマツソウ	(キンポウゲ科)
カラムシ	(イラクサ科)
キツネノカミソリ	(ヒガンバナ科)
キツリフネ	(ツリフネソウ科)
キンミズヒキ	(バラ科)
クズ	(マメ科)
クモキリソウ	(ラン科)
ゲンノショウコ	(フウロソウ科)
サイハイラン	(ラン科)
サラシナショウマ	(キンポウゲ科)
シシウド	(セリ科)
シデシャジン	(キキョウ科)
シャガ	(アヤメ科)
セッコク	(ラン科)
セリ	(セリ科)
ダイコンソウ	(バラ科)
ダイモンジソウ	(ユキノシタ科)
タチシノブ	(ウラボシ科)
タマアジサイ	(ユキノシタ科)
ツユクサ	(ツユクサ科)
ツルカノコソウ	(オミナエシ科)
ドクダミ	(ドクダミ科)
トリカブト	(キンポウゲ科)
ナツノタムラソウ	(シソ科)
ニリンソウ	(キンポウゲ科)
ネコノメソウ	(ユキノシタ科)
フキ	(キク科)
フシグロセンノウ	(ナデシコ科)
ブタクサ	(キク科)
ハウチャクソウ	(ユリ科)
ホタルブクロ	(キキョウ科)
ホトトギス	(ユリ科)

マツヨイグサ	(アカバナ科)
マムシグサ	(サトイモ科)
マメヅタ	(ウラボシ科)
ミズヒキ	(タデ科)
ミゾソバ	(タデ科)
ミツバ	(セリ科)
ミヤマカタバミ	(カタバミ科)
ミヤマキケマン	(ケシ科)
ミヤマタゴボウ	(サクラソウ科)
ムカゴイラクサ	(イラクサ科)
ムシトリナデシコ	(ナデシコ科)
メヤブソテツ	(ウラボシ科)

ヤブマオ	(イラクサ科)
ヤマゼリ	(セリ科)
ヤマトソウ	(ヤマトソウ科)
ユリワサビ	(アブラナ科)
ラショウモンカズラ	(シソ科)
レンブクソウ	(レンブクソウ科)

白糸の滝の湿気がかかる老木には、数種の着生ランも見られ、川沿いには、湿地特有の植物も多い。しかし、滝の周辺は宿泊施設や売店など年々観光施設が増え、その景観が変わるとともに貴重な自然も減少している。



シャガ (アヤメ科)



キツリフネ (ツリフネソウ科)

5 北山地区の植物

当地区は、その半分近くが北東部の赤焼を中心とする山林で占められている。杉、桧の植林と雑木林が広がり、この中にはエビネ、シュンラン、クモキリソウ、ジガバチソウなどの小群落やツチアケビ、ギンリョウソウなどの珍しい植物も見られる。

また、寺院、神社には数百年を経た杉の大木が多く、これらにはカヤラン、セッコクなどの着生ランもしばしば見られる。

南西部の御園地区は、殆ど田畑で占められ、特記すべきものは見られない。

以下、主な植物をあげる。

アオマムシグサ	(サトイモ科)	クモキリソウ	(ユリ科)
アカショウマ	(ユキノシタ科)	クロモジ	(クスノキ科)
イタチササゲ	(マメ科)	ゲンノショウコ	(フウロソウ科)
ウツギ	(ユキノシタ科)	コアジサイ	(ユキノシタ科)
ウツボグサ	(シソ科)	コウゾリナ	(キク科)
ウバユリ	(ユリ科)	コゴメウツギ	(バラ科)
ウメモドキ	(モチノキ科)	コナラ	(ブナ科)
エイザンスミレ	(スミレ科)	コマツナギ	(マメ科)
エビヅル	(ブドウ科)	シオデ	(ユリ科)
エビネ	(ラン科)	シャガ	(アヤメ科)
オトギリソウ	(オトギリソウ科)	スノキ	(ツツジ科)
オヤマボクチ	(キク科)	タケニグサ	(ケシ科)
カキドウシ	(シソ科)	タチツボスミレ	(スミレ科)
ガクアジサイ	(ユキノシタ科)	タチフウロウ	(フウロソウ科)
ガマズミ	(スイカズラ科)	タツナミソウ	(シソ科)
カラスノウリ	(ウリ科)	タニウツギ	(スイカズラ科)
カラマツソウ	(キンポウゲ科)	タマアジサイ	(ユキノシタ科)
キツネノボタン	(キンポウゲ科)	タンポポ	(キク科)
キツリフネ	(ツリフネソウ科)	チゴユリ	(ユリ科)
キブシ	(キブシ科)	ツチアケビ	(ラン科)
ギボウシ	(ユリ科)	ツリフネソウ	(ツリフネソウ科)
キンミズヒキ	(バラ科)	ツルウメモドキ	(ニシキギ科)
		ツルリンドウ	(リンドウ科)
		トウダイグサ	(トウダイグサ科)
		ドクダミ	(ドクダミ科)
		トリカブト	(キンポウゲ科)
		ナツトウダイ	(トウダイグサ科)
		ナワシロイチゴ	(バラ科)
		ヌスビトハギ	(マメ科)
		ネコノメソウ	(ユキノシタ科)
		ノアザミ	(キク科)
		ハナイカダ	(ミズキ科)
		ハンショウヅル	(キンポウゲ科)
		ヒメトラノオ	(ゴマノハグサ科)
		ヒメハギ	(ヒメハギ科)

ヒヨドリバナ (キク科)
 フシグロセンノウ (ナデシコ科)
 フタリシズカ (センリョウ科)
 ホウチャクソウ (ユリ科)
 ボタンヅル (キンポウゲ科)
 ホトトギス (ユリ科)
 マタタビ (サルナシ科)
 マムシグサ (サトイモ科)
 マユミ (ニシキギ科)
 ミツバウツギ (ミツバウツギ科)
 ミツバツチグリ (バラ科)

ムラサキシキブ (クマツヅラ科)
 ヤクシソウ (キク科)
 ヤブコウジ (ヤブコウジ科)
 ヤブレガサ (キク科)
 ヤマハギ (マメ科)
 ヤマハタザオ (アブラナ科)
 ヤマブキ (バラ科)
 ヤマフジ (マメ科)
 ヤマボクチ (キク科)
 ヤマユリ (ユリ科)
 ワレモコウ (バラ科)



エビネ (ラン科)



セッコク (ラン科)



ギンリョウソウ (イチヤクソウ科)

6 上野地区の植物

当地区を北から南に流れる芝川沿いには、湿地特有の植物が見られる。その代表的なものにダイモンジソウ、イワタバコ、ホトトギスなどがあり、いずれも水の落ちる岩壁に着生している。ダイモンジソウは、ここより上流の白糸の滝付近から見られ、精進川までの流域に広がっている。

北部を占める熊久保の山林には、サイハイラン、ツレサギソウ、トンボソウなどのラン科植物をはじめ、今では数少なくなったササユリなども見られる。

また、青木方面は山林を切り開いて住宅地の造成、諸施設の建設などにより、自然環境がかなり変化している。いずれも数少なくなったが、ササユリ、エビネ、シュンラン、トンボソウなどは激減し、僅かに残っている状態である。

精進川付近は田園が広がり、10月になると、一面に真赤なヒガンバナに染められる。この様子は市内でも

随一の景観である。

以下、主な植物をあげる。

アマドコロ	(ユリ科)
イカリソウ	(メギ科)
イチヤクソウ	(イチヤクソウ科)
イワシャジン	(キキョウ科)
イワタバコ	(イワタバコ科)
ウツボグサ	(シソ科)
ウバユリ	(ユリ科)
ウマノアシガタ	(キンポウゲ科)
ウラシマソウ	(サトイモ科)
エイザンスミレ	(スマレ科)
エビネ	(ラン科)
オカトラノオ	(サクラソウ科)
カラスビシャク	(サトイモ科)
カラマツソウ	(キンポウゲ科)
カンアオイ	(ウマノスズクサ科)
キショウブ	(アヤメ科)
キチジョウソウ	(ユリ科)
キツネノカミソリ	(ヒガンバナ科)
キツリフネ	(ツリフネソウ科)
ギボウシ	(ユリ科)
キンラン	(ラン科)
ギンラン	(ラン科)
クサフジ	(マメ科)
クマガイソウ	(ラン科)
クモキリソウ	(ラン科)
コケイラン	(ラン科)
サイハイラン	(ラン科)
ササユリ	(ユリ科)
サラシナショウマ	(キンポウゲ科)
シャガ	(アヤメ科)
シュンラン	(ラン科)
ソバナ	(キキョウ科)
ダイモンジソウ	(ユキノシタ科)

タムラソウ	(キク科)	ヒトリシズカ	(センリョウ科)
チゴユリ	(ユリ科)	ヒメジョオン	(キク科)
ツクバネソウ	(ユリ科)	フシグロセンノウ	(ナデシコ科)
ツリガネニンジン	(キキョウ科)	フタリシズカ	(センリョウ科)
ツリフネソウ	(ツリフネソウ科)	ホウチャクソウ	(ユリ科)
ツルフジバカマ	(マメ科)	ホタルブクロ	(キキョウ科)
ツルボ	(ユリ科)	ホトトギス	(ユリ科)
ツルリンドウ	(リンドウ科)	マツヨイグサ	(アカバナ科)
ツレサギソウ	(ラン科)	マムシグサ	(サトイモ科)
トンボソウ	(ラン科)	ミズヒキ	(タデ科)
ナツズイセン	(ユリ科)	ミゾソバ	(タデ科)
ナルコユリ	(ユリ科)	ミヤコグサ	(マメ科)
ナンバンギセル	(ハマウツボ科)	ミヤマキケマン	(ケシ科)
ニリンソウ	(キンポウゲ科)	ムラサキサギゴケ	(ゴマノハグサ科)
ネコノメソウ	(ユキノシタ科)	メドハギ	(マメ科)
ノカンゾウ	(ユリ科)	ヤクシソウ	(キク科)
ノゲシ	(キク科)	ヤブカンゾウ	(ユリ科)
ノビル	(ユリ科)	ヤマホトトギス	(ユリ科)
ハハコグサ	(キク科)	ヤマユリ	(ユリ科)
ハルジオン	(キク科)	ヤマルリソウ	(ムラサキ科)
ハンショウヅル	(キンポウゲ科)	ユウガギク	(キク科)
ヒオウギ	(アヤメ科)	ラショウモンカズラ	(シソ科)
ヒガンバナ	(ユリ科)	リンドウ	(リンドウ科)



ダイヤモンドソウ (ユキノシタ科)



ササバギンラン (ラン科)



ササユリ (ユリ科)



ヒガンバナ (ヒガンバナ科)

7 富士根地区の植物

当地区は南北に長く、北は富士山頂から南は標高 35 m の石の宮までの高低差があるが、ここでは村山地区以南のものを記した。

この地区は、富士山の噴出物の火山灰土の上の植生であり、早くから拓かれた地区でもあるため、植林や田畑が多く、自然の原野が少ない。

この地域では、田畑の土手、林の隅、社寺の境内と、限られたところが調査の対象となった。

以下、主な植物をあげる。

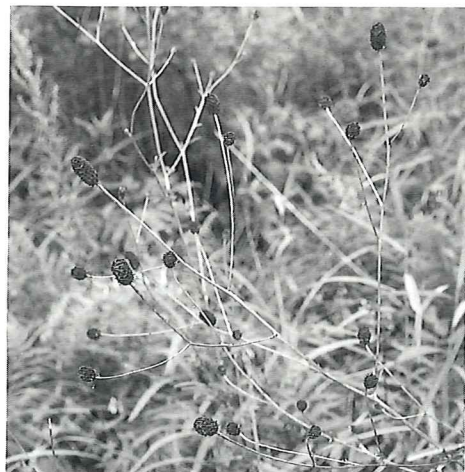
アオキ	(ミズキ科)	ウラジロ	(ウラジロ科)
アカザ	(アカザ科)	ウワバミソウ	(イラクサ科)
アカショウマ	(ユキノシタ科)	エイザンスミレ	(スミレ科)
アカメガシワ	(トウダイグサ科)	エゴノキ	(エゴノキ科)
アキノキリンソウ	(キク科)	エノコログサ	(イネ科)
アキノノゲシ	(キク科)	エビネ	(ラン科)
アケビ	(アケビ科)	オオイヌノフグリ	(ゴマノハグサ科)
アブラチャン	(クスノキ科)	オオバコ	(オオバコ科)
アマドコロ	(ユリ科)	オオバジャノヒゲ	(ユリ科)
アレチノギク	(キク科)	オオマツヨイグサ	(アカバナ科)
イタドリ	(タデ科)	オカトラノオ	(サクラソウ科)
イチヤクソウ	(イチヤクソウ科)	オカメザサ	(イネ科)
イヌガラシ	(アブラナ科)	オトギリソウ	(オトギリソウ科)
イヌゴマ	(シソ科)	オトコエシ	(オミナエシ科)
イヌタデ	(タデ科)	オドリコソウ	(シソ科)
イヌノフグリ	(ゴマノハグサ科)	オナモミ	(キク科)
イノコズチ	(ヒユ科)	オニタビラコ	(キク科)
イワタバコ	(イワタバコ科)	オヒシバ	(イネ科)
ウシハコベ	(ナデシコ科)	カキドオシ	(シソ科)
ウツギ	(ユキノシタ科)	カタクリ	(ユリ科)
ウツボグサ	(シソ科)	カナムグラ	(クワ科)
ウド	(ウコギ科)	ガマズミ	(スイカズラ科)
ウマノアシガタ	(キンポウゲ科)	カラスウリ	(ウリ科)
ウラシマソウ	(サトイモ科)	カラスノエンドウ	(マメ科)
		カラスノゴマ	(シナノキ科)
		カラスビシャク	(サトイモ科)
		カラマツソウ	(キンポウゲ科)
		カラムシ	(イラクサ科)
		カワラケツメイ	(マメ科)
		カワラマツバ	(アカネ科)
		カンアオイ	(ウマノスズクサ科)
		キケマン	(ケシ科)
		ギシギシ	(タデ科)
		キジムシロ	(バラ科)
		キツネノアザミ	(キク科)

キツネノカミソリ	(ヒガンバナ科)	サンショウ	(ミカン科)
キツネノボタン	(キンポウゲ科)	シシウド	(セリ科)
キツネノマゴ	(キツネノマゴ科)	シシガシラ	(ウラボシ科)
キツリフネ	(ツリフネソウ科)	ジシバリ	(キク科)
キブシ	(キブシ科)	シモツケ	(バラ科)
ギボウシ	(ユリ科)	シャガ	(アヤメ科)
キュウリグサ	(ムラサキ科)	ジャノヒゲ	(ユリ科)
キランソウ	(シソ科)	ジュズダマ	(イネ科)
キンミズヒキ	(バラ科)	シュロソウ	(ユリ科)
キンラン	(ラン科)	シラヤマギク	(キク科)
ギンラン	(ラン科)	シロツメクサ	(マメ科)
クサギ	(クマツヅラ科)	ジロボウエンゴサク	(ケシ科)
クサボケ	(バラ科)	スイカズラ	(スイカズラ科)
クジャクソウ	(ウラボシ科)	スイバ	(タデ科)
クズ	(マメ科)	スギ	(スギ科)
クヌギ	(ブナ科)	スギナ	(トクサ科)
クモキリソウ	(ラン科)	ススキ	(イネ科)
クリ	(ブナ科)	スズメノエンドウ	(マメ科)
クルマバナ	(シソ科)	スズメノカタビラ	(イネ科)
クロモジ	(クスノキ科)	スズメノテッポウ	(イネ科)
ゲンゲ (レンゲ)	(マメ科)	スズメノヤリ	(イグサ科)
ゲンノショウコ	(フウロソウ科)	スノキ	(ツツジ科)
コアジサイ	(ユキノシタ科)	スベリヒユ	(スベリヒユ科)
コウゾ	(クワ科)	スマレ	(スマレ科)
コウゾリナ	(キク科)	セリ	(セリ科)
コウヤワラビ	(ウラボシ科)	センニンソウ	(キンポウゲ科)
コオニタビラコ	(キク科)	ゼンマイ	(ゼンマイ科)
コゴメウツギ	(バラ科)	ダイヤモンドソウ	(ユキノシタ科)
コナスビ	(サクラソウ科)	タカサブロウ	(キク科)
コナラ	(ブナ科)	タガラシ	(キンポウゲ科)
コマツナギ	(マメ科)	タケニグサ	(ケシ科)
サクラソウ	(サクラソウ科)	タチツボスマレ	(スマレ科)
ササユリ	(ユリ科)	タツナミソウ	(シソ科)
サラシナショウマ	(キンポウゲ科)	タニウツギ	(スイカズラ科)
サルトリイバラ	(ユリ科)	タネツケバナ	(アブラナ科)

タムラソウ	(キク科)	ニシキギ	(ニシキギ科)
タラノキ	(ウツギ科)	ニョイスミレ(ツボスミレ)	(スミレ科)
タンポポ	(キク科)	ニリンソウ	(キンポウゲ科)
チガヤ	(イネ科)	ニワゼキショウ	(アヤメ科)
チカラシバ	(イネ科)	ニワトコ	(スイカズラ科)
チヂミザサ	(イネ科)	ヌスビトハギ	(マメ科)
チダケサシ	(ユキノシタ科)	ネコノメソウ	(ユキノシタ科)
チチコグサ	(キク科)	ネムノキ	(マメ科)
チドメグサ	(セリ科)	ノアザミ	(キク科)
ツバキ	(ツバキ科)	ノイバラ	(バラ科)
ツユクサ	(ツユクサ科)	ノカンゾウ	(ユリ科)
ツリガネニンジン	(キキョウ科)	ノゲシ	(キク科)
ツリフネソウ	(ツリフネソウ科)	ノコンギク	(キク科)
ツルウメモドキ	(ニシキギ科)	ノビル	(ユリ科)
ツルボ	(ユリ科)	ノブキ	(キク科)
ツルリンドウ	(リンドウ科)	ノブドウ	(ブドウ科)
テリハノイバラ	(バラ科)	ノボロギク	(キク科)
テンニンソウ	(シソ科)	ノミノフスマ	(ナデシコ科)
トウダイグサ	(トウダイグサ科)	ハコネシダ	(ウラボシ科)
トウバナ	(シソ科)	ハコベ	(ナデシコ科)
トキワハゼ	(ゴマノハグサ科)	ハナイカダ	(ミズキ科)
ドクゼリ	(セリ科)	ハルジオン	(キク科)
ドクダミ	(ドクダミ科)	ハンショウヅル	(キンポウゲ科)
トコロ	(ヤマノイモ科)	ハンノキ	(カバノキ科)
トチバニンジン	(ウコギ科)	ヒエ	(イネ科)
トリアシショウマ	(ユキノシタ科)	ヒガンバナ	(ヒガンバナ科)
トリカブト	(キンポウゲ科)	ヒトツバ	(ウラボシ科)
ナギナタコウジュ	(シソ科)	ヒトリシズカ	(センリョウ科)
ナズナ	(アブラナ科)	ビナンカズラ	(モクレン科)
ナベワリ	(ビャクブ科)	ヒノキ	(ヒノキ科)
ナルコユリ	(ユリ科)	ヒメジョオン	(キク科)
ナンテンハギ	(マメ科)	ヒメハギ	(ヒメハギ科)
ナンバンギセル	(ハマウツボ科)	ヒメヤブラン	(ユリ科)
ニガイチゴ	(バラ科)	ヒヨドリバナ	(キク科)
ニガナ	(キク科)	ヒルガオ	(ヒルガオ科)

フキ	(キク科)	ヤブマオ	(イラクサ科)
フシグロセンノウ	(ナデシコ科)	ヤブラン	(ユリ科)
フタリシズカ	(センリョウ科)	ヤブレガサ	(キク科)
フユノハナワラビ	(ハナヤスリ科)	ヤマザクラ	(バラ科)
ヘクソカズラ	(アカネ科)	ヤマシロギク	(キク科)
ヘビイチゴ	(バラ科)	ヤマツツジ	(ツツジ科)
ハウチャクソウ	(ユリ科)	ヤマトウバナ	(シソ科)
ホオコグサ	(キク科)	ヤマノイモ	(ヤマノイモ科)
ホクロ (シュンラン)	(ラン科)	ヤマホトトギス	(ユリ科)
ホタルブクロ	(キキョウ科)	ヤマユリ	(ユリ科)
ホトケノザ	(シソ科)	ヤマルリソウ	(ムラサキ科)
ホトトギス	(ユリ科)	ユウガギク	(キク科)
マツカゼソウ	(ミカン科)	ユキノシタ	(ユキノシタ科)
マツヨイグサ	(アカバナ科)	ヨメナ	(キク科)
ママコノシリヌグイ	(タデ科)	ヨモギ	(キク科)
マムシグサ	(サトイモ科)	リンドウ	(リンドウ科)
ミズキ	(ミズキ科)	ワラビ	(ウラボシ科)
ミズヒキ	(タデ科)	ワレモコウ	(バラ科)
ミゾソバ	(タデ科)		
ミツバ	(セリ科)		
ミツバアケビ	(アケビ科)		
ミツバウツギ	(ミツバウツギ科)		
ミツバツチグリ	(バラ科)		
ミミナグサ	(ナデシコ科)		
ミヤコグサ	(マメ科)		
ムラサキケマン	(ケシ科)		
ムラサキサギゴケ	(ゴマノハグサ科)		
メナモミ	(キク科)		
モジズリ	(ラン科)		
モミジイチゴ	(バラ科)		
モミジガサ	(キク科)		
ヤエムグラ	(アカネ科)		
ヤクシソウ	(キク科)		
ヤダケ	(イネ科)		
ヤブカンゾウ	(ユリ科)		

当地区は、植物の種類は多いが特殊なものが少なく、ただ、他で見うけないウラジロ、ヤダケ、オカメザサなどが見られた。エビネ、クマガイソウも昔は多く見受けたが、今はもう影を消している。



ワレモコウ (バラ科)

8 浅間大社周辺の植物

浅間大社は、その裏手を昼なお暗い老杉の森で囲まれている。この森の中には、イヌワラビ、シケシダ、クマワラビなどのシダ類や、ヤブラン、ジャノヒゲ、ヤブマオ、ツルマオなどが自生している。ツルマオは本州中部以南に多いものであるので、ここが北限と思われる。また、ホガエリガヤは少し高い山の湿潤な所に自生するもので、ここにあるのも珍しい。

境内の東には、溶岩の間から湧水が流れ出ている湧玉池がある。富士山の雪溶け水が湧出したもので、夏でも冬でもほとんど温度変化がなく、清澄である。この中にはバイカモが繁茂しており、冬でも鮮やかな緑色をしており、4月に花を咲かせているのは水温の為と思われる。この湧玉池は神田川となり、潤井川に合流しているが、その間の川底には、エビモ、セキショウモなどが育っている。昭和61年5月には、ホタルの幼虫も放流され、将来ここがホタルの里となることを願っている。

この湧玉池の近くには、オドリコソウの大群落があり、市内でも最も大きなものであると思われる。シロツメクサ、マメグンバイナズナ、ハルジオンなどの群落も見られる。

以下、主な植物をあげる。

アカソ	(イラクサ科)
イヌノフグリ	(ゴマノハグサ科)
イヌワラビ	(ウラボシ科)
オオバコ	(オオバコ科)
オドリコソウ	(シソ科)
オニタビラコ	(キク科)
カキドウシ	(シソ科)
カタバミ	(カタバミ科)
カラスノエンドウ	(マメ科)
ギシギシ	(タデ科)
キショウブ	(アヤメ科)

キツネノカミソリ	(ヒガンバナ科)
キュウリグサ	(ムラサキ科)
クサノオウ	(ケシ科)
クズ	(マメ科)
クマワラビ	(ウラボシ科)
シケシダ	(ウラボシ科)
ジャノヒゲ	(ユリ科)
シロツメクサ	(マメ科)
スイバ	(タデ科)
スズメノエンドウ	(マメ科)
スズメノテッポウ	(イネ科)
タガラシ	(キンポウゲ科)
ツユクサ	(ツユクサ科)
ツルマオ	(イラクサ科)
ドクダミ	(ドクダミ科)
ニワゼキショウ	(アヤメ科)
ネジバナ	(ラン科)
ノゲシ	(ハルノノゲシ科)
ハコベ	(ナデシコ科)
ハハコグサ	(キク科)
ハルジオン	(キク科)
ヒメジョオン	(キク科)
ヒルガオ	(ヒルガオ科)
ヘビイチゴ	(バラ科)
ホガエリガヤ	(イネ科)
マツヨイグサ	(アカバナ科)
ムラサキサギゴケ	(ゴマノハグサ科)
ヤエムグラ	(アカネ科)
ヤブガラシ	(ブドウ科)
ヤブマオ	(イラクサ科)
ヤブラン	(ユリ科)

オドリコソウの群落の草地は、現在本州製紙の管理下に有り、金網で回りを囲っているため増えつつある。市内では他に見られない群落なので是非大切にしたいところである。



オドリコソウ (シソ科)



クサノオウ (ケシ科)

9 沼久保周辺の植物

当地区は、大きく安居山と沼久保の二つに分かれる。富士宮市域の南部に位置し、川あり山あり竹林ありと変化に豊み、植物の種類も多い。フキやキブシなどの早春の植物から、同じ場所で観察できるイチリンソウとニリンソウ、リュウノウギク等晩秋までいろいろな花が楽しめる。以前には、3月24日～25日ころ花が見られたカタクリの群落が、野草ブームにより乱掘され、今では全滅状態である。

以下、主な植物をあげる。

アオмамシグサ	(サトイモ科)
アカザ	(アカザ科)
アカソ	(イラクサ科)
アカネ	(アカネ科)
アカメガシワ	(トウダイグサ科)
アキノタムラソウ	(シソ科)
アマチャズル	(ウリ科)

アメリカセンダングサ	(キク科)
アヤメ	(アヤメ科)
アレチマツヨイグサ	(アカバナ科)
イカリソウ	(メギ科)
イチリンソウ	(キンポウゲ科)
イヌガラシ	(アブラナ科)
イヌタデ	(タデ科)
ウルシ	(ウルシ科)
エノキ	(ニレ科)
エノコログサ	(イネ科)
オオニシキソウ	(トウダイグサ科)
オオバギボウシ	(ユリ科)
オケラ	(キク科)
オトコエシ	(オミナエシ科)
オトコヨモギ	(キク科)
オドリコソウ	(シソ科)
オナモミ	(キク科)

カタバミ	(カタバミ科)	ツユクサ	(ツユクサ科)
カナムグラ	(クワ科)	ツリガネニンジン	(キキョウ科)
ガマズミ	(スイカズラ科)	ツルニンジン	(キク科)
カラスノエンドウ	(マメ科)	ツルフジバカマ	(マメ科)
カラマツソウ	(キンポウゲ科)	ドクウツギ	(ドクウツギ科)
カワラヨモギ	(キク科)	ドクダミ	(ドクダミ科)
カンアオイ	(ウマノスズクサ科)	トリアシショウマ	(ユキノシタ科)
ギシギシ	(タデ科)	ナツトウダイ	(トウダイグサ科)
キツネアザミ	(キク科)	ナワシロイチゴ	(バラ科)
キツネノボタン	(キンポウゲ科)	ナンテンハギ	(マメ科)
キンシバイ	(オトギリソウ科)	ニガナ	(キク科)
キンミズヒキ	(バラ科)	ニワゼキショウ	(アヤメ科)
クサソテツ	(ウラボシ科)	ニワトコ	(スイカズラ科)
クズ	(マメ科)	ノアザミ	(キク科)
クマヤナギ	(クロウメモドキ科)	ノイバラ	(バラ科)
コウゾ	(クワ科)	ノカンゾウ	(ユリ科)
コウゾリナ	(キク科)	ノゲシ (ハルノノゲシ)	(キク科)
コゴメウツギ	(バラ科)	ノブドウ	(ブドウ科)
コモチシダ	(ウラボシ科)	ノリウツギ	(ユキノシタ科)
サクラタデ	(タデ科)	ハナイカダ	(キク科)
サルトリイバラ	(ユリ科)	ハハコグサ	(キク科)
サンショウ	(ミカン科)	ハルジオン	(キク科)
シオデ	(ユリ科)	ヒメジョオン	(キク科)
ジシバリ	(キク科)	ヒメスイバ	(タデ科)
スイカズラ	(スイカズラ科)	ヒヨドリバナ	(キク科)
スイバ	(タデ科)	フタリシズカ	(センリョウ科)
スズメウリ	(ウリ科)	フユイチゴ	(バラ科)
スズメノエンドウ	(マメ科)	ヘクソカズラ	(アカネ科)
センダングサ	(キク科)	ベニバナボロギク	(キク科)
センニンソウ	(キンポウゲ科)	ホウチャクソウ	(ユリ科)
タチイヌノフグリ	(ゴマノハグサ科)	ママコノシリヌグイ	(タデ科)
タツナミソウ	(シソ科)	ミゾソバ	(タデ科)
タビラコ	(キク科)	ミナモトソウ	(バラ科)
タンポポ	(キク科)	メドハギ	(マメ科)
チガヤ	(イネ科)	ヤクシソウ	(キク科)

ヤハズソウ	(マメ科)
ヤブウツギ	(スイカズラ科)
ヤブガラシ	(ブドウ科)
ヤブカンゾウ	(ユリ科)
ヤブミョウガ	(ツクサ科)
ヤブタバコ	(キク科)
ヤブマオ	(イラクサ科)
ヤブレガサ	(キク科)

ユキノシタ	(ユキノシタ科)
ヨモギ	(キク科)
リュウノウギク	(キク科)

この付近では、他の地域であまり見られなくなった比較的古い地層に多いイカリソウやカンアオイが観察できる。また、川原の植物であるオオニシキソウやカワラヨモギが見られるなどの特徴がある。



イカリソウ (メギ科)



イチリンソウ (キンポウゲ科)



ニリンソウ (キンボウゲ科)



カンアオイ (ウマノスズクサ科)

10 白尾山付近の植物

星山丘陵北西端に近い白尾山は、近年公園として整備され、運動場やショウブ園が設けられた。富士宮ゴルフ場の方から車で来ると山頂までわずかの時間である。ここからは富士山、市街地、さらに富士市方面の眺望が美しい。

市制40周年記念の植樹も多く、桜の花の時期は美しい。植物の観察には、むしろ大泉寺側から登って来る方が、種類も多くおもしろい。

以下、主な植物をあげる。

アオмамシグサ	(サトイモ科)
アキノタムラソウ	(シソ科)
アレチマツヨイグサ	(アカバナ科)
ウラシマソウ	(サトイモ科)
ウルシ	(ウルシ科)
オトギリソウ	(オトギリソウ科)
オトコヨモギ	(キク科)

カキドオシ	(シソ科)
カニクサ	(カニクサ科)
ガマズミ	(スイカズラ科)
カラムシ	(イラクサ科)
ガンクビソウ	(キク科)
ギボウシ	(ユリ科)
キンミズヒキ	(バラ科)
クサギ	(クマツヅラ科)
クズ	(マメ科)
クララ	(マメ科)
クロモジ	(クスノキ科)
コオニユリ	(ユリ科)
コマツナギ	(マメ科)
サジガンクビソウ	(キク科)
サルトリイバラ	(ユリ科)
シャガ	(アヤメ科)
シュロソウ	(ユリ科)

シラヤマギク	(キク科)	ヒメヤブラン	(ユリ科)
ススキ	(イネ科)	ヒヨドリバナ	(キク科)
ゼンマイ	(ゼンマイ科)	フユイチゴ	(バラ科)
タラノキ	(ウコギ科)	ヘクソカズラ	(アカネ科)
タンポポ	(キク科)	ホトトギス	(ユリ科)
ツリガネニンジン	(キキョウ科)	マツカゼソウ	(ミカン科)
ツルボ	(ユリ科)	マムシグサ	(サトイモ科)
トウダイグサ	(トウダイグサ科)	マユミ	(ニシキギ科)
トウワタ	(ガガイモ科)	メドハギ	(マメ科)
ドクダミ	(ドクダミ科)	モミジイチゴ	(バラ科)
トリアシショウマ	(ユキノシタ科)	ヤブコウジ	(ヤブコウジ科)
ニガナ	(キク科)	ヤブミョウガ	(ツユクサ科)
ノカンゾウ	(ユリ科)	ヤブラン	(ユリ科)
ノゲシ(ハルノノゲシ)	(キク科)	ヤマツツジ	(ツツジ科)
ノボロギク	(キク科)	ヤマノイモ	(ヤマノイモ科)
ハハコグサ	(キク科)	ヤマユリ	(ユリ科)
ヒキヨモギ	(ゴマノハグサ科)	ヨメナ	(キク科)
ヒメジョオン	(キク科)		



ウラシマソウ (サトイモ科)



ナルコユリ (ユリ科)



キブシ (キブシ科)



ヤマユリ (ユリ科)

11 明星山付近の植物

^{たかはら}高原から黒田、野中に連なる星山丘陵地帯は、近年住宅地として開発され、人口急増地域となっている。こうした土地柄、明星山や白尾山などには、わずかに草原が残されているに過ぎない。これらの山頂付近は公園となっていて、毎年下草刈りが行われ、草花は辛うじて生育している。多くの草は花や種子をつける前に刈り取られ、再度芽を伸ばして種子をつけることができない。

こうした公園内では、区画を限って秋まで草を刈らない場所を設け、その土地の植物を保護して観察できるようにすることが望ましい。

特に、夏の草刈りは秋に花をつける植物にとって、根絶につながる恐れがある。

この草原には、スズサイコ、コガンピ、キキョウ、タムラソウ、オミナエシ、コオニユリ、ワレモコウ、ヒキヨモギ、シラヤマギクなどの、夏から秋にかけて

草原を飾る草花が多い。

以下、主な植物をあげる。

アカネ	(アカネ科)
アケビ	(アケビ科)
ウツギ	(ユキノシタ科)
ウツボグサ	(シソ科)
オカトラノオ	(サクラソウ科)
オミナエシ	(オミナエシ科)
カセンソウ	(キク科)
キキョウ	(キキョウ科)
ギボウシ	(ユリ科)
コアジサイ	(ユキノシタ科)
コガンピ	(ジンチョウゲ科)
コゴメウツギ	(バラ科)
ジャノヒゲ	(ユリ科)
スズサイコ	(ガガイモ科)
タムラソウ	(キク科)
ツバキ	(ツバキ科)

ツユクサ	(ツユクサ科)	ミヤマハンショウヅル	(キンポウゲ科)
ツリバナ	(ニシキギ科)	ムラサキシキブ	(クマツヅラ科)
ナツトウダイ	(トウダイグサ科)	ヤブレガサ	(キク科)
ナルコユリ	(ユリ科)	ヤマハギ	(マメ科)
ニッケイ	(クスノキ科)	ヤマブキ	(バラ科)
ハナイカダ	(ミズキ科)	ヤマユリ	(ユリ科)
ハウチャクソウ	(ユリ科)	ユキノシタ	(ユキノシタ科)
ホタルブクロ	(キキョウ科)	ワラビ	(ウラボシ科)
ミツバ	(セリ科)	ワレモコウ	(バラ科)
ミツバアケビ	(アケビ科)		



オケラ (キク科)



キキョウ (キキョウ科)

12 ^{あんもやま}天母山付近の植物

天母山は、桜の花が美しいことでよく知られている。市街地の桜の花が終って、5日～7日位後が開花期である。東側の斜面一帯は、天母山自然公園として整備され、遊歩道や遊具もあり、遠足にも適した場所である。

遊園地の東側には、草原が保護されている。この付近は、四季折々の草花が咲き乱れるので、自然観察には格好の場所である。

以下、主な植物をあげる。

アキグミ	(グミ科)
アキノウナギズル	(タデ科)
アキノキリンソウ	(キク科)

アキノタムラソウ	(シソ科)	チガヤ	(イネ科)
ウツボグサ	(シソ科)	チカラシバ	(イネ科)
ウメバチソウ	(ユキノシタ科)	チダケサシ	(ユキノシタ科)
オカトラノオ	(サクラソウ科)	ツリガネニンジン	(キキョウ科)
オガルカヤ	(イネ科)	ツルニンジン	(キキョウ科)
オケラ	(キク科)	トウゲシバ	(ヒカゲノカズラ科)
オトギリソウ	(オトギリソウ科)	ナギナタコウジュ	(シソ科)
オトコエシ	(オミナエシ科)	ナツトウダイ	(トウダイグサ科)
オトコヨモギ	(キク科)	ナンテンハギ	(マメ科)
オニシバリ	(ジンチョウゲ科)	ニワゼキショウ	(アヤメ科)
オミナエシ	(オミナエシ科)	ノコンギク	(キク科)
カセンソウ	(キク科)	ノダケ	(セリ科)
カラタチバナ	(ヤブコウジ科)	ハグロソウ	(キツネノマゴ科)
カワラマツバ	(アカネ科)	ハハコグサ	(キク科)
キッコウハグマ	(キク科)	ヒメガンクビソウ	(キク科)
キツネノマゴ	(キツネノマゴ科)	ヒメジソ	(シソ科)
キバナガンクビソウ	(キク科)	ヒメジョオン	(キク科)
ギボウシ	(ユリ科)	ヒメヤブラン	(ユリ科)
キンミズヒキ	(バラ科)	ヒヨドリバナ	(キク科)
クサボケ	(バラ科)	フユノハナワラビ	(ハナヤスリ科)
クワクサ	(クワ科)	ヘクソカズラ	(アカネ科)
コウゾリナ	(キク科)	マツムシソウ	(マツムシソウ科)
コオニユリ	(ユリ科)	マンリョウ	(ヤブコウジ科)
コシオガマ	(ゴマノハグサ科)	ミズギボウシ	(ユリ科)
コマツナギ	(マメ科)	ミヤコアザミ	(キク科)
サルトリイバラ	(ユリ科)	メガルカヤ	(イネ科)
シオデ	(ユリ科)	メギ	(メギ科)
シュロソウ	(ユリ科)	メドハギ	(マメ科)
シラヤマギク	(キク科)	モジズリ	(ラン科)
スズサイコ	(ガガイモ科)	ヤクシソウ	(キク科)
センブリ	(リンドウ科)	ヤマシロギク	(キク科)
ゼンマイ	(ゼンマイ科)	ヤマトウバナ	(シソ科)
センリョウ	(センリョウ科)	ヤマハギ	(マメ科)
タチフウロ	(フウロソウ科)	ヤマラッキョウ	(ユリ科)
タムラソウ	(キク科)	ワレモコウ	(バラ科)



タムラウ (キク科)



クサボケ (バラ科)



コシオガマ (ゴマノハグサ科)

III 保護を必要とする植物

1 絶滅した植物

●カワモズク ナガマツモ科

星山地区を流れ、富士川に入る川の岸辺や川石に、褐色をした川藻がついているのを以前よく見かけた。これが「カワモズク」である。長さが10 cm以下で太さが0.5 mm程、粘質に富み、手に握るとぬるぬるしていて指の間から出てしまう。

土地の人は、「頼朝公の素麺」と呼び、これを採ってよく洗い、酢醤油で味をつけて食べたと言う。

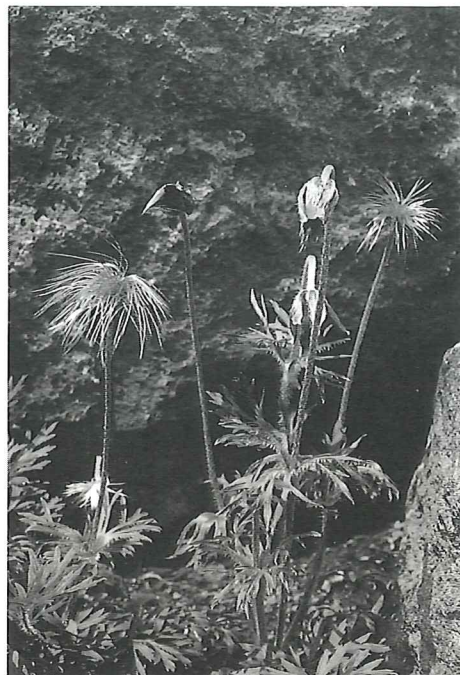
このカワモズクも、星山の放水路ができてから姿を消してしまった。またいつの日か、自生することを願っているがまだ見当たらない。

これと同じものを、八景台とゴルフ場の間を流れる谷川でも確認しているが、昭和35年ころはこの川の周囲にも水田があり、今の荒れ果てた様とは大変異なっていた。

●オキナグサ キンポウゲ科

富士宮地方では、「おきなぞ」と呼ばれている多年生の植物である。昔は明星山にも多く見られたが、なぜか今は一株もない。20年前には、上井出一の竹集落でよく見かけた。しかし、今はそれさえなくなっている。昭和54年ころ、西富士中学校北の河原に群落を見つけたが、乱掘によりそれから3年目には、1本もなくなってしまった。

この植物は、繁殖力が旺盛で砂地でも良く育つものだが、もう自生しているものは見うけられない。



オキナグサ (キンポウゲ科)

●アツモリソウ ラン科

天子ヶ岳の茅山に見られたアツモリソウは、心ない人達によって乱掘され姿を消した。現在では、一部の家の庭に姿をとどめているに過ぎない。

天子ヶ岳のアツモリソウは、「幻の花」という言葉に惑わされ、多く採集した事を自慢している人達によって、絶滅したと言ってよい。



アツモリソウ (ラン科)

●アズマツリガネツツジ ツツジ科

富士宮市では、ムラサキツリガネとかハコネツリガネと呼んで珍重されている。葉の裏面が白く両面に毛がある。つり鐘状で、濃い赤紫色の美しい花を咲かせる。

富士山富士宮口登山道旧二合目付近に群落をなしていたものは、商売を目的として乱掘されてしまったと思われる。

2 減少している植物

減少している植物は多くあるが、特に目につくものとして次のようなものがある。

- クマガイソウ ラン科
- エビネ ラン科
- ホクロ (シュンラン) ラン科
- コケイラン ラン科
- ササユリ ユリ科

- サクラソウ サクラソウ科
- ミツバツツジ ツツジ科
- レンゲツツジ ツツジ科
- カキラン ラン科

以上は開発及び杉、桧の植林により植生地を失い、また、乱掘により個体数が激減した。

3 保護を必要とする植物

●富士宮口登山道宝永遊歩道の植物

盛夏、富士宮口登山道新五合目を訪れると、必ず高山植物を手にしてしている人に会う。何の気もなく美しいから採った人、子供の夏休みの宿題にと一握りしている人、また、遠くから来た記念にと……。

これらの人々は、クルマユリ、メイゲツソウ、グンナイフウロ、ムラサキモメンズル、コケモモ等の、高山植物の美しさに惹かれ、また、珍しさに誘われてしまい、国立公園内の植物を採ることに少しも罪の意識を持っていない。この遊歩道の植物を現状のまま放置するならば、近い将来、絶滅もしくは激減に至ると思われる。



コケモモ (ツツジ科)

●カタクリ

ユリ科

白糸地区半野西方の、大倉川右岸に、大群落をつくっていたカタクリは、大倉ダム貯水による水没で、全く消滅した。沼久保地区では、足の踏み場もない程あったカタクリが、乱掘と桧の植林によって姿を消し、高原地区も桧の成長による日陰のために消えた。富士根北中学校南の雑木林のカタクリは、今乱掘の憂き目にあっている。

ただ、猪之頭地区に二箇所、保護された所があるだけである。カタクリは、いつまでも残したい春を告げる植物である。

●スルガジョウロウホトトギス

ユリ科

この植物が丹沢奥で見つかった時、新聞で「幻の花発見」と報道された。この植物は暑さに弱い、山草家にとっては垂涎の的である。富士宮市域では、この植物を自然のまま放置してあるが、植生地域を保護の対象にし、採集の全面禁止をしないと、将来残存保護が難しいのではないかとと思われる。数が少なく、貴重な植物である。

●ミツガシワ

ミツガシワ科

田貫湖西岸のごく一部に、小さい群落をつくっている。ここは、釣人に踏まれないように、ボランティアが柵を作り保護に立ちあがった。

このミツガシワは、氷河時代に高山や寒い地域から移動してきたものが、氷河期が終わり、暖かくなって取り残されたもので、氷河期の遺物といわれている。

田貫湖は、県内で数少ない自生地であるので、大切に守っていききたい。

●イワカガミ

イワウメ科

富士宮市域で見られる群落は、井之頭中学校の付近にあるが、毎年減少している。

●ヒメイワカガミ

イワウメ科

天子ヶ岳の岩場に、数は少ないが辛うじて生えている。

●ゴヨウツツジ

ツツジ科

天子ヶ岳、長者ヶ岳に多く見られるこのツツジはシロヤシオと呼ばれ珍重されている。

現地へ行くと掘り採った跡がみられる。このままでは、次第に減少するのではないかとと思われる。

●イチゲキスミレ

スミレ科

黄色い花のスミレは、日本に何種類かあるが、イチゲキスミレ以外は、高山に自生するものばかりである。

この種は九州、四国、中国、東海地方に分布しているが、限られた場所にしか生育せず、その数も非常に少ない。この花は、大古に中国大陸から移って来たものの生き残りと言われている。

田貫湖畔から人穴北部にかけて自生しているが、牧草地の造成等で自生地を追われている現状である。

●シラヒゲソウ

ユキノシタ科

猪之頭の山ひだに小さい群落を作り、やっと自生しているが、これも開発で消えてしまうかもしれない。

滋賀県^{たながみ}太神山は、昔、奈良の都で仏像を鑄造するためなどに、山の木を伐り、裸山にしてしまった。千二百年経った今でさえ、この山は裸同様の姿をさらしている。これを考えると、絶滅同様にしてしまった植物が、いつ元通りになるかは、想像がつかない。

カンアオイは、1m²広がるのに千年かかると言われ、ミツガシワは氷河時代から生き続けて来たものだと言われている。今後も現状のままなら、これ等の植物は、子に孫に残し伝えられるであろうが、心ない人の欲や、エゴによって、減少から消滅への道をたどるのは、現代人にとって大変恥しいことである。

これからも、開発や汚染が植生を侵害することは起こり得る現象だと思うが、人間の英知をもって、最大の努力をするならば、最少の被害で済み、植物を絶滅から回避できるのではないかと思われる。

む す び

我々は、自然生態系と人文生態との座標上に生活を構えているが、近年、産業経済及び情報文化などの発展は、加速度的に進み、両者の関係に、跛行現象が現れている。加えて、開折期に入った富士山の地形変化

と、小さきみな植物遷移、自然林や原野の減少など、自然保全上の問題点は、枚挙にいとまがない。

このような、現状認識にたつて、次の各項を提言する。

提 言

- 1 自然は、私達が文化的、健康的な生活を営むための、最高の公共財産である。自然生態系の保全は、全生物固有の基本的権利を守ることであり、もの言わぬ生物の代理人として、この自然権を守る憲章を定め、自然保護思想の普及に努力しなくてはならない。
- 2 富士山及び天子山脈における原生自然環境の保全地域を指定し、十分な保護措置を講ずるとともに、

国有林野事業との連携を図る。

- 3 絶滅の危機に頻する種の保護法（条例規則等）を制定し、この種の採取等に関する行為を禁じ、市民共同の監視下におくこと。

また、監視員を配置し、指導及び情報の収集等を行わせる。

- 4 自然環境の保全を経済発展に調和させるという行政の退行理論ではなく、また、開発の是非を政治的

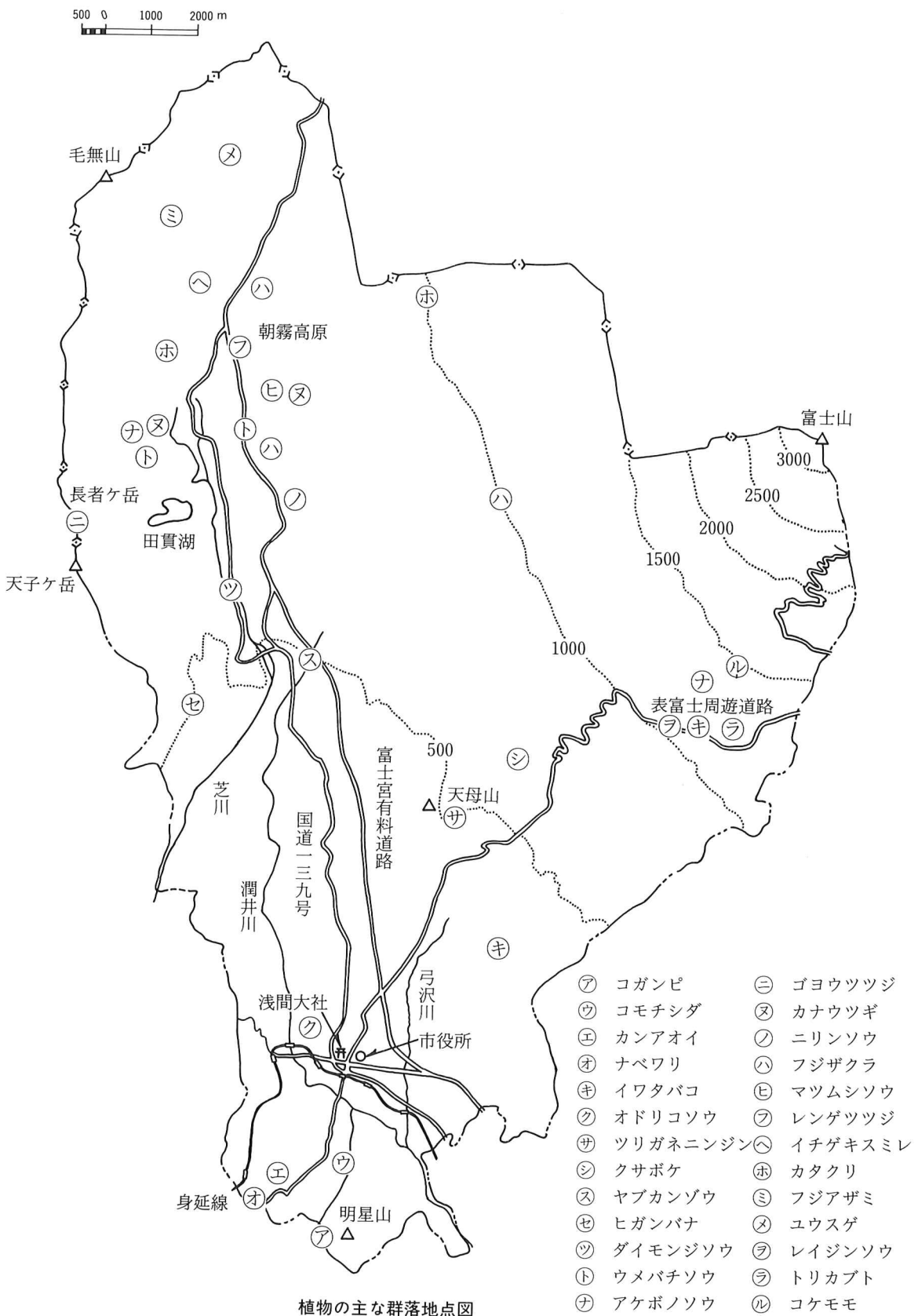
応酬の次元で処理することなく、評価、公開、住民参加の三原則で、十分なアセスメントを実施し、自然環境の保全を最優先させなければならない。

5 現在、自然保護運動は、積極的な市民参加による

運動に発展する契機を迎えている。これをさらに推進するためには、教育を重視しなくてはならないので、教育の場における必要な教材を用意することを望む。

参 考 文 献

- 1 牧野富太郎 (1974) : 学生版 牧野日本植物図鑑 北隆館
- 2 長田武正 (1972) : 日本帰化植物図鑑 北隆館
- 3 富田忠夫 (1979) : 野外ハンドブック・7 樹木 2 山と溪谷社
- 4 武田久吉・田辺和雄 (1961) : 学生版 日本高山植物図鑑 北隆館
- 5 清水 清 (1977) : 富士山の植物 東海大学出版会
- 6 遠藤庄三 (1967) : 静岡県植物誌 図書印刷
- 7 牧野富太郎 (1961) : 牧野新日本植物図鑑 北隆館
- 8 鈴木泰二 (1983) : 学研生物図鑑 野草 I (双子葉類) 学習研究社
- 9 奥山春季 (1957) : 原色日本野外植物図譜 1 誠文堂新光社
- 10 北村四郎・村田 源・小山鉄夫 (1964) : 原色日本植物図鑑草本編III 保育社
- 11 石戸 忠 (1979) : 原色野外植物検索図鑑 高山 全教図
- 12 鈴木泰二 (1983) : 学研生物図鑑 海藻 学習研究社



あ と が き

昭和 59 年に発足した富士宮市域自然調査研究会は、地形・地質部会 6 名、気象部会 5 名、動物部会 13 名(部会長は、気象部会長を兼務)、植物部会 5 名の計 29 名により組織されている。各調査研究員は、市内の小中学校に勤務する先生方が中心の、在野の自然科学者であり、調査研究は、仕事のあい間を有効に利用して行われた。調査研究開始時は、広大な市域のどこから、何から手を付けるべきか等、当惑することが多く、素人調査と同様であったが、時を経るごとに体系的に進めることができた。

この 3 年間の調査研究において、多くの重要な結果を見い出せたことは、富士宮市の自然を科学的に究明するひとつのステップになると考える。また、県内における富士山麓唯一の湿原である小田貫湿原が、市内外の注目を集め、ここに生息する貴重なトンボ類・蝶類・植物類の保護を早急に行うべきだという気運が高まってきたこと、市内各地でカタクリの保護地が設置されるなど自然保護思想が普及してきたことは、調査研究を進める上で、私をはじめ各調査研究員の大きな励みとなった。

今後、この調査研究を長期間継続して行うことが、“富士宮市の自然について、市民の方々がより詳しく知り、市民一人ひとりに豊かな自然を守る心が育み、将来にわたって自然と調和のとれた富士宮市である”ための一助となれば幸いである。

終わりに、調査研究にあたり積極的なご協力をいただいた市当局の方々、貴重な資料を提供して下さった皆様に厚くお礼申し上げます。

昭和 63 年 3 月

富士宮市域自然調査研究会 会長 佐 野 登

富士宮市域自然調査研究会研究員名簿

(○印 部会長)

会 長	佐 野 登		
副 会 長	日 原 章	加 納 實	
特 別 研 究 員	小 川 賢 之 輔		
顧 問	塩 川 隆 司		
地形・地質部会	○加 納 實	遠 藤 英 雄	
	植 松 征 矢	惟 村 勝	
	小 林 睦	小 川 賢 之 輔	
動 物 部 会	○日 原 章		
	渡 辺 徳 重	野 沢 孝 満	
	阿 部 英 雄	影 山 秀 雄	
	神 田 幸 作	山 本 満	
	長 美 夫	鹿 倉 知 美	
	石 川 邦 憲	池 田 勝 俊	
	石 川 鐵 夫	城 内 博 司	
気 象 部 会	○日 原 章		
	花 井 延 三	斉 藤 好	
	木 下 富 之	佐 野 幸 弘	
植 物 部 会	○佐 野 登		
	渡 辺 直 亨	朝 比 奈 典 夫	
	小 林 久 男	佐 野 光 雄	

富士宮市事務局職員名簿

笠 井 賢 一	増 田 英 夫
佐 野 文 紀	石 川 猛
戸 嶋 光 璋	大 久 保 公 雄
平 石 英 明	深 沢 秀 人

富士宮市の自然

第一次富士宮市域自然調査研究報告書

発行 富士宮市

静岡県富士宮市元城町1番1号
電話〈0544〉27-311(代)

監修 富士宮市域自然調査研究会

編集 富士宮市企画部企画振興課

印刷 黒船印刷株式会社
静岡県静岡市登呂2丁目10番8号
電話〈0542〉86-0236(代)

発行日 昭和63年3月31日

